

ISSN 2189-9290

The University of Aizu
Center for Cultural Research and Studies
Annual Review No.27, 2020

会津大学文化研究センター
研 究 年 報

第 2 7 号
2020



会津大学

2021年3月 発行

目 次

	Page
巻頭言	
・“新しい風”に乗って ―2020年度活動報告―	苅間澤 勇人 1
論文	
・体育実技におけるオンライン講義と対面講義の学習効果比較	沖 和砂・中澤 謙 5
・2020年度会津大学新入生の生活と意識1 ―基礎集計―	蛭名 正司・沖 和砂・中澤 謙 11
・2020年度会津大学生の生活と意識1 ―基礎集計―	沖 和砂・蛭名 正司・中澤 謙 35
・体育実技科目における授業の再設計過程 ～新型コロナウイルス感染症への対応～	中澤 謙・沖 和砂 93
・湿度に関する問題解決の促進・抑制要因の検討 ―中学校の理科授業を対象として―	蛭名 正司・小野 耕一 101
・コロナ禍における学生支援に関するエスノグラフィ ―会津大学教職員による学生への食料品支援を例に―	池本 淳一 115
研究・教育・活動報告	
・網谷 祐一	141
・池本 淳一	142
・蛭名 正司	143
・沖 和砂	144
・苅間澤 勇人	145
・小暮 克夫	146
・清野 正哉	147
・中澤 謙	148

【巻頭言】“新しい風”に乗って

—2020年度活動報告—

文化研究センター長 荻間澤勇人

ここ数年、文化研究センターの変化が続いています。2020年度も大きな変化がありました。長谷川弘一先生が定年退職され、その後任に沖和砂先生が着任されました。持ち前の明るさで本センターに“爽やかな新風”を運んでくれました。その風に乗って本センターの変化が加速しました。その変化を、研究活動、教育活動、学内貢献に分けて示します。

まずは、研究活動です。宮崎敏明先生が学長になられ、研究クラスターを設けること、基礎研究費を変更することを打ち出し、大学の研究能力を高める方針を明確にされました。それを受けて、本センターでは教官が共同で行う研究計画を立てて、「福島県学術研究助成金」に応募しました。一方で、教官毎には、網谷先生が博士論文に係わる論文をまとめて「種を語ること、定義すること 種問題の科学哲学」（勁草書房）を出版されました。おめでとうございます。また、沖先生が科研費に応募されました。採択を願っています。

つぎに、教育活動です。本センター全教官の協力の下、「アカデミック・スキル1」をZoomによるオンライン授業で実施しました。新入生のオンライン環境が整っていないことに配慮して、講堂で授業を行い、それをZoomで配信しました。また、授業に先立って、Zoomのインストール方法等の指導を行い、大学における今後の学びへの支援も行いました。

「アカデミック・スキル2」を第4期に開講しました。例年は第2期の開講でしたが、基礎知識が不足した状態では主張をまとめられないと考えて、第2期と第3期に教養科目を受講して、その学びを生かして論文作成に取り組むというねらいでした。現在、その成果について検討中ですが、「論文になっていない学生やグループがあった」という報告があり、「アカデミック・スキル1」を十分に学んでいなかったのではないかと考えられました。今後もコロナ禍が続くと思われしますので、オンライン授業でどのようにして「アカデミック・スキル1」の学びを深めていくのが課題です。

続けて、学内貢献です。2月頃から新型コロナウイルス感染が拡大し、3月には緊急事態宣言が発出され、全国民が自粛生活を余儀なくされました。保護者の収入減やアルバイトの縮小などによって生活の厳しい学生が増えました。大学に米やラーメン、缶詰、インスタント食品などの食料物資が届けられました。池本先生を中心に本センターの先生方が物資の配給に尽力されました。この取り組みは、教授会において写真入りで紹介されました。

最後に、2020年度を振り返ると、上記のとおり、本センターに期待されることに十分に応えたと思いま

す。2021年度もコロナ禍が続き、その影響が大きいと予想されます。今後、「アカデミック・スキル1」のテキスト作成や、各教官が指導する卒業論文の学生数が大幅に増加するなど、本センターに期待されることが多くあると思いますが、全教官が協力し合い、“爽やかな新風”に乗ったままで変化に対応していきたいと思います。

研 究 論 文

体育実技における オンライン講義と対面講義の学習効果比較

沖 和砂・中澤 謙

1. はじめに

中国武漢で発生したと言われる新型コロナウイルス感染症は、2020年に入り、日本国内でも感染者が増加した。国内における感染対策として、「換気の悪い密閉空間」、「大勢いる密集場所」、「間近で会話する密接場面」の「3つの密」を避けること⁴⁾が要請された。また、各地域の感染状況が異なることから、その他の対策や緊急事態宣言の期間、内容等については、各自治体に一任されることとなった。その中で、某自治体は、2020年4月26日から5月6日までの期間、不要不急の外出を自粛すること、県外からの転入してきた方に関し、2週間の不要不急の外出を控えること、生活維持に必要なものを除くイベントを全て自粛すること等が知事より命じられた。日本国内での感染が確認されてから約1年が経った現在においても、全国的に病床の確保が困難となり、緊急事態宣言が再度発令された地域もある。

このような状況下で、教育現場の在り方が一変し、特に大学教育においては、2020年度の講義を全てオンライン（遠隔）で実施する大学がほとんどであった。しかし、一部の臨床実験や教育実習、演習等は、対面で実施するケースもみられた。比較的感染者が少ない東北地域の大学では、4月から対面講義を実施し、緊急事態宣言期間中は、オンライン（遠隔）講義という2本立てで対応した例もある。大学での体育実技は、臨床実験、教育実習、演習同様に、対面で実施することにより、学習効果を得られる科目である。全国大学体育連合の体育の定義によれば、「身体や身体活動を通しての教育」としている³⁾。これが近年になり、体育の意義が見直され、「基礎体力の充実した心身ともに健全で、行動力豊かな学生を育成するための教育」となった。当初の定義が身体の鍛錬を主としており、一人でもできる活動とするならば、現在は身体面・心理面の健康維持・促進、仲間とのコミュニケーションを通じた活動へと変化していることがわかる。このように、体育（特に実技）は、教師と学生間、学生同士と対面する中で講義を実施することで、現代に求められるコミュニケーションを含めた能力の獲得と促進ができると思われる。

新型コロナウイルス感染症対策として、スポーツ活動の自粛や激しい呼気伴う運動の禁止等が示され、限られた環境と時間の中で体育実技を実施することが求められた。前代未聞の事態の中で体育実技を受講した学生は、身体面・心理面の健康維持・促進と仲間とのコミュニケーションを通じた活動ができたのかについて、未だ明らかにされていない。そこで本研究は、体育実技をオンラインと対面講義で行うことにより、それぞれどのような学習効果を得られたのか、学生の主観的評価から検討することを目的とする。

2. 対象

本研究の対象者は、東北地域に属する某大学で体育実技を受講した学生247名、有効回答数は212名（85.8%）、うち承諾を得られた者は204名であった。対象者の性別は、男性180名、女性20名、その他2名、無回答2名、平均年齢は、18.5±0.79歳であった。

3. 方法

本調査は、質問紙により回答を得た。調査期間は、2020年7月の講義時間内に配布・回収した。欠席者については、個別に後日配布・回収した。質問の構成は、属性（年齢、性別、現在の運動頻度、受講前の運動頻度）、身体面に関する項目（健康維持のための運動ができたか、健康向上のための運動ができたか、体力維持のための運動ができたか、体力向上のための運動ができたか）、コミュニケーションに関する項目（仲間と協力してできたか、仲間を増やすことができたか、会話を通してコミュニケーションをとれたか）、心理面に関する項目（運動前よりも、運動後の方がリフレッシュできたか、ストレスの軽減につながったか、楽しく運動できたか）とする。身体面、コミュニケーション、心理面に関する項目は、①オンライン学習（課題を視聴・実践する自主学習）、②オンライン講義（zoomで同じ時間帯にクラス全員で実技を行う講義）、③対面講義（グラウンド・体育館での実技）の3つの場面について、それぞれ7件法（7.とてもよくできた、6.よくできた、5.まあまあできた、4.どちらともいえない、3.あまりできなかった、2.ほとんどできなかった、1.まったくできなかった）にて回答を得た。その他、体育実技の意義に関する項目（自由記述式）を設けた。

4. 分析

まず、現在の運動頻度、受講前の運動頻度は、対象者の平均値を算出し、受講前と現在の運動頻度の差を比較する。そして、身体面に関する項目、コミュニケーションに関する項目、心理面に関する項目は、①オンライン学習（課題を視聴・実践する自主学習）、②オンライン講義（zoomで同じ時間帯にクラス全員で実技を行う講義）、③対面講義（グラウンド・体育館での実技）の3つの異なる講義形態で平均得点の比較を行う。自由記述は、記述された内容から研究者がKJ法を用いて分類する。研究者は、体育を専門とする教員2名であり、各々の専門分野は保健学とスポーツ健康科学である。分析にあたり、対象者が記載した内容を理解でき、さらにはKJ法を用いた経験のある者が担当した。

5. 結果

（1）運動実施状況

学生の運動実施状況について調査した結果、現在の運動実施状況は、平均で週 2.22 ± 1.72 回、1回あたりの運動時間は、 1.27 ± 0.93 時間であった。週あたりの運動時間は、 2.28 ± 3.11 時間であった。

また、体育実技を受講する前の運動実施状況は、平均で週 1.50 ± 1.82 回、1回あたりの運動時間は、 0.80 ± 0.89 時間であった。週あたりの運動時間は、 1.54 ± 2.23 時間であった。

（2）主観的な学習効果について

オンライン（自主学習）、オンライン（全員での学習）、対面講義の3つの異なる講義形態に対し、同じ質問項目を設け、得点の平均値比較を行った。

身体面に関する項目では、いずれも対面講義の平均値が他の講義形態よりも高かった。特に、「①健康維持のための運動はできたか」という質問に対しては、対面講義の平均値が6.12と最も高い値になった。全ての質問において、平均値は、対面講義、オンライン（全員での学習）、オンライン（自主学習）の順に高かった。

コミュニケーションに関する項目でも、対面講義の平均値が他の講義形態よりも高かった。特に、「⑤仲間と協力してできたか」という質問に対しては、対面講義の平均値が6.03となった。また、「⑤仲間と協力してできたか」「⑥仲間を増やすことはできたか」の2項目については、オンライン（全員での学習）よ

りもオンライン（自主学習）の方が、平均値が高かった。

心理面に関する質問項目でも、対面講義の平均値が他の講義形態よりも高かった。特に、「⑩楽しく運動できたか」という質問に対しては、対面講義の平均値が6.30と全質問項目の中で最も高い値となった。また、心理面の質問3項目中では、オンライン（自主学習）、オンライン（全員での学習）、対面講義間に1点以上の差はなかった。

表1. 身体面に関する項目の平均値と標準偏差

身体面に関する項目	オンライン（自主学習）		オンライン（全員での学習）		対面講義	
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
①健康維持のための運動はできたか	5.37	1.18	5.58	1.05	6.12	0.86
②健康向上のための運動はできたか	5.37	1.23	5.45	1.14	6.07	0.93
③体力維持のための運動はできたか	5.18	1.27	5.38	1.19	6.02	0.95
④体力向上のための運動はできたか	5.14	1.29	5.23	1.27	5.95	1.02

表2. コミュニケーションに関する項目の平均値と標準偏差

コミュニケーションに関する項目	オンライン（自主学習）		オンライン（全員での学習）		対面講義	
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
⑤仲間と協力してできたか ※SNSを介しての協力を含む	4.65	1.83	4.64	1.63	6.03	1.11
⑥仲間を増やすことはできたか	4.69	1.91	4.60	1.78	5.77	1.33
⑦会話を通して コミュニケーションが取れたか ※電話、SNSを介しての会話を含む	4.70	1.83	4.76	1.66	5.98	1.11

※…オンライン（自主学習）とオンライン（全員での学習）について追記した

表3. 心理面に関する項目の平均値と標準偏差

心理面に関する項目	オンライン（自主学習）		オンライン（全員での学習）		対面講義	
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
⑧運動前よりも、運動後の方が リフレッシュできたか	5.70	1.38	5.68	1.31	6.18	1.03
⑨ストレスの軽減につながるような 運動ができたか	5.63	1.33	5.67	1.25	6.11	1.04
⑩楽しく運動できたか	5.72	1.35	5.73	1.27	6.30	0.90

(3) 体育実技の意義について

オンライン（自主学習）、オンライン（全員での学習）、対面講義を実施した学生は、体育実技の意義をどのように捉えているのか把握するため、自由記述で回答を得た。一文を回答数1とした。その結果、意義に関する学生の回答は、265となった。それらを分類し、14カテゴリー（①生きるために必要不可欠なもの、②健康維持・増進、体力向上、③コミュニケーションの機会、④自主性が尊重される場、⑤施設利用方法を学ぶ機会、⑥自分の身体と相談する時間、⑦自由と責任を考える機会、⑧心身を成長させるための手段、⑨楽しい時間を過ごす機会、⑩定期的な運動の機会、⑪脳機能の鍛錬、⑫リフレッシュの機会、⑬運動技能・知識習得の場、⑭授業の一環）を設定した。最も回答数が多かったのは、「定期的な運動の機会」（回答数62）であった。次いで、「コミュニケーションの機会」（回答数51）、「健康維持・増進、体力向上」（回答数49）、「楽しい時間を過ごす機会」（回答数38）、「リフレッシュの機会」（回答数37）、「運動技能・知識習得の場」・「授業の一環」（回答数10）、「心身を成長させるための手段」（回答数2）、「生きるために必要不可欠なもの」・「自主性が尊重される場」・「施設利用方法を学ぶ機会」・「自分の身体と相談する時間」・「自由と責任を考える機会」・「脳機能の鍛錬」（回答数1）となった。

表4. 体育実技の意義に関するカテゴリー

カテゴリー名	回答数	代表的な内容
1 生きるために必要不可欠なもの	1	生きるためには必須である。
2 健康維持・増進、体力向上	49	高校までと比べ運動頻度が減ったであろう学生たちが健康や体力を維持・向上させるための授業。
3 コミュニケーションの機会	51	コロナでクラスメイトに会う機会がなかったが、体育を通してクラスメイトとコミュニケーションをとることができた唯一の授業。
4 自主性が尊重される場	1	大学の授業で唯一多くの生徒が自主的になれる授業。
5 施設利用方法を学ぶ機会	1	施設などの適切な使用方法を身につける場。
6 自分の身体と相談する時間	1	自分の身体と相談する時間である。
7 自由と責任を考える機会	1	自分で負荷を決めることができるので、自由と責任のある授業が体育である。
8 心身を成長させるための手段	2	心身ともに成長させてくれるもの。
9 楽しい時間を過ごす機会	38	他人と協力して相談したりルールを決めながら楽しく身体を動かすもの。
10 定期的な運動の機会	62	コンピュータの学校で運動不足になりがちだが、しっかり定期的に体をうごかす良い機会。
11 脳機能の鍛錬	1	脳機能を鍛えるためのもの。
12 リフレッシュの機会	37	運動を通して疲れをリフレッシュするとともに勉学の効率化を図るもの。
13 運動技能・知識習得の場	10	机に向かっての授業ではなく体を動かす授業であることで、普通の授業では学べないことを学ぶこと。
14 授業の一環	10	大学の授業のうちのひとつ。

6. 考察

(1) オンライン（自主学習）、オンライン（全員での学習）、対面講義の学習効果比較

本研究は、体育実技をオンラインと対面講義で行うことにより、それぞれどのような学習効果を得られたのか、学生の主観的評価から検討することを目的に調査を行った。全体的に、オンライン講義よりも対面講義の方が、「とてもよくできた」に近い平均値を示した。これは、体育実技が対面で実施することで、講義の目的やねらいを達成できたという実感を抱きやすい傾向があると考えられる。また、対面講義の中でも最も平均値が高かった質問項目は、「⑩楽しく運動できたか」(6.30)であった。さらに、コミュニケーションに関する項目では、オンライン（自主学習）とオンライン（全員での学習）の平均値に比べ、対面講義の平均値は、1～1.4程度も高い値を示した。これは、対面講義が仲間とのコミュニケーションを通じて、楽しく運動・学習できることを明らかにした。

身体面に関する項目では、オンラインで自主学習するよりも、全員でオンラインを通じた学習をする方が、健康維持・向上、体力維持・向上の学習効果を得られやすいことがわかった。自主学習の場合、オンデマンドによる学習が主となり、個人で実施せざるを得ない。そのため、運動強度や運動機能に関する知識の理解が困難であることに加え、客観的視点が得られにくい。特に、体育実技受講前の運動時間をみると、週当たりの運動実施回数は1回弱、時間は週1.5時間程度と、実施率は高いとは言えない。そのような学生が、自主的に実施した運動を自己評価することは難しいであろう。一方、オンラインによる全員での学習は、画面を通じて他の学生の動きを模倣することや評価することも可能である。また、教員による指導も受けられることから、求められている運動技能・強度・機能を学生が把握しやすい傾向になるといえる。

心理面に関する項目では、3つの講義形態間での平均値の差は0.5程度であった。これは、一人でも運動を実施することでリフレッシュ効果、ストレス軽減につながることを示している。しかし、対面で実施することは、より楽しく運動できる機会になることも本調査で得られた知見である。WHO（世界保健機関）や国際スポーツ心理学会は、過去の研究を踏まえ、運動の心理的効果として、①リラクセーションの強化、②不安・ストレスの低減、③軽度から中程度の抑うつ低減、④メンタルヘルスの改善、⑤重度抑うつ治療の補助的手段、⑥認知機能の改善、⑦男女およびすべての年代へ有益な情緒的効果、⑧健康感の向上を挙げている²⁾。本調査では、WHOが示す運動の心理的効果を示唆したといえる。近年、科学技術の発展が著しく、生活水準の向上、自由時間の増大など、便利で住みよい、質の高い生活をもたらす一方で、身体の直接的経験の減少と間接的経験の拡大、身体感覚の変容、情報過多に伴う各種の不適応症状やストレス過剰、人間の本性としての自然性（ヒューマン・ネイチャー）の喪失、運動不足に伴う基礎的な身体能力の低下や心身症の増大などを引き起こす可能性がある。この現状から、身体運動によって日常的な社会生活を補償し、心身のバランスを保持するための方法を、発育発達の完成期、そして感性豊かで知的な吸収力の旺盛な学生時代のこの期に欠くことは、日本人、ひいては人類の一大危機を招来しかねない³⁾。「自主的精神に充ちた心身ともに健康な国民の育成」（教育基本法第1条）³⁾は、大学体育で担う役割の一つであり、今回の調査から、大学体育は対面で実施することにより、身体的健康のみならず心理的健康の促進を助長できることが示された。

(2) 現代の学生が考える体育実技の意義

今回の調査は、新型コロナウイルス感染症の感染者が0人（当時）であった地域で実施した。学生は、限られた環境と時間の中で講義を受けた経緯があり、例年とは異なる状況下での体育実技を経験した。その学生たちが考える体育実技の意義を見出すことは、「with コロナ」を過ごしていくであろうこの日本の

体育全般に大きな影響を与えると考える。それを支持する結果として、体育実技は「コミュニケーションの機会」であると回答した学生が多くいたことが挙げられる。“コロナでクラスメイトに会う機会がなかったが、体育を通してクラスメイトとコミュニケーションをとることができた唯一の授業。”という学生の回答があるように、「stay home」を主とする生活の中で、体育実技は人と人とを結ぶ機会になっていた。また、回答者は1名であったが、「生きるために必要不可欠なもの」として学生が体育実技を捉えるのは、この新型コロナウイルス感染症の流行が影響を与えている可能性もある。中央教育審議会は、「生きる力」の重要性を提示している。この「生きる力」とは、単に過去の知識を配憶しているということではなく、初めて遭遇するような場面でも、自分で課題を見つけ、自ら考え、自ら問題を解決していく資質や能力のことである。健康や体力は、この生きる力の資質や能力を支える基盤として必要不可欠である¹⁾、としている。コロナ禍で調査を実施したことにより、生きることに必要な心身の健康をより一層反映させた意義を見出せたと考える。

(3) 全体的考察

本調査の対象者について、大学生としているが、体育実技を受講した一部の学生に限っている。今後も継続的に同様の調査を行うことで、体育実技の在り方を検討するための重要な資料となり得るだろう。また、男女比について、女性の割合が少ない。調査結果を男女別に提示することが必要になった際には、女性の対象者を増やすことが課題となる。しかし、現代では、性別について回答を求めること自体、調査協力を不快にさせる可能性がある。性別を聞かれること自体が嫌と感じるケースもあることから²⁾、今後は属性に関する項目を再検討していく。体育実技の意義については、運動頻度による学生の回答内容の違いについても分析していくことで、運動実施状況による影響を明らかにすることができると思う。

7. 引用文献

- 1) 中央審議会, 21世紀を展望した我国の教育の在り方について, 中央教育審議会第一回答申, 文部省, 1996.
- 2) 松本洋輔 他, 性同一性障害/性別違和—当事者との対話—, 児童青年精神医学とその近接領域, 58, 4, 459-467, 2017.
- 3) 日本スポーツ精神医学会, スポーツ精神医学改訂第2版, p213, 株式会社診断と治療社, 2018.
- 4) 新型コロナウイルス感染予防のために ([健康や医療相談の情報 | 厚生労働省 \(mhlw.go.jp\)](https://www.mhlw.go.jp/stf/covid19/0000147110_00001.html)), 厚生労働省, 2020.
- 5) 全国大学体育連合, 大学体育の必要性についての提言, 大学体育, 18, 1, 87-90, 1991.

8. 参考文献

- 1) 川喜多二郎, 発想法 改版—創造性開発のために, 中公新書, 2017.
- 2) 数字で見る! スポーツで身体に起こる気になる「6」つのデータ
(<https://sports.go.jp/special/value-sports/post-29.html>), スポーツ庁 Web 広報マガジン DEPORTARE, スポーツ庁, 2019.
- 3) 吉澤隆志・藤沢しげ子, 授業形式の違いが学習意欲に及ぼす効果について—学習意欲を高める授業形式の検討—, 理学療法科学, 24, 1, 35-39, 2009.
- 4) 吉澤隆志・松永秀俊・藤沢しげ子, 映像授業が学習意欲に及ぼす効果について, 理学療法科学, 25, 1, 13-17, 2010.

2020年度会津大学新入生の生活と意識 1

－基礎集計－

蛭名 正司・沖 和砂・中澤 謙

I 問題と目的

本調査は、会津大学の教育・学生支援環境を点検・整備するための基礎資料を得るために、新入生の生活と意識、行動を分析することを目的としている。今回は、1998年、2000年、2002年、2004年、2006年、2008年、2010年、2012年、2014年、2016年、2018年に続く第12回目の調査である。

調査の主な関心は、会津大学の新入生が、会津大学へどのような過程で進学したか、学習面においてどのような意識・能力の特徴や経験を持った高校生だったのかを把握することである。

II 方法

質問紙調査法を用い、大学が行う新入生オリエンテーション時（2020年4月実施）に調査用紙を配布し、後日（回収締切：2020年10月末）回収した。なお、回答は無記名である。

対象者は、会津大新入生244名である。有効回答数は223名で、回答率は91%である。

1. 基本的属性

(1)調査対象、(2)年齢、(3)性別、(4)出身高校、(5)出身高校の課程、(6)入学経路、(7)現在の住まい、(8)通学方法

2. 大学進学経過

(1)会津大学進学希望、(2)コンピュータ専攻希望、(3)会津大学受験条件、(4)受験決定時期、(5)センター試験受験科目、(6)未履修科目、(7)コンピュータの知識、(8)情報端末の保有状況

3. 大学観、能力・興味

(1)高校時代の得意・苦手科目、(2)得意なこと・学びたいこと

4. 進路

(1)卒業後の進路

5. 健康

(1)不安・悩みの有無、(2)不安・悩みの種類、(3)喫煙の有無、(4)飲酒の有無、(5)体重のコントロール、(6)食生活、(7)食事のバランス、(8)栄養、(9)体力、(10)受動喫煙の害、(11)インターネット依存、(12)放射線等の心配、(13)放射線等の対策、(14)新型異なウイルス感染症の心配、(15)新型コロナウイルス感染症の対策、(16)学生相談室及び保健室

Ⅲ 調査結果

1. 基本的属性

(1) 調査対象

本調査の回答率は91%（223名／244名）である。男性が90%（200名／221名），女性が9%（22名／23名）である。

(2) 年齢

新入生の平均年齢は18.4±0.76歳である。

Q1 年齢 [] 歳

	mean	SD
Q1	18.43	.76

(3) 性別

Q2 性別 1 男 2 女

回答者223名中、男性は89.7%、女性が9.9%である。

		N	%
Q2	1	200	89.7%
	2	22	9.9%
	no answer	1	0.4%
	Total	223	100.0%

(4) 出身高校

出身高校の所在地は、福島県内が40.4%、県外が58.7%である。

Q3 出身高校の所在地 1 福島県内 2 福島県外

		N	%
Q3	1	90	40.4%
	2	131	58.7%
	no answer	2	0.9%
	Total	223	100.0%

(5) 出身高校の課程

出身高校の課程は、普通科出身者が最も多く、84.8%である。

Q4 出身高校の課程 1 普通科 2 専門学科 3 その他 []

		N	%
Q4	1	189	84.8%
	2	15	6.7%
	3	18	8.1%
	no answer	1	0.4%
	Total	223	100.0%

(6) 入学経路

入学経路は、推薦入試が29.1%、一般入試Aが70.3%である。

Q5 入学経路 1 推薦入試A 2 推薦入試B 3 一般入試A 4 一般入試B 5 その他

		N	%
Q5	1 推薦入試A	46	20.6%
	2 推薦入試B	19	8.5%
	3 一般入試A	120	53.8%
	4 一般入試B	37	16.6%
	5 その他	0	0.0%
	no answer	1	0.4%
Total	223	100.0%	

(7) 現在の住まい

現在の住まいは、自宅が36.8%、創明寮が8.5%、自宅外が52.9%である。

Q6 現在の住まい 1 自宅 2 創明寮 3 自宅外（創明寮を除く）

		N	%
Q6	1	82	36.8%
	2	19	8.5%
	3	118	52.9%
	no answer	4	1.8%
	Total	223	100.0%

(8) 通学方法

通学方法で最も多いのは、自転車の68.6%、次に徒歩の21.5%である。

Q7 主な通学方法（一つ選択）

- 1 徒歩 2 自転車 3 バイク 4 自家用車 5 バス 6 鉄道

		N	%
Q7	1	48	21.5%
	2	153	68.6%
	3	4	1.8%
	4	8	3.6%
	5	4	1.8%
	6	5	2.2%
	no answer	1	0.4%
	Total	223	100.0%

2. 大学進学経過

(1) 会津大学進学希望

会津大学への進学は、「おおいに希望通り」の学生が57.0%、「どちらかといえば希望通り」の学生が32.3%である。両者を合わせた89.3%の学生が会津大学への進学は希望通りである。

Q8 会津大学進学は、希望通りのことですか。

- 5 おおいに希望通り 4 どちらかといえば希望通り 3 どちらともいえない
2 どちらかといえば希望通りではない 1 まったく希望通りではない

	N	%
1	0	0.0%
2	9	4.0%
3	14	6.3%
4	72	32.3%
5	127	57.0%
no answer	1	0.4%
Total	223	100.0%

(2) コンピュータ専攻希望

コンピュータを専攻することが、「おおいに希望通り」の学生が74.4%、「どちらかといえば希望通り」の学生が17.0%である。両者合わせた91.4%の学生がコンピュータを専攻することは希望通りのことである。

Q9 コンピュータを専攻することは、希望通りのことですか。

- 5 おおいに希望通り 4 どちらかといえば希望通り 3 どちらともいえない
2 どちらかといえば希望通りではない 1 まったく希望通りではない

		N	%
Q9	1	1	0.4%
	2	3	1.3%
	3	14	6.3%
	4	38	17.0%
	5	166	74.4%
	no answer	1	0.4%
	Total	223	100.0%

(3) 会津大学受験条件

会津大学を受験する際に考慮した条件として大きいのは、

「7 自分の興味・関心」(4.42)、「3 自分の成績のよい科目」(4.03)、「17 大学の教育内容」(4.03)、「5 自分の好きな科目」(3.90)、「20 大学卒業後の自分の進路」(3.89)である。

Q14 会津大学の受験を決めるときに、次のことをどれくらい考えに入れましたか。

- 5 とても考えに入れた 4 どちらかといえば考えに入れた 3 どちらともいえない
2 どちらかといえば考えに入れなかった 1 まったく考えに入れなかった

1	学校の成績	5	4	3	2	1
2	模試の成績	5	4	3	2	1
3	自分の成績のよい科目	5	4	3	2	1
4	自分の成績の悪い科目	5	4	3	2	1
5	自分の好きな科目	5	4	3	2	1
6	自分の嫌いな科目	5	4	3	2	1
7	自分の興味・関心	5	4	3	2	1
8	自分の性格の向き・不向き	5	4	3	2	1
9	親の職業	5	4	3	2	1
10	家庭の経済力	5	4	3	2	1
11	入試科目・競争率	5	4	3	2	1
12	資格を得る	5	4	3	2	1

13	家族の意見	5	4	3	2	1
14	先生の意見	5	4	3	2	1
15	会津大の学生からの情報	5	4	3	2	1
16	大学の設備	5	4	3	2	1
17	大学の教育内容	5	4	3	2	1
18	大学の就職実績	5	4	3	2	1
19	大学の所在地	5	4	3	2	1
20	大学卒業後の自分の進路	5	4	3	2	1
21	大学の国際的環境	5	4	3	2	1
22	その他 それは何ですか					

	mean	SD
Q14-1	3.34	1.55
Q14-2	3.48	1.40
Q14-3	4.03	1.22
Q14-4	3.47	1.41
Q14-5	3.90	1.25
Q14-6	3.31	1.40
Q14-7	4.42	.88
Q14-8	3.54	1.29
Q14-9	1.76	1.25
Q14-10	3.10	1.49
Q14-11	3.29	1.39
Q14-12	2.75	1.39
Q14-13	3.10	1.36
Q14-14	3.16	1.43
Q14-15	2.47	1.38
Q14-16	3.50	1.32
Q14-17	4.03	1.11
Q14-18	3.70	1.26
Q14-19	3.21	1.43
Q14-20	3.89	1.11
Q14-21	3.67	1.17

(4) 受験決定時期

受験は、高校3年生の4月から11月の間に決める学生（31.8%）が最も多く、続いて、高校3年生の1月（25.1%）、高校1・2年生（24.2%）の順に多かった。

Q10 会津大学受験を決めたのはいつごろですか。

- 1 高校1・2年生 2 高校3年生の4月から11月の間 3 高校3年生の12月
4 高校3年生の1月 5 その他（それはいつですか）

		N	%
Q10	1	54	24.2%
	2	71	31.8%
	3	14	6.3%
	4	56	25.1%
	5	27	12.1%
	no answer	1	0.4%
	Total	223	100.0%

(5) センター試験受験科目

センター試験を受験していない者は推薦Aの13.3%、推薦Bの22.2%である。

Q11 センター試験の受験教科は何でしたか。受験した**教科**に○をつけてください。

教科	含まれる科目
1 理科	物理, 化学, 生物, 地学, 物理基礎, 化学基礎, 生物基礎, 地学基礎
2 数学	数学I, 数学A, 数学II, 数学B, 工業数理基礎
3 外国語	英語, ドイツ語, フランス語, 中国語, 韓国語
4 地理歴史・公民	世界史A, 世界史B, 日本史A, 日本史B, 地理A, 地理B, 現代社会, 倫理, 政治・経済
5 国語	国語
6 センター試験を受験していない	

		\$センター科目													
		Q11-1		Q11-2		Q11-3		Q11-4		Q11-5		Q11-6		Total	
		N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
Q5	推薦入試A	37	82.2%	37	82.2%	34	75.6%	24	53.3%	29	64.4%	6	13.3%	45	100.0%
	推薦入試B	13	72.2%	13	72.2%	12	66.7%	12	66.7%	13	72.2%	4	22.2%	18	100.0%
	一般入試A	118	100.0%	109	92.4%	107	90.7%	89	75.4%	93	78.8%	0	0.0%	118	100.0%
	一般入試B	36	100.0%	36	100.0%	35	97.2%	35	97.2%	34	94.4%	0	0.0%	36	100.0%

その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
no answer	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
Total	204	94.0%	195	89.9%	188	86.6%	160	73.7%	169	77.9%	10	4.6%	217	100.0%

(6) 未履修科目

高校時代に履修しなかった科目がある者（回答者）は11名（0.4%）で、回答者の15.2%が数学Ⅰ、0.4%が数学Ⅲ、物理である。

Q13 高校時代に履修しなかったものがあれば、該当するものに○をつけてください。

- 1 数学Ⅰ 2 数学A 3 数学Ⅱ 4 数学B 5 数学Ⅲ 6 物理

		N	%
\$高校未履修科目	1	1	0.4%
	2	3	1.3%
	3	4	1.8%
	4	5	2.2%
	5	17	7.6%
	6	26	11.7%
	no answer	167	74.9%
	Total	223	100.0%

(7) コンピュータの知識

コンピュータの仕組みを知っている（「3 ある程度知っている」あるいは「2 少しは知っている」）者は、46.7%である。コンピュータ関連の仕事の内容を知っている者は、60.5%である。コンピュータが社会でどのように利用されているかを知っている者は、85.7%である。大学で行われるコンピュータの授業内容を知っている者は、91.0%である。

Q16 次のことをどの程度知っていますか。

- 1) コンピュータの仕組み
 3 ある程度知っている 2 少しは知っている 1 ほとんど知らない

- 2) コンピュータ関連の仕事の内容
 3 ある程度知っている 2 少しは知っている 1 ほとんど知らない
- 3) コンピュータが社会でどのように利用されているか
 3 ある程度知っている 2 少しは知っている 1 ほとんど知らない
- 4) 大学で行われるコンピュータの授業内容
 3 ある程度知っている 2 少しは知っている 1 ほとんど知らない

		N	%
Q16-1	1	117	52.5%
	2	76	34.1%
	3	28	12.6%
	no answer	2	0.9%
	Total	223	100.0%
Q16-2	1	86	38.6%
	2	118	52.9%
	3	17	7.6%
	no answer	2	0.9%
	Total	223	100.0%
Q16-3	1	47	21.1%
	2	144	64.6%
	3	30	13.5%
	no answer	2	0.9%
	Total	223	100.0%
Q16-4	1	96	43.0%
	2	107	48.0%
	3	17	7.6%
	no answer	3	1.3%
	Total	223	100.0%

(8) 情報端末の保有状況

情報端末の保有状況は、スマートフォン（96.8%）とPC（ノート）（77.8%）が多かった。

Q19 現在、個人で保有している情報端末はどれですか。（複数回答可）

- 1 PC（ノート） 2 PC（デスクトップ） 3 タブレット 4 スマートフォン
 5 携帯電話（ガラケー） 6 その他 []

		N	%
\$保有情報端末	Q19-1	172	77.8%
	Q19-2	43	19.5%
	Q19-3	37	16.7%
	Q19-4	214	96.8%
	Q19-5	2	0.9%
	Q19-6	2	0.9%
	no answer	2	0.9%
	Total	223	100.0%

3. 能力・興味

(1) 高校時代の得意・不得意科目

得意な科目は、回答した全学生のうち、数学149人（69.0%）、英語87人（40.3%）、物理77人（35.6%）である。

苦手な科目は、回答した全学生のうち、国語100人（46.3%）、化学85人（39.4%）、英語76人（35.2%）、物理65人（30.1%）である。

Q12 高校時代の学習について教えてください。次の質問にあてはまる科目の番号を、上位3つまで回答してください。

1) 得意な科目は何でしたか [] [] []

2) 苦手な科目は何でしたか [] [] []

1 国語（古典・漢文を除く） 2 世界史 3 日本史 4 地理 5 現代社会 6 倫理

7 政治・経済 8 数学 9 物理 10 化学 11 生物 12 英語 13 保健体育 14 情報

	N	%	
\$得意科目	1	53	23.8%
	2	11	4.9%
	3	10	4.5%
	4	40	17.9%
	5	12	5.4%
	6	7	3.1%
	7	6	2.7%
	8	149	66.8%
	9	77	34.5%
	10	48	21.5%
	11	9	4.0%
	12	87	39.0%
	13	21	9.4%
	14	38	17.0%
	no answer	65	29.1%
Total	223	100.0%	

	N	%	
\$苦手科目	1	99	44.4%
	2	39	17.5%
	3	25	11.2%
	4	60	26.9%
	5	24	10.8%
	6	5	2.2%
	7	19	8.5%
	8	46	20.6%
	9	65	29.1%
	10	85	38.1%
	11	9	4.0%
	12	76	34.1%
	13	18	8.1%
	14	6	2.7%
	16	1	0.4%
	no answer	58	26.0%
Total	223	100.0%	

(2) 得意なこと・学びたいこと

得意意識は全般的に高くないが、「4 知りたいことを調べること」(3.85)、「2 本を読むこと」(3.35)が相対的に高い。苦手意識があるのは、「1 文章を書くこと」(2.63)である。

勉強意欲は、「3 筋道を立てて考えること」(2.68)、「4 知りたいことを調べること」(2.66)、「6 人と協力して何かをやること」(2.72)に対し、特に意欲を示していた。

Q17 (a) 次のことはどのくらい得意ですか。(b) また、そのことを身につけるための勉強を大学でしたいですか。

- (a) 5 得意 4 どちらかといえば得意 3 どちらともいえない 2 どちらかといえば苦手 1 苦手
 (b) ③ 勉強したい ②どちらともいえない ① 勉強したくない

1 文章を書くこと	(a) 5 4 3 2 1	(b) ③ ② ①
2 本を読むこと	(a) 5 4 3 2 1	(b) ③ ② ①
3 筋道を立てて考えること	(a) 5 4 3 2 1	(b) ③ ② ①
4 知りたいことを調べること	(a) 5 4 3 2 1	(b) ③ ② ①
5 自分の意見を述べること	(a) 5 4 3 2 1	(b) ③ ② ①
6 人と協力して何かをやること	(a) 5 4 3 2 1	(b) ③ ② ①

	mean	SD
Q17-1A	2.63	1.18
Q17-1B	2.51	.69
Q17-2A	3.35	1.31
Q17-2B	2.30	.72
Q17-3A	3.11	1.17
Q17-3B	2.68	.52
Q17-4A	3.85	.94
Q17-4B	2.66	.52
Q17-5A	2.93	1.27
Q17-5B	2.61	.56
Q17-6A	3.30	1.14
Q17-6B	2.72	.49

Q21 よく食べないのはどれですか。1つ選んでください。(Q20で2～4の方のみ回答)

- 1 朝食 2 昼食 3 夕食

		N	%
Q21	1	97	78.2%
	2	19	15.3%
	3	5	4.0%
	no answer	3	2.4%
	Total	124	100.0%

(7) 食事のバランス

週に一回以上、就寝前2時間以内に食事をとっている学生は、55.2%であった。また、食事のバランスの取れていない学生は、36.3%であった。

Q22 就寝前2時間以内に食事をとることがありましたか。

- 1 毎日ある 2 週3～4回ある 3 週1～2回ある 4 まったくない

		N	%
Q22	1	10	4.5%
	2	50	22.4%
	3	63	28.3%
	4	92	41.3%
	no answer	8	3.6%
	Total	223	100.0%

Q23 食事を取るにあたって、主食、主菜、副菜のバランスはとれていますか。

- 1 とれている 2 どちらかといえばとれている 3 どちらかといえばとれていない
4 まったくとれていない

		N	%
Q23	1	39	17.5%
	2	94	42.2%
	3	56	25.1%
	4	25	11.2%
	no answer	9	4.0%
	Total	223	100.0%

(8) 栄養

全体の91.0%が主食を食べ、85.2%は水分を摂っている。一方、副菜は38.1%、主菜は21.5%、乳製品は38.1%、果物は73.1%が摂っていない。全体の41.7%はお菓子・嗜好飲料を食している。

Q24 ふだんの昼食で食べているものは何ですか。

1	主食 (ご飯 パン そば うどん カップめん)	1	食べている	2	食べていない
2	副菜 (サラダ 野菜の煮物 野菜炒め 煮豆など)	1	食べている	2	食べていない
3	主菜 (豆腐 納豆 卵 肉 魚)	1	食べている	2	食べていない
4	牛乳 乳製品 (牛乳 チーズ ヨーグルト)	1	食べている	2	食べていない
5	果物	1	食べている	2	食べていない
6	お菓子 (カロリーメイト、菓子パンなどを含む) ・嗜好飲料	1	食べている	2	食べていない
7	水分 (水、お茶など糖分が入ってない飲み物)	1	飲んでいる	2	飲んでいない

		N	%
Q24-1	1	203	91.0%
	2	5	2.2%
	no answer	15	6.7%
	Total	223	100.0%
Q24-2	1	123	55.2%
	2	85	38.1%
	no answer	15	6.7%
	Total	223	100.0%
Q24-3	1	159	71.3%
	2	48	21.5%
	no answer	16	7.2%
	Total	223	100.0%
Q24-4	1	120	53.8%
	2	85	38.1%
	no answer	18	8.1%
	Total	223	100.0%
Q24-5	1	42	18.8%
	2	163	73.1%
	no answer	18	8.1%
	Total	223	100.0%
Q24-6	1	93	41.7%
	2	113	50.7%
	no answer	17	7.6%
	Total	223	100.0%

Q24-7	1	190	85.2%
	2	18	8.1%
	no answer	15	6.7%
	Total	223	100.0%

(9) 体力

全体の64.6%の学生は体力に余裕がない。

Q30 あなたの体力（筋力・持久力・バランス能力など）についてあてはまるものを選んでください。

- 1 体力には充分余裕がある 2 体力にはある程度余裕がある 3 体力にはあまり余裕がない
4 体力にはまったく余裕がない

		N	%
Q30	1	8	3.6%
	2	63	28.3%
	3	92	41.3%
	4	52	23.3%
	no answer	8	3.6%
	Total	223	100.0%

(10) 受動喫煙の害

全体の93.3%の学生が受動喫煙の害を認識している。

Q31 受動喫煙の害について知っていますか。

- 3 よく知っている 2 少し知っている 1 知らない

		N	%
Q31	1	7	3.1%
	2	63	28.3%
	3	145	65.0%
	no answer	8	3.6%
	Total	223	100.0%

(11) インターネット依存

「よくある」「ときどきある」と答えたネット依存傾向にある学生は全体の60.5%である。

Q18 PC・携帯でインターネットに接続する時間が長くなり、日常生活に支障が出てきても、ネットから離れにくいということがありますか。

4 よくある 3 ときどきある 2 あまりない 1 まったくない

		N	%
Q18	1	16	7.2%
	2	69	30.9%
	3	91	40.8%
	4	44	19.7%
	no answer	3	1.3%
	Total	223	100.0%

(12) 放射線等の心配

「とても心配している」「少し心配している」と答えた学生は全体の13.0%である。

Q32 放射線等について、心配はありますか。

4 とても心配している 3 少し心配している 2 あまり心配していない 1 まったく心配していない

		N	%
Q32	1	92	41.3%
	2	97	43.5%
	3	22	9.9%
	4	7	3.1%
	no answer	5	2.2%
	Total	223	100.0%

(13)放射線等の対策

全体の78.4%の学生は「対策をしていない」。

Q33 放射線等の対策をしていますか。該当するものすべてに丸をつけてください。

- 1 外出の際には、マスクの着用などの対策をしている
- 2 飲食物に気を使っている
- 3 外出先の放射線量に注意している
- 4 それ以外の対策をしている → ()
- 5 対策をしていない

		N	%
\$放射線対策	Q33-1	36	16.9%
	Q33-2	13	6.1%
	Q33-3	7	3.3%
	Q33-4	1	0.5%
	Q33-5	167	78.4%
	no answer	10	4.4%
	Total	223	100.0%

(14)新型コロナウイルス感染症の心配

「とても心配している」「少し心配している」と回答した学生は、66.4%だった。

Q34 新型コロナウイルス感染症について、心配はありますか。

- 4 とても心配している 3 少し心配している 2 あまり心配していない 1 まったく心配していない

		N	%
Q34	1	10	4.5%
	2	57	25.6%
	3	99	44.4%
	4	49	22.0%
	no answer	8	3.6%
	Total	223	100.0%

(15)新型コロナウイルス感染症の対策

全く対策をしていない学生はいなかった。最も多い対策は、「1 外出の際には、マスクの着用（咳エチケット）などの対策をしている」（89.7%）だった。

Q35 新型コロナウイルス感染症の対策をしていますか。該当するものすべてに丸をつけてください。

- 1 外出の際には、マスクの着用（咳エチケット）などの対策をしている
- 2 石けんによる手洗いや手指消毒用アルコールによる消毒を行っている
- 3 なるべく人が多く集まる場所へ行かないようにしている
- 4 新型コロナウイルス関連の情報に注意している
- 5 それ以外の対策をしている → ()
- 6 対策をしていない

		N	%
\$コロナ対策	Q35-1	192	89.7%
	Q35-2	171	79.9%
	Q35-3	170	79.4%
	Q35-4	107	50.0%
	Q35-5	2	0.9%
	no answer	9	4.0%
	Total	223	100.0%

(16) 学生相談室及び保健室

- 17.5%の学生は、困った時に相談する人がいない。
- 57.8%の学生は、何かあったら相談室を利用しようと思っている。
- 67.3%の学生は、自己・他者理解を深めるグループプログラムに興味がある。
- 83.4%の学生は、保健室の存在を知っている。
- 40.8%の学生は、体組成計を利用した健康管理を希望している。

Q36 会津大学の学生相談室及び保健室について回答してください。

1	困ったときに相談する人はいますか	1 はい 2 いいえ
2	何かあったら相談室に行ってみようと思いますか	1 はい 2 いいえ
3	話しあいを通じて自分のコミュニケーションスタイルを学んだり、自己理解・他者理解を深めたりすることを目的としたグループ・プログラムに興味がありますか	1 はい 2 いいえ
4	保健室があることを知っていますか	1 はい 2 いいえ
5	保健室の体組成計を使って、意識的に健康管理をしたいと思えますか	1 はい 2 いいえ

		N	%
Q36-1	1	180	80.7%
	2	39	17.5%
	no answer	4	1.8%
	Total	223	100.0%
Q36-2	1	129	57.8%
	2	90	40.4%
	no answer	4	1.8%
	Total	223	100.0%
Q36-3	1	150	67.3%
	2	69	30.9%
	no answer	4	1.8%
	Total	223	100.0%
Q36-4	1	186	83.4%
	2	33	14.8%
	no answer	4	1.8%
	Total	223	100.0%
Q36-5	1	91	40.8%
	2	128	57.4%
	no answer	4	1.8%
	Total	223	100.0%

参考文献

- ベネッセ教育総研 2001 報告書「学生満足度と大学教育の問題」
- 菊地 則行 2000 98年度会津大学生の生活と意識2－クロス集計－ 会津大学文化研究センター研究年報 第6号 61-79
- 菊地 則行 2002 2000年度会津大学生の生活と意識2－クロス集計：学習生活の違いによる分析－ 会津大学文化研究センター研究年報 第8号 23-47
- 菊地 則行 2004 2002年度会津大学生の生活と意識2－クロス集計：学習スタイルの違いによる分析－ 会津大学文化研究センター研究年報 第10号 39-61
- 菊地 則行・中澤 謙 1999 98年度会津大学新入生の生活と意識1－基礎集計－ 会津大学文化研究センター研究年報 第5号 61-79 報 第6号 37-89
- 菊地 則行・中澤 謙 2001 2000年度会津大学新入生の生活と意識1－基礎集計－ 会津大学文化研究センター研究年報 第7号 63-86 会津大学文化研究センター研究年報 第8号 23-47
- 菊地 則行・中澤 謙 2003 2002年度会津大学生の生活と意識1－基礎集計－ 会津大学文化研究センター研究年報 第9号 133-174
- 菊地 則行・中澤 謙 2005 2004年度会津大新入生の生活と意識1－基礎集計－ 会津大学文化研究センター研究年報 第11号 33-50
- 菊地 則行・中澤 謙 2007 2006年度会津大生の生活と意識1－基礎集計－ 会津大学文化研究センター研究年報 第13号 97-137
- 菊地 則行・中澤 謙 2009 2008年度会津大新入生の生活と意識1－基礎集計－ 会津大学文化研究センター研究年報 第15号 53-71
- 菊地 則行・中澤 謙 2011 2010年度会津大学生の生活と意識1－基礎集計－ 会津大学文化研究センター研究年報 第17号 91-137
- 菊地 則行・中澤 謙 2013 2012年度会津大学新入生の生活と意識1－基礎集計－ 会津大学文化研究センター研究年報 第19号 109-132
- 菊地 則行・中澤 謙 2015 2014年度会津大学生の生活と意識1－基礎集計－ 会津大学文化研究センター研究年報 第21号 137-188
- 菊地 則行・中澤 謙 2015 2014年度会津大学生の生活と意識1－基礎集計－ 会津大学文化研究センター研究年報 第23号
- 溝上 慎一 2001 大学生の自己と生き方－大学生固有の意味世界に迫る大学生心理学－ ナカニシヤ
- 溝上 慎一 2002 大学生論－戦後大学生論の系譜をふまえて－ ナカニシヤ
- 溝上 慎一 2004 現代大学生論－ユニバーシティ・ブルーの風に揺れる－ NHKブックス
- 中澤 謙・菊地 則行 1999 98年度会津大学生の生活と意識1－基礎集計－ 会津大学文化研究センター研究年報 第5号 81-111
- 中澤 謙・菊地 則行 2001 2000年度会津大学生の生活と意識1－基礎集計－ 会津大学文化研究センター研究年報 第7号 87-136
- 中澤 謙・菊地 則行 2003 2002年度会津大学新入生の生活と意識1－基礎集計－ 会津大学文化研究センター研究年報 第9号 113-131
- 中澤 謙・菊地 則行 2005 2004年度会津大学生の生活と意識1－基礎集計－ 会津大学文化研究センター研究年報 第11号 51-92

- 中澤 謙・菊地 則行 2007 2006年度会津大学新入生の生活と意識 1－基礎集計－ 会津大学文化研究センター研究年報 第13号 139-157
- 中澤 謙・菊地 則行 2009 2008年度会津大学生の生活と意識 1－基礎集計－ 会津大学文化研究センター研究年報 第15号 73-113
- 中澤 謙・菊地 則行 2011 2010年度会津大学新入生の生活と意識 1－基礎集計－ 会津大学文化研究センター研究年報 第17号 69-90
- 中澤 謙・菊地 則行 2013 2012年度会津大学生の生活と意識 1－基礎集計－ 会津大学文化研究センター研究年報 第19号 133-193
- 中澤 謙・菊地 則行 2015 2014年度会津大学新入生の生活と意識 1－基礎集計－ 会津大学文化研究センター研究年報 第21号 111-134
- 中澤 謙・菊地 則行 2016 2016年度会津大学新入生の生活と意識 1－基礎集計－ 会津大学文化研究センター研究年報 第23号
- 中澤 謙 2018 2018年度会津大学新入生の生活と意識 1－基礎集計－ 会津大学文化研究センター研究年報 第25号

日本私立大学連盟 1992 キャンパスライフこの20年 開成出版

日本私立大学連盟 1995 第9回学生生活実態調査報告書

本報告書は、会津大学学生支援委員会が行った調査を蛸名・沖・中澤がまとめたものである。

2020年度会津大学生の生活と意識 1

—基礎集計—

沖 和砂・蛭名 正司・中澤 謙

I 問題と目的

本調査は、会津大学の教育・学生支援環境を点検・整備するための資料を得るために、会津大生の生活と意識・行動を多面的に分析することを目的としている。今本調査は1998年、2000年、2002年、2004年、2006年、2008年、2010年、2012年、2014年、2016年、2018年に続く第12回目の調査である。

調査内容は、以下の通りである。

1. 基本的属性

(1) 学年構成・性別、(2) 年齢、(3) 出身高校・課程、(4) 入学経路

2. 一日の生活

(1) 現在の住まい、(2) 主な通学方法、(3) 登校日数、(4) 起床時間、(5) 就寝時間、(6) 運動頻度、(7) 課外活動

3. 経済生活

(1) 収入・支出、(2) アルバイト経験、(3) アルバイト先

4. 学習生活

(1) 勉強時間、(2) 専門科目の学習理解、(3) 出席率、(4) 発達、(5) 情報端末の保有状況

5. 充実感・満足感、友人関係

(1) 充実感、(2) 満足感、(3) 友人関係

6. 進路

(1) 卒業後の進路選択、(2) 進路と大学生活、(3) 役立っている大学生活

7. 健康

(1) 不安・悩みの有無、(2) 不安・悩みの種類、(3) 喫煙の有無、(4) 飲酒の有無、(5) インターネット依存、(6) 放射線等の心配、(7) 放射線等の心配、(8) 新型コロナウイルス感染症の心配、(9) 新型コロナウイルス感染症の対策、(10) 体重のコントロール、(11) 食生活、(12) 食事のバランス、(13) 昼食時の栄養、(14) 朝食定期券、(15) 体力、(16) 違法薬物の使用、(17) 違法薬物の誘い、(18) 受動喫煙の害、(19) 身体的健康、(20) 精神的健康、(21) 学生相談室及び保健室、(22) 修学支援室及び就職支援室、(23) 勉強や研究で困った際の対処

8. その他

(1) セクシャルハラスメント、(2) ハラスメント相談員、(3) ハラスメント相談

II 調査方法

質問紙調査法を用い、大学が行う定期健康診断時（2020年4月）に調査用紙を配布し、後日（回収締切2020年10月末）回収した。なお、回答は無記名である。

Ⅲ 調査結果

本調査では前年度のことと現在のことの両方について質問している。したがって、前年度についての回答を記述する際には、たとえば、2年生の回答を1年生の時という意味で1年次と表記する。以下同様に、3年生を2年次、新4年生を3年次と表記する。留年生については前年度に新4年生だったか留年生だったのかが区別できないので留年生と表記する。また、留年生には留年生活の長さがさまざまな学生が含まれているので、留年生のデータは参考データとして掲載した。したがって、学年間の比較では留年生との比較は参考データである。

学年					
回答率	2年生	3年生	新4年生	留年生	no answer
男性	114／252 45.2%	98／208 47.1%	91／277 32.9%	14／－	1 0.3%
女性	17／33 51.5%	18／31 58.1%	17／32 53.1%	0／－	0 0.0%
Total	131／285 46.0%	116／239 48.5%	108／309 35.0%	14／－	1 0.3%

1. 基本的属性

(1) 学年及び性別

回答者（標本）の学年構成は、2年生が131名、3年生が116名、新4年生が108名、留年生が14名の計370名である。学生数の比率は、2年生が35.4%、3年生が31.4%、4年生が29.2%、留年生が3.8%である。

Q1 学年 1 2年生 2 3年生 3 新4年生 (S125…) 4 4年生 (s124以前)

Q3 性別 1 男 2 女

学年						
Q3	2年生	3年生	新4年生	留年生	no answer	Total
男性	114 87.0%	98 84.5%	91 84.3%	14 100%	1 100%	318 85.9%
女性	17 13.0%	18 15.5%	17 15.7%	0 0.0%	0 0.0%	52 14.1%
Total	131	116	108	14	1	370

			Q1【学年】					
			2年生	3年生	新4年生	留年生	no answer	Total
Q3	男性	N	114	98	91	14	1	318
		列の N %	87.0%	84.5%	84.3%	100.0%	100.0%	85.9%
	女性	N	17	18	17	0	0	52
		列の N %	13.0%	15.5%	15.7%	0.0%	0.0%	14.1%
	no answer	N	0	0	0	0	0	0
		列の N %	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	Total	N	131	116	108	14	1	370
		列の N %	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(2) 年齢

各学年における年齢の平均は、2年生 19.8 ± 1.03 歳、3年生 20.1 ± 0.75 歳、4年生 21.2 ± 0.62 歳である。

Q2 年齢 [] 歳

		Q1【学年】				
		2年生	3年生	新4年生	留年生	no answer
Q2	N	131	116	108	14	1
	mean	19.80	20.66	21.56	22.57	22.00
	SD	1.03	.75	.67	1.55	.

(3) 出身高校及び出身高校の課程

出身高校の所在地は、全体で福島県内が40.0%、福島県外が60.0%である。全学年に共通して、福島県内出身者よりも、福島県外出身者の方が多い。また、出身高校の課程は全学年とも普通科が多く、全体の80.5%を占めている。

Q4 出身高校の所在地 1 福島県内 2 福島県外

			Q1【学年】					
			2年生	3年生	新4年生	留年生	no answer	Total
Q4	1	N	46	46	52	4	0	148
		列の N %	35.1%	39.7%	48.1%	28.6%	0.0%	40.0%
	2	N	85	70	56	10	1	222
		列の N %	64.9%	60.3%	51.9%	71.4%	100.0%	60.0%
	no answer	N	0	0	0	0	0	0
		列の N %	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
Total		N	131	116	108	14	1	370
		列の N %	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

Q5 出身高校の課程 1 普通科 2 専門学科 3 その他 []

			Q1【学年】					
			2年生	3年生	新4年生	留年生	no answer	Total
Q5	1	N	113	85	86	13	1	298
		列の N %	86.3%	73.3%	79.6%	92.9%	100.0%	80.5%
	2	N	9	16	11	1	0	37
		列の N %	6.9%	13.8%	10.2%	7.1%	0.0%	10.0%
	3	N	9	15	10	0	0	34
		列の N %	6.9%	12.9%	9.3%	0.0%	0.0%	9.2%
	no answer	N	0	0	1	0	0	1
		列の N %	0.0%	0.0%	0.9%	0.0%	0.0%	0.3%
Total		N	131	116	108	14	1	370
		列の N %	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(4) 入学経路

入学経路は、全体で推薦入試Aが21.6%、推薦入試Bが6.8%、一般入試Aが52.2%、一般入試Bが18.1%である。

Q 6 入学経路

1 推薦入試A 2 推薦入試B 3 一般入試A 4 一般入試B 5 その他

		Q1【学年】						
		2年生	3年生	新4年生	留年生	no answer	Total	
Q6	1	N	26	27	24	3	0	80
		列の N %	19.8%	23.3%	22.2%	21.4%	0.0%	21.6%
	2	N	8	9	8	0	0	25
		列の N %	6.1%	7.8%	7.4%	0.0%	0.0%	6.8%
	3	N	71	50	61	10	1	193
		列の N %	54.2%	43.1%	56.5%	71.4%	100.0%	52.2%
	4	N	26	27	14	0	0	67
		列の N %	19.8%	23.3%	13.0%	0.0%	0.0%	18.1%
	5	N	0	2	1	1	0	4
		列の N %	0.0%	1.7%	0.9%	7.1%	0.0%	1.1%
no answer		N	0	1	0	0	0	1
		列の N %	0.0%	0.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.3%
Total		N	131	116	108	14	1	370
		列の N %	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

2. 一日の生活

現在の住まいは、全学年に共通し自宅外が多く、2年生は68.7%、3年生の56.0%、4年生の62.0%、留年生の%、全体の73.3%が自宅外である。

(1) 現在の住まい

Q7 現在の住まい 1 自宅 2 創明寮 3 自宅外（創明寮を除く）

			Q1【学年】					
			2年生	3年生	新4年生	留年生	no answer	Total
Q7	1	N	39	49	36	7	0	131
		列の N %	29.8%	42.2%	33.3%	50.0%	0.0%	35.4%
	2	N	0	1	1	1	0	3
		列の N %	0.0%	0.9%	0.9%	7.1%	0.0%	0.8%
	3	N	90	65	67	6	1	229
		列の N %	68.7%	56.0%	62.0%	42.9%	100.0%	61.9%
	no answer	N	2	1	4	0	0	7
		列の N %	1.5%	0.9%	3.7%	0.0%	0.0%	1.9%
Total		N	131	116	108	14	1	370
		列の N %	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(2) 主な通学方法

全学年に共通して、自転車通学が最も多かった（55.9%）。学年別では、2年生が63.4%、3年生が59.5%、4年生45.4%、留年生が35.7%であった。自家用車通学は、2年生が18.3%、3年生が22.4%、4年生が22.2%、留年生35.7%であり、3・4年生になると自家用車通学の学生が多くなる傾向になる。

Q8 主な通学方法（一つ選択）

1 徒歩 2 自転車 3 バイク 4 自家用車 5 バス 6 鉄道

			Q1【学年】					
			2年生	3年生	新4年生	留年生	no answer	Total
Q8	1	N	20	15	27	3	0	65
		列の N %	15.3%	12.9%	25.0%	21.4%	0.0%	17.6%
	2	N	83	69	49	5	1	207
		列の N %	63.4%	59.5%	45.4%	35.7%	100.0%	55.9%
	3	N	1	2	4	1	0	8
		列の N %	0.8%	1.7%	3.7%	7.1%	0.0%	2.2%
	4	N	24	26	24	5	0	79
		列の N %	18.3%	22.4%	22.2%	35.7%	0.0%	21.4%
	5	N	0	2	2	0	0	4
		列の N %	0.0%	1.7%	1.9%	0.0%	0.0%	1.1%
	6	N	3	1	2	0	0	6
		列の N %	2.3%	0.9%	1.9%	0.0%	0.0%	1.6%
	no answer	N	0	1	0	0	0	1
		列の N %	0.0%	0.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.3%
Total		N	131	116	108	14	1	370
		列の N %	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(3) 登校日数

登校日数の平均値は、1年次が4.74日、2年次が4.37日、3年次が4.03日、留年生が3.93日である。

Q21 昨年度、平均して週に何日大学に来ましたか。

[] 日/週

		Q1【年次】					
		1年次	2年次	3年次	留年生	no answer	Total
Q21	N	131	116	108	14	1	370
	mean	4.74	4.37	4.03	3.93	4.00	4.38
	SD	.97	.75	1.08	1.49	.	1.01

(4) 起床時間

学生の起床時間で最も多い時間帯は、午前7時台と8時台であり、全体の64.3%を占めていた。

Q23 昨年度の平均的な起床時刻は

午前・午後 [] 時台 例：午前・午後 [7] 時台

		Q1【年次】						
		1年次	2年次	3年次	留年生	no answer	Total	
Q23	4	N	1	0	1	0	0	2
		%	0.8%	0.0%	0.9%	0.0%	0.0%	0.5%
	5	N	1	2	0	0	0	3
		%	0.8%	1.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.8%
	6	N	8	7	5	2	0	22
		%	6.2%	6.2%	4.7%	14.3%	0.0%	6.0%
	7	N	44	22	22	1	1	90
		%	34.1%	19.5%	20.6%	7.1%	100.0%	24.7%
	8	N	56	54	28	6	0	144
		%	43.4%	47.8%	26.2%	42.9%	0.0%	39.6%
	9	N	7	20	23	3	0	53
		%	5.4%	17.7%	21.5%	21.4%	0.0%	14.6%
	10	N	10	6	19	1	0	36
		%	7.8%	5.3%	17.8%	7.1%	0.0%	9.9%
	11	N	1	2	3	0	0	6
		%	0.8%	1.8%	2.8%	0.0%	0.0%	1.6%
	12	N	0	0	4	0	0	4
		%	0.0%	0.0%	3.7%	0.0%	0.0%	1.1%
	13	N	0	0	1	1	0	2
		%	0.0%	0.0%	0.9%	7.1%	0.0%	0.5%
15	N	0	0	1	0	0	1	
	%	0.0%	0.0%	0.9%	0.0%	0.0%	0.3%	
20	N	1	0	0	0	0	1	
	%	0.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.3%	
no answer	N	2	3	1	0	0	6	
	%	1.5%	2.6%	9.2%	0.0%	0.0%	1.6%	
Total	%	131	116	108	14	1	370	
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	

(5) 就寝時間

約85%の学生は、日付が変わってから就寝している。

Q24 昨年度の平均的な就寝時刻は

午前・午後 [] 時台 例：午前 [0] 時台

Q1【年次】

				1年次	2年次	3年次	留年生	no answer	Total
Q24	9	N		1	0	0	0	0	1
		%		0.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.3%
	21	N		0	0	1	0	0	1
		%		0.0%	0.0%	0.9%	0.0%	0.0%	0.3%
	22	N		4	0	3	1	0	8
		%		3.1%	0.0%	2.8%	7.1%	0.0%	2.2%
	23	N		13	16	10	3	0	42
		%		10.1%	14.2%	9.4%	21.4%	0.0%	11.6%
	0	N		61	39	32	3	0	135
		%		47.3%	34.5%	30.2%	21.4%	0.0%	37.2%
	1	N		34	36	22	4	1	97
		%		26.4%	31.9%	20.8%	28.6%	100.0%	26.7%
	2	N		13	17	28	3	0	61
		%		10.1%	15.0%	26.4%	21.4%	0.0%	16.8%
	3	N		2	5	8	0	0	15
		%		1.6%	4.4%	7.5%	0.0%	0.0%	4.1%
	4	N		1	0	2	0	0	3
		%		0.8%	0.0%	1.9%	0.0%	0.0%	0.8%
no answer		N		2	3	2	0	0	7
		%		1.5%	2.6%	1.9%	0.0%	0.0%	1.9%
Total		%		131	116	108	14	1	370
		%		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(6) 運動頻度

昨年度の体育実技の時間を除いて週に運動した回数は、2年生（1年次）が2.24±1.17回、3年生（2年次）が2.24±1.32回、4年生（3年次）が2.15±1.37回、留年生が3.00±2.10回であった。全学年の平均は、2.24±1.30回であった。

Q25 昨年度、平均して週何回くらいスポーツなどの運動をしていましたか（体育の授業は除いて）。

1 [] 回/週 2 運動しなかった

Q1【年次】

				1年次	2年次	3年次	留年生	no answer	Total
Q25_回数	N			131	116	108	14	1	370
	mean			2.24	2.24	2.15	3.00	0	2.24
	SD			1.17	1.32	1.37	2.10	0	1.30

(7) 課外活動

昨年度の課外活動に「1 参加していた」の比率は、全体の56.8であった。学年別では、1年次が60.3%、2年次が52.6%、3年次が61.1%、留年生が21.4%であった。

Q30 昨年度、課外活動（クラブ・サークル活動など）に参加していましたか。

- 1 参加していた 2 参加していたが活動していなかった
3 参加していたがやめた 4 参加したことがない

		Q1【年次】						
			1年次	2年次	3年次	留年生	no answer	Total
Q30	1	N	79	61	66	3	1	210
		%	60.3%	52.6%	61.1%	21.4%	100.0%	56.8%
	2	N	21	16	12	2	0	51
		%	16.0%	13.8%	11.1%	14.3%	0.0%	13.8%
	3	N	20	10	11	2	0	43
		%	15.3%	8.6%	10.2%	14.3%	0.0%	11.6%
	4	N	11	28	19	7	0	65
		%	8.4%	24.1%	17.6%	50.0%	0.0%	17.6%
	no answer	N	0	1	0	0	0	1
		%	0.0%	0.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.3%
	Total	N	131	116	108	14	1	370
		%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

3. 経済生活

(1) 収入・支出

2 昨年度（2017年4月～2018年3月）のあなたのおよその1ヶ月平均収入・支出を教えてください。

収入・支出がない項目は「1 ない」に○をつけてください。

収入（1ヶ月平均）

支出（1ヶ月平均）

- | | | | |
|--------------------|------------------------|----------------------------|------------------------|
| Q 9 総収入 | [] 万 [] 千円 | Q13 総支出 | [] 万 [] 千円 |
| Q10 家族からの援助（学費は除く） | | Q14 家賃 | 1 ない 2 ある→[] 万 [] 千円 |
| | 1 ない 2 ある→[] 万 [] 千円 | Q15 食費 | 1 ない 2 ある→[] 万 [] 千円 |
| Q11 アルバイト | 1 ない 2 ある→[] 万 [] 千円 | Q16 図書、雑誌代等の勉学費（学費は除く） | |
| | | | 1 ない 2 ある→[] 万 [] 千円 |
| Q12 奨学金 | 1 ない 2 ある→[] 万 [] 千円 | Q17 趣味・交際費 | |
| | | | 1 ない 2 ある→[] 万 [] 千円 |
| | | Q18 通信費（自分で支払いをしている学生のみ回答） | |
| | | | 1 ない 2 ある→[] 万 [] 千円 |

Q9		Q1【年次】				未記入	合計
		1年次	2年次	3年次	留年生		
1万未満	N	18	10	8	4	1	41
	%	15.5%	9.1%	8.2%	30.8%	100.0%	12.1%
1万以上-2万未満	N	2	0	3	0	0	5
	%	1.7%	0.0%	3.1%	0.0%	0.0%	1.5%
2万以上-3万未満	N	1	3	0	0	0	4
	%	0.9%	2.7%	0.0%	0.0%	0.0%	1.2%
3万以上-4万未満	N	8	2	0	0	0	10
	%	6.9%	1.8%	0.0%	0.0%	0.0%	3.0%
4万以上-5万未満	N	5	7	3	1	0	16
	%	4.3%	6.4%	3.1%	7.7%	0.0%	4.7%
5万以上-6万未満	N	16	7	7	4	0	34
	%	13.8%	6.4%	7.1%	30.8%	0.0%	10.1%
6万以上-7万未満	N	10	8	8	0	0	26
	%	8.6%	7.3%	8.2%	0.0%	0.0%	7.7%
7万以上-8万未満	N	4	9	8	0	0	21
	%	3.4%	8.2%	8.2%	0.0%	0.0%	6.2%
8万以上-9万未満	N	9	13	7	2	0	31
	%	7.8%	11.8%	7.1%	15.4%	0.0%	9.2%
9万以上-10万未満	N	6	3	5	0	0	14
	%	5.2%	2.7%	5.1%	0.0%	0.0%	4.1%
10万以上-11万未満	N	11	9	14	0	0	34
	%	9.5%	8.2%	14.3%	0.0%	0.0%	10.1%
11万以上-11万未満	N	6	10	5	0	0	21
	%	5.2%	9.1%	5.1%	0.0%	0.0%	6.2%
12万以上-12万未満	N	3	7	10	0	0	20
	%	2.6%	6.4%	10.2%	0.0%	0.0%	5.9%
13万以上-13万未満	N	3	5	1	1	0	10
	%	2.6%	4.5%	1.0%	7.7%	0.0%	3.0%
14万以上-14万未満	N	1	4	2	0	0	7
	%	0.9%	3.6%	2.0%	0.0%	0.0%	2.1%
15万以上-15万未満	N	3	4	7	0	0	14
	%	2.6%	3.6%	7.1%	0.0%	0.0%	4.1%
16万以上-16万未満	N	2	3	4	1	0	10
	%	1.7%	2.7%	4.1%	7.7%	0.0%	3.0%
17万以上-17万未満	N	0	0	1	0	0	1
	%	0.0%	0.0%	1.0%	0.0%	0.0%	0.3%
18万以上-18万未満	N	2	1	1	0	0	4
	%	1.7%	0.9%	1.0%	0.0%	0.0%	1.2%
19万以上-19万未満	N	1	1	0	0	0	2
	%	0.9%	0.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.6%
20万以上	N	5	4	4	0	0	13
	%	4.3%	3.6%	4.1%	0.0%	0.0%	3.8%
Total	N	116	110	98	13	1	338
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

Q10		Q1【年次】					Total
		1年次	2年次	3年次	留年生	未記入	
1万未満	N	24	19	15	2	0	60
	%	22.2%	18.8%	17.9%	20.0%	0.0%	19.8%
1万以上-2万未満	N	4	4	5	0	0	13
	%	3.7%	4.0%	6.0%	0.0%	0.0%	4.3%
2万以上-3万未満	N	6	7	7	0	0	20
	%	5.6%	6.9%	8.3%	0.0%	0.0%	6.6%
3万以上-4万未満	N	15	12	14	1	0	42
	%	13.9%	11.9%	16.7%	10.0%	0.0%	13.9%
4万以上-5万未満	N	8	11	6	1	0	26
	%	7.4%	10.9%	7.1%	10.0%	0.0%	8.6%
5万以上-6万未満	N	16	15	6	3	0	40
	%	14.8%	14.9%	7.1%	30.0%	0.0%	13.2%
6万以上-7万未満	N	4	6	4	1	0	15
	%	3.7%	5.9%	4.8%	10.0%	0.0%	5.0%
7万以上-8万未満	N	9	4	6	0	0	19
	%	8.3%	4.0%	7.1%	0.0%	0.0%	6.3%
8万以上-9万未満	N	4	4	4	0	0	12
	%	3.7%	4.0%	4.8%	0.0%	0.0%	4.0%
9万以上-10万未満	N	3	3	4	0	0	10
	%	2.8%	3.0%	4.8%	0.0%	0.0%	3.3%
10万以上-11万未満	N	12	11	8	1	0	32
	%	11.1%	10.9%	9.5%	10.0%	0.0%	10.6%
11万以上-11万未満	N	0	0	0	0	0	0
	%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
12万以上-12万未満	N	2	1	1	0	0	4
	%	1.9%	1.0%	1.2%	0.0%	0.0%	1.3%
13万以上-13万未満	N	0	0	0	0	0	0
	%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
14万以上-14万未満	N	0	0	0	0	0	0
	%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
15万以上-15万未満	N	1	0	1	0	0	2
	%	0.9%	0.0%	1.2%	0.0%	0.0%	0.7%
16万以上-	N	0	4	3	1	0	8
	%	0.0%	4.0%	3.6%	10.0%	0.0%	2.6%
Total	N	108	101	84	10	0	303
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%	100.0%

Q11		Q1【年次】					Total
		1年次	2年次	3年次	留年生	未記入	
1万未満	N	34	17	19	3	0	73
	%	32.1%	17.9%	22.4%	30.0%	0.0%	24.7%
1万以上-2万未満	N	4	3	1	0	0	8
	%	3.8%	3.2%	1.2%	0.0%	0.0%	2.7%
2万以上-3万未満	N	4	9	10	1	0	24
	%	3.8%	9.5%	11.8%	10.0%	0.0%	8.1%
3万以上-4万未満	N	27	13	8	0	0	48
	%	25.5%	13.7%	9.4%	0.0%	0.0%	16.2%
4万以上-5万未満	N	13	15	8	0	0	36
	%	12.3%	15.8%	9.4%	0.0%	0.0%	12.2%
5万以上-6万未満	N	6	16	15	3	0	40
	%	5.7%	16.8%	17.6%	30.0%	0.0%	13.5%
6万以上-7万未満	N	8	8	10	1	0	27
	%	7.5%	8.4%	11.8%	10.0%	0.0%	9.1%
7万以上-8万未満	N	2	5	4	0	0	11
	%	1.9%	5.3%	4.7%	0.0%	0.0%	3.7%
8万以上-9万未満	N	4	6	5	2	0	17
	%	3.8%	6.3%	5.9%	20.0%	0.0%	5.7%
9万以上-10万未満	N	0	0	1	0	0	1
	%	0.0%	0.0%	1.2%	0.0%	0.0%	0.3%
10万以上-11万未満	N	1	2	1	0	0	4
	%	0.9%	2.1%	1.2%	0.0%	0.0%	1.4%
11万以上-11万未満	N	1	0	0	0	0	1
	%	0.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.3%
12万以上-12万未満	N	1	0	0	0	0	1
	%	0.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.3%
13万以上	N	1	1	3	0	0	5
	%	0.9%	1.1%	3.5%	0.0%	0.0%	1.7%
Total	N	106	95	85	10	0	296
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%	100.0%

Q12	Q1【年次】						Total
	1年次	2年次	3年次	留年生	未記入		
1万未満	N	38	27	21	6	0	92
	%	43.2%	33.3%	29.6%	75.0%	0.0%	37.1%
1万以上-2万未満	N	0	0	1	0	0	1
	%	0.0%	0.0%	1.4%	0.0%	0.0%	0.4%
2万以上-3万未満	N	6	2	1	0	0	9
	%	6.8%	2.5%	1.4%	0.0%	0.0%	3.6%
3万以上-4万未満	N	6	9	3	1	0	19
	%	6.8%	11.1%	4.2%	12.5%	0.0%	7.7%
4万以上-5万未満	N	5	10	7	0	0	22
	%	5.7%	12.3%	9.9%	0.0%	0.0%	8.9%
5万以上-6万未満	N	10	14	20	1	0	45
	%	11.4%	17.3%	28.2%	12.5%	0.0%	18.1%
6万以上-7万未満	N	5	5	0	0	0	10
	%	5.7%	6.2%	0.0%	0.0%	0.0%	4.0%
7万以上-8万未満	N	0	4	1	0	0	5
	%	0.0%	4.9%	1.4%	0.0%	0.0%	2.0%
8万以上-9万未満	N	7	2	3	0	0	12
	%	8.0%	2.5%	4.2%	0.0%	0.0%	4.8%
9万以上-10万未満	N	0	1	1	0	0	2
	%	0.0%	1.2%	1.4%	0.0%	0.0%	0.8%
10万以上-11万未満	N	3	3	4	0	0	10
	%	3.4%	3.7%	5.6%	0.0%	0.0%	4.0%
11万以上-11万未満	N	0	0	1	0	0	1
	%	0.0%	0.0%	1.4%	0.0%	0.0%	0.4%
12万以上-12万未満	N	2	2	4	0	0	8
	%	2.3%	2.5%	5.6%	0.0%	0.0%	3.2%
13万以上-13万未満	N	2	0	1	0	0	3
	%	2.3%	0.0%	1.4%	0.0%	0.0%	1.2%
14万以上-14万未満	N	0	0	0	0	0	0
	%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
15万以上-15万未満	N	2	0	0	0	0	2
	%	2.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.8%
16万以上-	N	2	2	3	0	0	7
	%	2.2%	2.4%	4.2%	0.0%	0.0%	2.8%
Total	N	88	81	71	8	0	248
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%	100.0%

Q13		Q1【年次】					Total
		1年次	2年次	3年次	留年生	未記入	
1万未満	N	8	7	6	2	0	23
	%	6.8%	6.4%	6.1%	15.4%	0.0%	6.8%
1万以上-2万未満	N	2	4	3	0	0	9
	%	1.7%	3.6%	3.0%	0.0%	0.0%	2.6%
2万以上-3万未満	N	6	6	0	1	0	13
	%	5.1%	5.5%	0.0%	7.7%	0.0%	3.8%
3万以上-4万未満	N	13	9	5	1	0	28
	%	11.1%	8.2%	5.1%	7.7%	0.0%	8.2%
4万以上-5万未満	N	15	4	8	2	0	29
	%	12.8%	3.6%	8.1%	15.4%	0.0%	8.5%
5万以上-6万未満	N	14	13	10	1	0	38
	%	12.0%	11.8%	10.1%	7.7%	0.0%	11.2%
6万以上-7万未満	N	12	10	9	2	1	34
	%	10.3%	9.1%	9.1%	15.4%	100.0%	10.0%
7万以上-8万未満	N	13	8	11	0	0	32
	%	11.1%	7.3%	11.1%	0.0%	0.0%	9.4%
8万以上-9万未満	N	11	12	14	1	0	38
	%	9.4%	10.9%	14.1%	7.7%	0.0%	11.2%
9万以上-10万未満	N	6	10	10	1	0	27
	%	5.1%	9.1%	10.1%	7.7%	0.0%	7.9%
10万以上-11万未満	N	11	16	6	1	0	34
	%	9.4%	14.5%	6.1%	7.7%	0.0%	10.0%
11万以上-11万未満	N	0	6	5	0	0	11
	%	0.0%	5.5%	5.1%	0.0%	0.0%	3.2%
12万以上-12万未満	N	0	1	4	0	0	5
	%	0.0%	0.9%	4.0%	0.0%	0.0%	1.5%
13万以上-13万未満	N	2	0	2	0	0	4
	%	1.7%	0.0%	2.0%	0.0%	0.0%	1.2%
14万以上-14万未満	N	1	0	2	0	0	3
	%	0.9%	0.0%	2.0%	0.0%	0.0%	0.9%
15万以上-15万未満	N	0	0	0	1	0	1
	%	0.0%	0.0%	0.0%	7.7%	0.0%	0.3%
16万以上-	N	3	4	4	0	0	10
	%	2.6%	3.6%	4.0%	0.0%	0.0%	2.9%
Total	N	117	110	99	13	1	340
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

Q14		Q1【年次】					Total
		1年次	2年次	3年次	留年生	未記入	
1万未満	N	17	15	17	1	0	50
	%	16.0%	16.0%	19.5%	11.1%	0.0%	16.8%
1万以上-2万未満	N	6	0	0	0	0	6
	%	5.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.0%
2万以上-3万未満	N	9	4	2	2	0	17
	%	8.5%	4.3%	2.3%	22.2%	0.0%	5.7%
3万以上-4万未満	N	26	31	25	3	0	85
	%	24.5%	33.0%	28.7%	33.3%	0.0%	28.6%
4万以上-5万未満	N	31	29	27	1	1	89
	%	29.2%	30.9%	31.0%	11.1%	100.0%	30.0%
5万以上-6万未満	N	11	13	10	2	0	36
	%	10.4%	13.8%	11.5%	22.2%	0.0%	12.1%
6万以上-7万未満	N	3	2	2	0	0	7
	%	2.8%	2.1%	2.3%	0.0%	0.0%	2.4%
7万以上-8万未満	N	2	0	1	0	0	3
	%	1.9%	0.0%	1.1%	0.0%	0.0%	1.0%
8万以上-	N	1	0	3	0	0	4
	%	0.9%	0.0%	3.4%	0.0%	0.0%	1.3%
Total	N	106	94	87	9	1	297
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

Q15		Q1【年次】					Total
		1年次	2年次	3年次	留年生	未記入	
1万未満	N	16	12	6	2	0	36
	%	13.8%	11.3%	6.4%	18.2%	0.0%	11.0%
1万以上-2万未満	N	19	15	13	2	0	49
	%	16.4%	14.2%	13.8%	18.2%	0.0%	14.9%
2万以上-3万未満	N	41	24	26	4	1	96
	%	35.3%	22.6%	27.7%	36.4%	100.0%	29.3%
3万以上-4万未満	N	32	35	33	2	0	102
	%	27.6%	33.0%	35.1%	18.2%	0.0%	31.1%
4万以上-5万未満	N	5	17	10	0	0	32
	%	4.3%	16.0%	10.6%	0.0%	0.0%	9.8%
5万以上-6万未満	N	2	1	1	0	0	4
	%	1.7%	0.9%	1.1%	0.0%	0.0%	1.2%
6万以上-7万未満	N	0	0	2	1	0	3
	%	0.0%	0.0%	2.1%	9.1%	0.0%	0.9%
7万以上-	N	1	2	3	0	0	6
	%	0.9%	1.8%	3.2%	0.0%	0.0%	1.8%
Total	N	116	106	94	11	1	328
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

Q16		Q1【年次】					Total
		1年次	2年次	3年次	留年生	未記入	
1万未満	N	65	53	46	5	0	169
	%	68.4%	65.4%	70.8%	55.6%	0.0%	67.6%
1万以上-2万未満	N	27	21	14	4	0	66
	%	28.4%	25.9%	21.5%	44.4%	0.0%	26.4%
2万以上-3万未満	N	3	4	4	0	0	11
	%	3.2%	4.9%	6.2%	0.0%	0.0%	4.4%
3万以上-4万未満	N	0	2	0	0	0	2
	%	0.0%	2.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.8%
4万以上-	N	0	1	1	0	0	2
	%	0.0%	1.2%	1.5%	0.0%	0.0%	0.0%
Total	N	95	81	65	9	0	250
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%	100.0%

Q17		Q1【年次】					Total
		1年次	2年次	3年次	留年生	未記入	
1万未満	N	40	25	24	6	0	95
	%	37.4%	24.8%	26.1%	60.0%	0.0%	30.6%
1万以上-2万未満	N	38	36	26	2	0	102
	%	35.5%	35.6%	28.3%	20.0%	0.0%	32.9%
2万以上-3万未満	N	20	23	19	1	0	63
	%	18.7%	22.8%	20.7%	10.0%	0.0%	20.3%
3万以上-4万未満	N	5	9	15	0	0	29
	%	4.7%	8.9%	16.3%	0.0%	0.0%	9.4%
4万以上-5万未満	N	1	3	4	0	0	8
	%	0.9%	3.0%	4.3%	0.0%	0.0%	2.6%
5万以上-6万未満	N	2	2	1	0	0	5
	%	1.9%	2.0%	1.1%	0.0%	0.0%	1.6%
6万以上-7万未満	N	0	0	0	0	0	0
	%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
7万以上-8万未満	N	0	1	0	0	0	1
	%	0.0%	1.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.3%
8万以上-9万未満	N	0	0	0	1	0	1
	%	0.0%	0.0%	0.0%	10.0%	0.0%	0.3%
9万以上-10万未満	N	0	0	1	0	0	1
	%	0.0%	0.0%	1.1%	0.0%	0.0%	0.3%
10万以上-11万未満	N	0	1	1	0	0	2
	%	0.0%	1.0%	1.1%	0.0%	0.0%	0.6%
11万以上-11万未満	N	0	0	0	0	0	0
	%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
12万以上-12万未満	N	0	0	1	0	0	1
	%	0.0%	0.0%	1.1%	0.0%	0.0%	0.3%
13万以上-	N	1	1	0	0	0	2
	%	0.9%	1.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.6%
Total	N	107	101	92	10	0	310
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%	100.0%

Q18		Q1【年次】					Total
		1年次	2年次	3年次	留年生	未記入	
1万未満	N	69	63	49	9	0	190
	%	93.2%	95.5%	84.5%	100.0%	0.0%	91.8%
1万以上-2万未満	N	4	2	5	0	0	11
	%	5.4%	3.0%	8.6%	0.0%	0.0%	5.3%
2万以上-3万未満	N	0	1	3	0	0	4
	%	0.0%	1.5%	5.2%	0.0%	0.0%	1.9%
3万以上-4万未満	N	1	0	0	0	0	1
	%	1.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.5%
4万以上-5万未満	N	0	0	0	0	0	0
	%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
Total	N	74	66	58	9	0	207
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%	100.0%

(2) アルバイト経験

アルバイト経験のある学生は、1年次で70.5%、2年次で77.6%、3年次で75.0%、留年生で50.0%であった。2年次以上でアルバイトをする学生が増えている。年間を通じてアルバイトをする学生が相対的に多く、1年次で28.2%、2年次で45.7%、3年次で49.1%、留年生で28.6%であった。特に、3年次では、約半数が年間を通じてアルバイトをしている。

Q19 アルバイトを行いましたか。

- 1 しなかった (Q21へ) 2 長期休暇中のみ 3 必要に応じてそのつど
4 授業期間中定期的に：平均、週 [] 日 5 年間を通じて：平均、週 [] 日

		Q1【年次】						
			1年次	2年次	3年次	留年生	no answer	Total
Q19	1.0	N	40	26	27	7	0	100
		%	30.5%	22.4%	25.0%	50.0%	0.0%	27.0%
	2.0	N	11	4	3	0	0	18
		%	8.4%	3.4%	2.8%	0.0%	0.0%	4.9%
	3.0	N	20	13	8	2	1	44
		%	15.3%	11.2%	7.4%	14.3%	100.0%	11.9%
	4.0	N	20	20	17	1	0	58
		%	15.3%	17.2%	15.7%	7.1%	0.0%	15.7%
	4.5	N	1	0	0	0	0	1
		%	0.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.3%
	5.0	N	37	53	53	4	0	147
		%	28.2%	45.7%	49.1%	28.6%	0.0%	39.7%
	no answer	N	2	0	0	0	0	2
		%	1.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.5%
	Total	N	131	116	108	14	1	370
		%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(3) アルバイト先

アルバイト先は、「1 飲食」が多く、1年次で35.0%、2年次で41.9%、3年次で34.6%、留年生で42.9%であった。「4 IT関係」「5 学内(SAなど)」は、10%程度であった。

Q20 それはどんなアルバイトでしたか。複数ある場合は主なものを2つ選んでください。

- 1 飲食（レストランなど） 2 物販（コンビニなど） 3 家庭教師・塾講師
4 IT関係 5 学内（SAなど） 6 その他（ ）

		Q1【年次】					Total	
		1年次	2年次	3年次	留年生	no answer		
\$Q20アルバイト	1	N	28	36	27	3	1	95
		%	35.0%	41.9%	34.6%	42.9%	100.0%	37.7%
	2	N	18	22	25	1	0	66
		%	22.5%	25.6%	32.1%	14.3%	0.0%	26.2%
	3	N	19	19	19	2	0	59
		%	23.8%	22.1%	24.4%	28.6%	0.0%	23.4%
	4	N	7	7	8	0	0	22
		%	8.8%	8.1%	10.3%	0.0%	0.0%	8.7%
	5	N	6	10	10	0	0	26
		%	7.5%	11.6%	12.8%	0.0%	0.0%	10.3%
	6	N	10	9	2	2	0	23
		%	12.5%	10.5%	2.6%	28.6%	0.0%	9.1%
	no answer	N	70	69	64	6	1	210
		%	87.5%	80.2%	82.1%	85.7%	100.0%	83.3%
	Total	N	80	86	78	7	1	252
		%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

4. 学習生活

(1) 勉強時間

授業時間以外で1日に勉強する時間の平均は、1年次で1.83±1.36時間、2年次で2.40±1.30時間、3年次で2.65±2.36時間、

Q22 昨年度、授業を受けている時間以外の勉強時間（課題のための時間を含む）は1日あたり平均して何時間でしたか。

1 [] 時間/日 2 勉強しなかった

		Q1【年次】					Total
		1年次	2年次	3年次	留年生	no answer	
Q22_時間	N	131	116	108	14	1	370
	mean	1.83	2.40	2.65	2.75	1.00	2.29
	SD	1.36	1.30	2.36	1.99	.	1.76

(2) 専門科目の学習理解

専門科目の授業でその内容をほぼ理解できたと思える科目の割合は、1年次約5.7割、2年次で約5.6割、3年次で約5.6割だった。全体の平均は、約5.6割であった。

Q26 昨年度、受講した専門科目の授業のなかで、授業の内容をほぼ理解できたと思えるのは、全体の何割ぐらいの科目でしたか。

[] 割ぐらい

		Q1【年次】					Total
		1年次	2年次	3年次	留年生	no answer	
Q26	N	131	116	108	14	1	370
	mean	5.68	5.64	5.58	5.21	5.00	5.62
	SD	2.23	2.11	2.27	2.69	0	2.21

(3)出席率

授業の出席率は、1年次が約9.0割、2年次が約9.0割、3年次が約9.1割、留年生が約7.6割であった。

Q27 昨年度、授業の出席率は平均してどのくらいの割合ですか。

[] 割ぐらい

		Q1【年次】					
		1年次	2年次	3年次	留年生	no answer	Total
Q27	N	131	116	108	14	1	370
	mean	8.97	9.01	9.10	7.64	9.00	8.97
	SD	1.75	.99	1.29	3.00	.	1.50

(4)発達

全体的に平均値は低いものの、「7 コンピュータを活用する力」については、全学生が比較的能力の伸びを自覚していた項目であった。「8 健康を保つ力」は、他の項目よりも全学年で平均値が低かった。2年生は2.44、3年生は2.42、新4年生は2.34と、学年が上がる程、健康を保つ力の伸びを自覚していない。

Q34 次のことは、大学に入学してからどのくらい伸びましたか。

4 おおいに伸びた 3 少しは伸びた 2 どちらともいえない 1 伸びなかった

1 文章を書く力	4	3	2	1
2 文章を読む力	4	3	2	1
3 人と協力してものごとを進める力	4	3	2	1
4 人間関係を作る力	4	3	2	1
5 自分の意見を述べる力	4	3	2	1
6 筋道を立てて考える力	4	3	2	1
7 コンピュータを活用する力	4	3	2	1
8 健康を保つ力	4	3	2	1
9 目標に向かって努力する力	4	3	2	1
10 それ以外で伸びた力は何ですか。				

		Q1【学年】				
		2年生	3年生	新4年生	留年生	no answer
Q34-1	mean	2.62	2.63	2.47	2.86	2.00
	SD	.84	.74	.81	.53	.
Q34-2	mean	2.73	2.81	2.66	2.86	2.00
	SD	.82	.70	.78	.53	.
Q34-3	mean	2.69	2.88	2.98	2.43	3.00
	SD	.85	.80	.98	1.02	.
Q34-4	mean	2.69	2.95	2.90	2.43	3.00
	SD	.95	.87	.95	1.02	.
Q34-5	mean	2.69	2.78	2.84	2.79	2.00
	SD	.86	.73	.91	.80	.
Q34-6	mean	2.85	2.94	3.05	3.07	3.00
	SD	.80	.73	.78	.62	.
Q34-7	mean	3.31	3.41	3.45	3.36	3.00
	SD	.72	.72	.70	.74	.
Q34-8	mean	2.44	2.42	2.34	2.36	2.00
	SD	.93	.91	.96	1.15	.
Q34-9	mean	2.73	2.86	2.81	2.71	2.00
	SD	.80	.81	.84	.99	.

5. 充実感・満足感、友人関係、大学生活意欲

(1) 充実感

「5 とても充実していた」「4 どちらかといえば充実していた」を合わせると、全学年の71.6%が昨年度は充実した学生生活を送っていたことがわかる。特に、3年次が74.1%と平均値が高かった。

Q28 昨年度、あなたの学生生活は充実していましたか。

- 5 とても充実していた 4 どちらかといえば充実していた 3 どちらともいえない
 2 どちらかといえば充実していなかった 1 まったく充実していなかった

			Q1【年次】					
			1年次	2年次	3年次	留年生	no answer	Total
Q28	1	N	7	2	1	2	0	12
		%	5.3%	1.7%	0.9%	14.3%	0.0%	3.2%
	2	N	8	5	7	1	0	21
		%	6.1%	4.3%	6.5%	7.1%	0.0%	5.7%
	3	N	20	24	16	5	0	65
		%	15.3%	20.7%	14.8%	35.7%	0.0%	17.6%
	4	N	48	60	51	2	1	162
		%	36.6%	51.7%	47.2%	14.3%	100.0%	43.8%
	5	N	46	24	29	4	0	103
		%	35.1%	20.7%	26.9%	28.6%	0.0%	27.8%
	no answer	N	2	1	4	0	0	7
		%	1.5%	0.9%	3.7%	0.0%	0.0%	1.9%
	Total	N	131	116	108	14	1	370
		%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(2) 満足感

学生は、特に「1 友人を得ること」(3.97)、「4 自由な時間を持つこと」(3.95)、「2 知識・技術を身につけること」(3.76)に対し、満足度が高いことがわかる。

Q29 昨年度、あなたは学生生活についてどの程度満足していますか。それぞれについて回答してください。

- 5 とても満足している 4 どちらかといえば満足している 3 どちらともいえない
2 どちらかといえば満足していない 1 まったく満足していない

1 友人を得ること	5	4	3	2	1
2 知識・技術を身につけること	5	4	3	2	1
3 クラブ・サークル活動	5	4	3	2	1
4 自由な時間を持つこと	5	4	3	2	1
5 大学の施設・設備	5	4	3	2	1
6 授業の内容	5	4	3	2	1
7 教授陣	5	4	3	2	1
8 カリキュラム構成	5	4	3	2	1
9 奨学金制度	5	4	3	2	1
10 就職指導体制	5	4	3	2	1
11 学生相談・保健室	5	4	3	2	1

		Q1【年次】					
		1年次	2年次	3年次	留年生	no answer	Total
Q29-1	mean	4.05	3.91	4.02	3.36	4.00	3.97
	SD	1.05	1.02	1.00	1.50	.	1.05
Q29-2	mean	3.75	3.76	3.79	3.71	3.00	3.76
	SD	1.00	.88	.97	.99	.	.95
Q29-3	mean	3.39	3.38	3.42	2.93	5.00	3.38
	SD	1.24	1.20	1.21	1.49	.	1.23
Q29-4	mean	4.03	3.77	4.04	4.00	4.00	3.95
	SD	1.05	1.09	1.05	1.47	.	1.08
Q29-5	mean	3.81	3.55	3.79	3.71	3.00	3.72
	SD	.92	.94	.85	.99	.	.92
Q29-6	mean	3.58	3.59	3.49	3.57	3.00	3.55
	SD	.90	.81	.87	1.16	.	.87
Q29-7	mean	3.52	3.58	3.49	3.71	3.00	3.53
	SD	.92	.87	.91	1.14	.	.91
Q29-8	mean	3.67	3.50	3.45	3.86	3.00	3.56
	SD	.83	.84	.83	.77	.	.83
Q29-9	mean	3.38	3.46	3.46	3.00	3.00	3.41
	SD	.89	1.05	.97	1.24	.	.98
Q29-10	mean	3.26	3.29	3.49	3.71	4.00	3.36
	SD	.65	.76	1.03	1.20	.	.84
Q29-11	mean	3.51	3.38	3.45	4.00	3.00	3.47
	SD	.81	.73	.99	.88	.	.85

(3) 友人関係

学習面で情報交換したり、助け合ったりできる友人がいると回答した学生は、全体の87.6%だった。一方、生活面で気軽に話ができる友人については、79.7%の学生がいると回答した。学習面よりも、生活面に関して話をする友人が少ないことがわかった。

Q43 授業や課題、テストのことなど学習面で情報交換したり、助け合ったりできる友人がいますか。

1 いる 2 いない

Q44 生活面の悩みごとや心配ごとなどを気軽に話ができる友人がいますか。

1 いる 2 いない

			Q1【学年】					
			2年生	3年生	新4年生	留年生	no answer	Total
Q31	1.0	N	17	27	25	3	0	72
		列の N %	13.0%	23.3%	23.1%	21.4%	0.0%	19.5%
	1.2	N	3	0	0	0	0	3
		列の N %	2.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.8%
	2.0	N	12	4	5	0	0	21
		列の N %	9.2%	3.4%	4.6%	0.0%	0.0%	5.7%
	3.0	N	65	69	76	9	1	220
		列の N %	49.6%	59.5%	70.4%	64.3%	100.0%	59.5%
	4.0	N	1	1	0	0	0	2
		列の N %	0.8%	0.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.5%
	5.0	N	32	13	2	2	0	49
		列の N %	24.4%	11.2%	1.9%	14.3%	0.0%	13.2%
	6.0	N	0	2	0	0	0	2
		列の N %	0.0%	1.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.5%
	no answer	N	1	0	0	0	0	1
		列の N %	0.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.3%
	Total	N	131	116	108	14	1	370
		列の N %	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(2) 進路と大学生活

卒業後の進路を考えるうえで、これまでの大学生活が役立っているとする者（「5 おおいに役立っている」か「4 どちらかといえば役立っている」を選択）は、2年生で62.6%、3年生で69.8%、4年生で80.6%、留年生で78.6%であった。

Q32 卒業後の進路を考えるうえで、これまでの大学生活は役立っていますか。

- 5 おおいに役立っている 4 どちらかといえば役立っている 3 どちらともいえない
2 どちらかといえば役立っていない 1 まったく役立っていない

			Q1【学年】					
			2年生	3年生	新4年生	留年生	no answer	Total
\$Q33卒業後進路	1	N	24	16	27	3	0	70
		%	80.0%	57.1%	65.9%	75.0%	0.0%	68.0%
	2	N	2	5	8	2	0	17
		%	6.7%	17.9%	19.5%	50.0%	0.0%	16.5%
	3	N	6	10	8	0	0	24
		%	20.0%	35.7%	19.5%	0.0%	0.0%	23.3%
	4	N	7	3	9	0	0	19
		%	23.3%	10.7%	22.0%	0.0%	0.0%	18.4%
	5	N	2	3	3	0	0	8
		%	6.7%	10.7%	7.3%	0.0%	0.0%	7.8%
	6	N	5	7	6	1	0	19
		%	16.7%	25.0%	14.6%	25.0%	0.0%	18.4%
	7	N	8	9	13	0	0	30
		%	26.7%	32.1%	31.7%	0.0%	0.0%	29.1%
	8	N	4	1	4	0	0	9
		%	13.3%	3.6%	9.8%	0.0%	0.0%	8.7%
	9	N	0	1	0	1	0	2
		%	0.0%	3.6%	0.0%	25.0%	0.0%	1.9%
	no answer	N	2	1	3	1	0	7
%		6.7%	3.6%	7.3%	25.0%	0.0%	6.8%	
Total	N	30	28	41	4	0	103	
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%	100.0%	

7. 健康

(1) 不安や悩み

不安や悩みがある学生は2年生が31.3%、3年生が50.9%、4年生が50.9%、留年生が50.0%であった。

Q45 不安や悩みがありますか。

- 1 不安・悩みがある 2 不安・悩みはない (Q47へ)

			Q1【学年】					
			2年生	3年生	新4年生	留年生	no answer	Total
Q45	1	N	41	59	55	7	1	163
		列の N %	31.3%	50.9%	50.9%	50.0%	100.0%	44.1%
	2	N	84	57	53	7	0	201
		列の N %	64.1%	49.1%	49.1%	50.0%	0.0%	54.3%
	no answer	N	6	0	0	0	0	6
		列の N %	4.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.6%
	Total	N	131	116	108	14	1	370
		列の N %	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(2) 不安や悩みの種類

不安や悩みの種類で比率が高いのが「6 就職や将来の進路」(68.1%)であった。次いで、「1 学業」(53.4%)、「3 性格・能力」(42.3%)の順に高い比率を示していた。

Q46 それはどのような不安・悩みですか。次のものから3つまで選んでください。

[] [] []

- 1 学業 2 健康 3 性格・能力 4 人生観 5 課外活動 6 就職や将来の進路
 7 友人等の対人関係のこと 8 異性の問題 9 性の問題
 10 経済問題(家計、学費、ローン) 11 家族や家庭内のこと 12 その他 []

			Q1【学年】					
			2年生	3年生	新4年生	留年生	no answer	Total
\$Q46不安内容	1	N	28	32	22	5	0	87
		%	68.3%	54.2%	40.0%	71.4%	0.0%	53.4%
	2	N	6	12	12	3	0	33
		%	14.6%	20.3%	21.8%	42.9%	0.0%	20.2%
	3	N	18	24	25	2	0	69
		%	43.9%	40.7%	45.5%	28.6%	0.0%	42.3%
	4	N	6	12	16	1	0	35
		%	14.6%	20.3%	29.1%	14.3%	0.0%	21.5%
	5	N	0	1	0	0	0	1
		%	0.0%	1.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.6%
	6	N	30	48	28	4	1	111
		%	73.2%	81.4%	50.9%	57.1%	100.0%	68.1%
	7	N	8	6	7	1	0	22
		%	19.5%	10.2%	12.7%	14.3%	0.0%	13.5%
	8	N	1	6	2	0	0	9
		%	2.4%	10.2%	3.6%	0.0%	0.0%	5.5%
	9	N	0	2	0	0	0	2
		%	0.0%	3.4%	0.0%	0.0%	0.0%	1.2%
	10	N	5	8	10	0	0	23
		%	12.2%	13.6%	18.2%	0.0%	0.0%	14.1%
	11	N	2	4	6	0	0	12
		%	4.9%	6.8%	10.9%	0.0%	0.0%	7.4%
	12	N	1	2	2	1	0	6
		%	2.4%	3.4%	3.6%	14.3%	0.0%	3.7%
no answer	N	14	15	23	3	1	56	
	%	34.1%	25.4%	41.8%	42.9%	100.0%	34.4%	
Total	N	41	59	55	7	1	163	
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	

(3) 喫煙の有無

全体の92.7%が非喫煙者である。

Q47 喫煙はしますか。

1 はい

2 いいえ

(5) インターネット依存

「よくある」「ときどきある」と答えたネット依存傾向にある学生は全体の59.5%であった。

Q35 PC・携帯でインターネットに接続する時間が長くなり、日常生活に支障が出てきても、ネットから離れにくいということがありますか。

4 よくある 3 ときどきある 2 あまりない 1 まったくない

			Q1【学年】					
			2年生	3年生	新4年生	留年生	no answer	Total
Q35	1	N	12	6	11	1	0	30
		列の N %	9.2%	5.2%	10.2%	7.1%	0.0%	8.1%
	2	N	35	44	36	4	0	119
		列の N %	26.7%	37.9%	33.3%	28.6%	0.0%	32.2%
	3	N	58	43	38	5	1	145
		列の N %	44.3%	37.1%	35.2%	35.7%	100.0%	39.2%
	4	N	25	23	23	4	0	75
		列の N %	19.1%	19.8%	21.3%	28.6%	0.0%	20.3%
no	answer	N	1	0	0	0	0	1
		列の N %	0.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.3%
Total		N	131	116	108	14	1	370
		列の N %	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(6) 体重のコントロール

意識的に体重のコントロールを実践している者は、全体の40.3%であった。

Q49 自分の体重を認識し、意識的に体重コントロールを実践していますか。

1 はい 2 いいえ

			Q1【学年】					
			2年生	3年生	新4年生	留年生	no answer	Total
Q49	1	N	52	51	40	6	0	149
		列の N %	39.7%	44.0%	37.0%	42.9%	0.0%	40.3%
	2	N	75	65	68	8	1	217
		列の N %	57.3%	56.0%	63.0%	57.1%	100.0%	58.6%
no	answer	N	4	0	0	0	0	4
		列の N %	3.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.1%
Total		N	131	116	108	14	1	370
		列の N %	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(9) 受動喫煙の害

全体の95.4%が、受動喫煙の害について認識していた。

Q53 受動喫煙の害について知っていますか。

3 よく知っている 2 少し知っている 1 知らない

			Q1【学年】					
			2年生	3年生	新4年生	留年生	no answer	Total
Q53	1	N	4	3	5	0	0	12
		列の N %	3.1%	2.6%	4.6%	0.0%	0.0%	3.2%
	2	N	35	30	37	2	0	104
		列の N %	26.7%	25.9%	34.3%	14.3%	0.0%	28.1%
	3	N	87	83	66	12	1	249
		列の N %	66.4%	71.6%	61.1%	85.7%	100.0%	67.3%
no	answer	N	5	0	0	0	0	5
		列の N %	3.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.4%
Total		N	131	116	108	14	1	370
		列の N %	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(10) 身体的健康

身体的健康について4件法で回答を得た。全体の84.3%が「健康である」「ほぼ健康である」と答えていた。

Q54 あなたの身体面の健康についてあてはまるものを選んで下さい。

1 健康である 2 ほぼ健康である 3 あまり健康ではない 4 健康ではない

			Q1【学年】					
			2年生	3年生	新4年生	留年生	no answer	Total
Q54	1	N	37	28	22	5	1	93
		列の N %	28.2%	24.1%	20.4%	35.7%	100.0%	25.1%
	2	N	75	72	65	7	0	219
		列の N %	57.3%	62.1%	60.2%	50.0%	0.0%	59.2%
	3	N	10	15	19	2	0	46
		列の N %	7.6%	12.9%	17.6%	14.3%	0.0%	12.4%
	4	N	5	1	2	0	0	8
		列の N %	3.8%	0.9%	1.9%	0.0%	0.0%	2.2%
no	answer	N	4	0	0	0	0	4
		列の N %	3.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.1%
Total		N	131	116	108	14	1	370
		列の N %	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(11) 精神的健康

精神的健康について4件法で回答を得た。全体の43.5%が「健康である」「ほぼ健康である」と答えている。

Q50 あなたの精神面の健康についてあてはまるものを選んで下さい。

- 1 健康である 2 ほぼ健康である 3 あまり健康ではない 4 健康ではない

			Q1【学年】					
			2年生	3年生	新4年生	留年生	no answer	Total
Q50	1	N	13	11	4	3	0	31
		列の N %	9.9%	9.5%	3.7%	21.4%	0.0%	8.4%
	2	N	51	34	41	3	1	130
		列の N %	38.9%	29.3%	38.0%	21.4%	100.0%	35.1%
	3	N	39	48	42	3	0	132
		列の N %	29.8%	41.4%	38.9%	21.4%	0.0%	35.7%
	4	N	24	23	21	5	0	73
		列の N %	18.3%	19.8%	19.4%	35.7%	0.0%	19.7%
no	answer	N	4	0	0	0	0	4
		列の N %	3.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.1%
Total		N	131	116	108	14	1	370
		列の N %	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(12) 食生活

3食きちんと食べていた学生は1年次37.4%、2年次27.6%、3年次25.9%と、上学年ほど食事が不規則であり、そのうち約9割が朝食を抜いていた。

Q37 3食きちんと食べていましたか。

- 1 毎日きちんと食べていた 2 週1～2回どれかを食べないときがあった
 3 週3～4回どれかを食べないときがあった 4 毎日きちんと食べていなかった

			Q1【年次】					
			1年次	2年次	3年次	留年生	no answer	Total
Q37	1	N	49	32	28	8	0	117
		%	37.4%	27.6%	25.9%	57.1%	0.0%	31.6%
	2	N	38	34	30	1	1	104
		%	29.0%	29.3%	27.8%	7.1%	100.0%	28.1%
	3	N	22	25	20	3	0	70
		%	16.8%	21.6%	18.5%	21.4%	0.0%	18.9%
	4	N	16	25	30	2	0	73
		%	12.2%	21.6%	27.8%	14.3%	0.0%	19.7%
	no answer	N	6	0	0	0	0	6
		%	4.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.6%
	Total	N	131	116	108	14	1	370
		%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

Q38 よく食べないのはどれですか。1つ選んでください。(Q20で2～4の方のみ回答)

- 1 朝食 2 昼食 3 夕食

			Q1【年次】					
			1年次	2年次	3年次	留年生	no answer	Total
Q38	1	N	35	46	48	3	0	132
		%	79.5%	92.0%	96.0%	60.0%	0.0%	88.6%
	2	N	3	4	1	2	0	10
		%	6.8%	8.0%	2.0%	40.0%	0.0%	6.7%
	3	N	0	0	1	0	0	1
		%	0.0%	0.0%	2.0%	0.0%	0.0%	0.7%
	no answer	N	6	0	0	0	0	6
		%	13.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	4.0%
	Total	N	44	50	50	5	0	149
		%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%	100.0%

(13) 食事のバランス

全体の75.5%の学生は週に一回以上、就寝前2時間以内に食事をとっており、57.3%がバランスの取れている食事をしていなかった。

Q39 就寝前2時間以内に食事をとることがありましたか。

- 1 毎日ある 2 週3～4回ある 3 週1～2回ある 4 まったくない

			Q1【年次】					
			1年次	2年次	3年次	留年生	no answer	Total
Q39	1	N	13	4	7	1	0	25
		%	9.9%	3.4%	6.5%	7.1%	0.0%	6.8%
	2	N	31	44	30	4	0	109
		%	23.7%	37.9%	27.8%	28.6%	0.0%	29.5%
	3	N	51	46	42	5	1	145
		%	38.9%	39.7%	38.9%	35.7%	100.0%	39.2%
	4	N	30	22	29	4	0	85
		%	22.9%	19.0%	26.9%	28.6%	0.0%	23.0%
	no answer	N	6	0	0	0	0	6
		%	4.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.6%
Total		N	131	116	108	14	1	370
		%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

Q40 食事を取るにあたって、主食、主菜、副菜のバランスはとれていますか。

- 1 とれている 2 どちらかといえばとれている 3 どちらかといえばとれていない
4 まったくとれていない

			Q1【年次】					
			1年次	2年次	3年次	留年生	no answer	Total
Q40	1	N	18	9	5	5	0	37
		%	13.7%	7.8%	4.6%	35.7%	0.0%	10.0%
	2	N	42	32	36	4	1	115
		%	32.1%	27.6%	33.3%	28.6%	100.0%	31.1%
	3	N	47	60	46	2	0	155
		%	35.9%	51.7%	42.6%	14.3%	0.0%	41.9%
	4	N	18	15	21	3	0	57
		%	13.7%	12.9%	19.4%	21.4%	0.0%	15.4%
	no answer	N	6	0	0	0	0	6
		%	4.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.6%
Total		N	131	116	108	14	1	370
		%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(14) 昼食時の栄養

全体の95.1%が主食を食べ、90.0%は水分を摂っている。一方、副菜は47.3%、主菜は75.4%、乳製品は35.1%、果物は16.8%しか食べていない。全体の41.9%はお菓子・嗜好飲料を食している。

Q41 ふだんの昼食で食べているものは何ですか。

1	主食（ご飯 パン そば うどん カップめん）	1	食べている	2	食べていない
2	副菜（サラダ 野菜の煮物 野菜炒め 煮豆など）	1	食べている	2	食べていない
3	主菜（豆腐 納豆 卵 肉 魚）	1	食べている	2	食べていない
4	牛乳 乳製品（牛乳 チーズ ヨーグルト）	1	食べている	2	食べていない
5	果物	1	食べている	2	食べていない
6	お菓子（カロリーメイト、菓子パンなどを含む）・嗜好飲料	1	食べている	2	食べていない
7	水分（水、お茶など糖分が入ってない飲み物）	1	飲んでいる	2	飲んでいない

Q1【年次】

			1年次	2年次	3年次	留年生	no answer	Total
Q41-1	1	N	119	114	105	13	1	352
		%	90.8%	98.3%	97.2%	92.9%	100.0%	95.1%
	2	N	4	1	2	1	0	8
		%	3.1%	0.9%	1.9%	7.1%	0.0%	2.2%
	no answer	N	8	1	1	0	0	10
		%	6.1%	0.9%	0.9%	0.0%	0.0%	2.7%
Total	N	131	116	108	14	1	370	
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	

Q1【年次】

			1年次	2年次	3年次	留年生	no answer	Total
Q41-2	1	N	64	60	49	9	1	183
		%	48.9%	51.7%	45.4%	64.3%	100.0%	49.5%
	2	N	58	54	58	5	0	175
		%	44.3%	46.6%	53.7%	35.7%	0.0%	47.3%
	no answer	N	9	2	1	0	0	12
		%	6.9%	1.7%	0.9%	0.0%	0.0%	3.2%
Total	N	131	116	108	14	1	370	
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	

			Q1【年次】					
			1年次	2年次	3年次	留年生	no answer	Total
Q41-3	1	N	99	86	81	12	1	279
		%	75.6%	74.1%	75.0%	85.7%	100.0%	75.4%
	2	N	23	29	26	1	0	79
		%	17.6%	25.0%	24.1%	7.1%	0.0%	21.4%
	no answer	N	9	1	1	1	0	12
		%	6.9%	0.9%	0.9%	7.1%	0.0%	3.2%
Total	N	131	116	108	14	1	370	
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	

			Q1【年次】					
			1年次	2年次	3年次	留年生	no answer	Total
Q41-4	1	N	46	41	34	9	0	130
		%	35.1%	35.3%	31.5%	64.3%	0.0%	35.1%
	2	N	75	73	71	4	1	224
		%	57.3%	62.9%	65.7%	28.6%	100.0%	60.5%
	no answer	N	10	2	3	1	0	16
		%	7.6%	1.7%	2.8%	7.1%	0.0%	4.3%
Total	N	131	116	108	14	1	370	
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	

			Q1【年次】					
			1年次	2年次	3年次	留年生	no answer	Total
Q41-5	1	N	26	16	16	4	0	62
		%	19.8%	13.8%	14.8%	28.6%	0.0%	16.8%
	2	N	93	98	90	9	1	291
		%	71.0%	84.5%	83.3%	64.3%	100.0%	78.6%
	no answer	N	12	2	2	1	0	17
		%	9.2%	1.7%	1.9%	7.1%	0.0%	4.6%
Total	N	131	116	108	14	1	370	
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	

			Q1【年次】					
			1年次	2年次	3年次	留年生	no answer	Total
Q41-6	1	N	54	44	48	9	0	155
		%	41.2%	37.9%	44.4%	64.3%	0.0%	41.9%
	2	N	66	71	57	4	1	199
		%	50.4%	61.2%	52.8%	28.6%	100.0%	53.8%
	no answer	N	11	1	3	1	0	16
		%	8.4%	0.9%	2.8%	7.1%	0.0%	4.3%
Total	N	131	116	108	14	1	370	
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	

			Q1【年次】					
			1年次	2年次	3年次	留年生	no answer	Total
Q41-7	1	N	112	109	99	12	1	333
		%	85.5%	94.0%	91.7%	85.7%	100.0%	90.0%
	2	N	9	6	8	2	0	25
		%	6.9%	5.2%	7.4%	14.3%	0.0%	6.8%
	no answer	N	10	1	1	0	0	12
		%	7.6%	0.9%	0.9%	0.0%	0.0%	3.2%
Total	N	131	116	108	14	1	370	
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	

(15) 朝食定期券

朝食定期券をほぼ毎月購入していた学生は、全体の6.5%で、何度か購入したことのある学生は全体の18.9%であった。ほぼ毎月購入していた学生は、1年次が最も比率が高かった(10.7%)。

Q42 学生食堂で販売されている朝食定期券を購入していましたか。

- 1 ほぼ毎月購入していた 2 何度か購入した 3 1度だけ購入した 4 購入したことがない

			Q1【年次】					
			1年次	2年次	3年次	留年生	no answer	Total
Q42	1	N	14	3	6	1	0	24
		%	10.7%	2.6%	5.6%	7.1%	0.0%	6.5%
	2	N	26	18	24	2	0	70
		%	19.8%	15.5%	22.2%	14.3%	0.0%	18.9%
	3	N	10	13	14	3	0	40
		%	7.6%	11.2%	13.0%	21.4%	0.0%	10.8%
	4	N	74	82	64	8	1	229
		%	56.5%	70.7%	59.3%	57.1%	100.0%	61.9%
	no answer	N	7	0	0	0	0	7
		%	5.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.9%
	Total	N	131	116	108	14	1	370
		%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(16) 学生相談室・保健室

1) 相談室

「1 困ったときに相談する人」は、全体の71.6%が「いる」と答えている。4年生では比率が低い。「2 何かあったら相談室に行ってみようと思う」には、全体の44.3%が利用してみようと思っている。「3 自己・他者理解を深めるグループプログラム」には、全体の46.5%が興味を持っている。

2) 保健室

「4 保健室の存在」は、全体の97.8%、「5 場所」は、全体の95.1%が認識している。「6 利用日時」は、全体の72.2%が認識していない。「7 体組成計を使った健康管理」は、全体の39.7%が希望していた。

Q56 会津大学の学生相談室及び保健室についてお答えください。

1	困ったときに相談する人はいますか	1 はい 2 いいえ
2	何かあったら相談室に行ってみようと思いますか	1 はい 2 いいえ
3	話しあいを通じて自分のコミュニケーションスタイルを学んだり、自己理解・他者理解を深めたりすることを目的としたグループ・プログラムに興味がありますか	1 はい 2 いいえ
4	保健室があることを知っていますか	1 はい 2 いいえ
5	保健室の場所を知っていますか	1 はい 2 いいえ
6	保健室の利用時間を知っていますか	1 はい 2 いいえ
7	保健室の体組成計を使って、意識的に健康管理をしたいと思いますか	1 はい 2 いいえ

			Q1【学年】					
			2年生	3年生	新4年生	留年生	no answer	Total
Q56-1	1	N	101	84	70	10	0	265
		列の N %	77.1%	72.4%	64.8%	71.4%	0.0%	71.6%
	2	N	26	32	38	4	1	101
		列の N %	19.8%	27.6%	35.2%	28.6%	100.0%	27.3%
	no answer	N	4	0	0	0	0	4
		列の N %	3.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.1%
	Total	N	131	116	108	14	1	370
		列の N %	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

			Q1【学年】					
			2年生	3年生	新4年生	留年生	no answer	Total
Q56-2	1	N	69	54	33	8	0	164
		列の N %	52.7%	46.6%	30.6%	57.1%	0.0%	44.3%
	2	N	58	62	75	6	1	202
		列の N %	44.3%	53.4%	69.4%	42.9%	100.0%	54.6%
	no answer	N	4	0	0	0	0	4
		列の N %	3.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.1%
	Total	N	131	116	108	14	1	370
		列の N %	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

			Q1【学年】					
			2年生	3年生	新4年生	留年生	no answer	Total
Q56-3	1	N	74	48	40	10	0	172
		列の N %	56.5%	41.4%	37.0%	71.4%	0.0%	46.5%
	2	N	53	68	68	4	1	194
		列の N %	40.5%	58.6%	63.0%	28.6%	100.0%	52.4%
	no answer	N	4	0	0	0	0	4
		列の N %	3.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.1%
	Total	N	131	116	108	14	1	370
		列の N %	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

			Q1【学年】					
			2年生	3年生	新4年生	留年生	no answer	Total
Q56-4	1	N	126	115	107	13	1	362
		列の N %	96.2%	99.1%	99.1%	92.9%	100.0%	97.8%
	2	N	1	1	1	1	0	4
		列の N %	0.8%	0.9%	0.9%	7.1%	0.0%	1.1%
	no answer	N	4	0	0	0	0	4
		列の N %	3.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.1%
	Total	N	131	116	108	14	1	370
		列の N %	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

			Q1【学年】					
			2年生	3年生	新4年生	留年生	no answer	Total
Q56-5	1	N	121	113	104	13	1	352
		列の N %	92.4%	97.4%	96.3%	92.9%	100.0%	95.1%
	2	N	6	3	4	1	0	14
		列の N %	4.6%	2.6%	3.7%	7.1%	0.0%	3.8%
	no answer	N	4	0	0	0	0	4
		列の N %	3.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.1%
	Total	N	131	116	108	14	1	370
		列の N %	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

			Q1【学年】					
			2年生	3年生	新4年生	留年生	no answer	Total
Q56-6	1	N	32	30	29	8	0	99
		列の N %	24.4%	25.9%	26.9%	57.1%	0.0%	26.8%
	2	N	95	86	79	6	1	267
		列の N %	72.5%	74.1%	73.1%	42.9%	100.0%	72.2%
	no answer	N	4	0	0	0	0	4
		列の N %	3.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.1%
	Total	N	131	116	108	14	1	370
		列の N %	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

			Q1【学年】					
			2年生	3年生	新4年生	留年生	no answer	Total
Q56-7	1	N	59	45	36	7	0	147
		列の N %	45.0%	38.8%	33.3%	50.0%	0.0%	39.7%
	2	N	68	70	72	7	1	218
		列の N %	51.9%	60.3%	66.7%	50.0%	100.0%	58.9%
	no answer	N	4	1	0	0	0	5
		列の N %	3.1%	0.9%	0.0%	0.0%	0.0%	1.4%
	Total	N	131	116	108	14	1	370
		列の N %	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(17) 修学支援室・就職支援室

「1 修学支援室と就職支援室との違い」を全体の80.0%の学生が認識している。学年が上がるにつれて比率が高くなる傾向にあった。「2 修学支援室の存在」を全体の97.3%の学生が知っている。「3 修学支援室の場所」を全体の85.9%の学生が知っており、全体の74.1%の学生が修学支援室を利用したことがあった。修学支援室を利用したいと思っている学生は、55.9%であった。

「6 就職支援室の存在」を全体の87.6%の学生が知っている。「7 就職支援室の場所」を知っている学生は、2年生が50.4%、3年生が73.3%、4年生が90.7%であった。「8 就職支援室を利用したことがある」学生は、2年生が12.2%、3年生が25.9%、4年生が64.8%となった。「9 就職支援室を利用したいと思っている」学生は、2年生が69.5%、3年生が72.4%、4年生が61.1%と、学年が上がるにつれて増えている。4年生で70%を超えている。

Q57 会津大学の修学支援室及び就職支援室についてお答えください。

1	修学支援室と就職支援室との違いを知っていますか	1 はい 2 いいえ
2	修学支援室があることを知っていますか	1 はい 2 いいえ
3	修学支援室の場所を知っていますか	1 はい 2 いいえ
4	修学支援室を利用したことがありますか	1 はい 2 いいえ
5	修学支援室を利用したいと思えますか	1 はい 2 いいえ
6	就職支援室があることを知っていますか	1 はい 2 いいえ
7	就職支援室の場所を知っていますか	1 はい 2 いいえ
8	就職支援室を利用したことがありますか	1 はい 2 いいえ
9	就職支援室を利用したいと思えますか	1 はい 2 いいえ

			Q1【学年】					
			2年生	3年生	新4年生	留年生	no answer	Total
Q57-1	1	N	92	92	99	12	1	296
		列の N %	70.2%	79.3%	91.7%	85.7%	100.0%	80.0%
	2	N	35	24	9	2	0	70
		列の N %	26.7%	20.7%	8.3%	14.3%	0.0%	18.9%
	no answer	N	4	0	0	0	0	4
		列の N %	3.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.1%
Total	N	131	116	108	14	1	370	
	列の N %	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	

			Q1【学年】					
			2年生	3年生	新4年生	留年生	no answer	Total
Q57-2	1	N	124	114	107	14	1	360
		列の N %	94.7%	98.3%	99.1%	100.0%	100.0%	97.3%
	2	N	3	2	1	0	0	6
		列の N %	2.3%	1.7%	0.9%	0.0%	0.0%	1.6%
	no answer	N	4	0	0	0	0	4
		列の N %	3.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.1%
Total	N	131	116	108	14	1	370	
	列の N %	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	

			Q1【学年】					
			2年生	3年生	新4年生	留年生	no answer	Total
Q57-3	1	N	109	95	99	14	1	318
		列の N %	83.2%	81.9%	91.7%	100.0%	100.0%	85.9%
	2	N	18	21	9	0	0	48
		列の N %	13.7%	18.1%	8.3%	0.0%	0.0%	13.0%
	no answer	N	4	0	0	0	0	4
		列の N %	3.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.1%
Total	N	131	116	108	14	1	370	
	列の N %	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	

			Q1【学年】					
			2年生	3年生	新4年生	留年生	no answer	Total
Q57-4	1	N	86	80	93	14	1	274
		列の N %	65.6%	69.0%	86.1%	100.0%	100.0%	74.1%
	2	N	41	36	14	0	0	91
		列の N %	31.3%	31.0%	13.0%	0.0%	0.0%	24.6%
	no answer	N	4	0	1	0	0	5
		列の N %	3.1%	0.0%	0.9%	0.0%	0.0%	1.4%
Total	N	131	116	108	14	1	370	
	列の N %	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	

			Q1【学年】					
			2年生	3年生	新4年生	留年生	no answer	Total
Q57-5	1	N	76	60	62	9	0	207
		列の N %	58.0%	51.7%	57.4%	64.3%	0.0%	55.9%
	2	N	51	56	46	5	1	159
		列の N %	38.9%	48.3%	42.6%	35.7%	100.0%	43.0%
	no answer	N	4	0	0	0	0	4
		列の N %	3.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.1%
Total	N	131	116	108	14	1	370	
	列の N %	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	

			Q1【学年】					
			2年生	3年生	新4年生	留年生	no answer	Total
Q57-6	1	N	98	104	107	14	1	324
		列の N %	74.8%	89.7%	99.1%	100.0%	100.0%	87.6%
	2	N	29	12	1	0	0	42
		列の N %	22.1%	10.3%	0.9%	0.0%	0.0%	11.4%
	no answer	N	4	0	0	0	0	4
		列の N %	3.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.1%
Total	N	131	116	108	14	1	370	
	列の N %	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	

			Q1【学年】					
			2年生	3年生	新4年生	留年生	no answer	Total
Q57-7	1	N	66	85	98	14	1	264
		列の N %	50.4%	73.3%	90.7%	100.0%	100.0%	71.4%
	2	N	61	31	10	0	0	102
		列の N %	46.6%	26.7%	9.3%	0.0%	0.0%	27.6%
	no answer	N	4	0	0	0	0	4
		列の N %	3.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.1%
Total	N	131	116	108	14	1	370	
	列の N %	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	

			Q1【学年】					
			2年生	3年生	新4年生	留年生	no answer	Total
Q57-8	1	N	16	30	70	12	1	129
		列の N %	12.2%	25.9%	64.8%	85.7%	100.0%	34.9%
	2	N	111	86	38	2	0	237
		列の N %	84.7%	74.1%	35.2%	14.3%	0.0%	64.1%
	no answer	N	4	0	0	0	0	4
		列の N %	3.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.1%
Total	N	131	116	108	14	1	370	
	列の N %	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	

			Q1【学年】					
			2年生	3年生	新4年生	留年生	no answer	Total
Q57-9	1	N	91	84	66	10	1	252
		列の N %	69.5%	72.4%	61.1%	71.4%	100.0%	68.1%
	2	N	36	32	42	4	0	114
		列の N %	27.5%	27.6%	38.9%	28.6%	0.0%	30.8%
	no answer	N	4	0	0	0	0	4
		列の N %	3.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.1%
Total	N	131	116	108	14	1	370	
	列の N %	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	

(18) 勉強や研究で困った際の対処

勉強や研究で困った際には、在学生の8割以上が先輩や友人に相談している。

Q58 勉強や研究のことで困った際はどのようにしていますか。以下から該当するものを全て選んでください。

- 1 先生に相談する 2 先輩や友人に相談する 3 修学支援室を利用する
 4 学生課に相談する 5 何もしない 6 勉強や研究のことで困らない
 7 その他 ()

		Q1【学年】						
		2年生	3年生	新4年生	留年生	no answer	Total	
\$Q58困った 際の対処	1	N 26	49	61	6	0	142	
		% 19.8%	42.2%	56.5%	42.9%	0.0%	38.4%	
2	N	113	86	88	8	1	296	
	%	86.3%	74.1%	81.5%	57.1%	100.0%	80.0%	
3	N	20	17	14	2	0	53	
	%	15.3%	14.7%	13.0%	14.3%	0.0%	14.3%	
4	N	1	1	3	2	0	7	
	%	0.8%	0.9%	2.8%	14.3%	0.0%	1.9%	
5	N	5	9	8	0	0	22	
	%	3.8%	7.8%	7.4%	0.0%	0.0%	5.9%	
6	N	1	1	0	0	0	2	
	%	0.8%	0.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.5%	
7	N	4	7	3	1	0	15	
	%	3.1%	6.0%	2.8%	7.1%	0.0%	4.1%	
no answer	N	131	116	108	14	1	370	
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
Total	N	131	116	108	14	1	370	
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	

8. その他

(1) セクシャルハラスメント

セクシャルハラスメント或いはアカデミックハラスメントを受けたことがあると答えた学生は9名であった。相談した学生と相談しなかった学生は、ほぼ同等の数値であり、相談しなかった理由として、「1 誰に相談していいかわからなかったから」が3名、「2 たいしたことではないから」が1名であった。

(2) 放射線等の心配

放射線等の心配をしている学生は全体の7.8%であった。

Q62 放射線等について、心配はありますか。

- 4 とても心配している 3 少し心配している
2 あまり心配していない 1 まったく心配していない

			Q1【学年】					
			2年生	3年生	新4年生	留年生	no answer	Total
Q62	1	N	74	62	47	8	0	191
		列の N %	56.5%	53.4%	43.5%	57.1%	0.0%	51.6%
	2	N	43	39	55	6	1	144
		列の N %	32.8%	33.6%	50.9%	42.9%	100.0%	38.9%
	3	N	10	11	6	0	0	27
		列の N %	7.6%	9.5%	5.6%	0.0%	0.0%	7.3%
	4	N	2	0	0	0	0	2
		列の N %	1.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.5%
no	answer	N	2	4	0	0	0	6
		列の N %	1.5%	3.4%	0.0%	0.0%	0.0%	1.6%
Total		N	131	116	108	14	1	370
		列の N %	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(5) 放射線等の対策

全体の78.1%の学生は、特に対策をしていない。

Q63 放射線等の対策をしていますか。該当するものすべてに○をつけてください。

- 1 外出の際には、マスクの着用などの対策をしている
2 飲食物に気を使っている
3 外出先の放射線量に注意している
4 それ以外の対策をしている →
()
5 対策をしていない

			Q1【学年】					
			2年生	3年生	新4年生	留年生	no answer	Total
\$Q63放射線対策	1	N	18	24	14	3	1	60
		%	13.7%	20.7%	13.0%	21.4%	100.0%	16.2%
	2	N	2	3	1	0	0	6
		%	1.5%	2.6%	0.9%	0.0%	0.0%	1.6%
	3	N	4	3	2	0	0	9
		%	3.1%	2.6%	1.9%	0.0%	0.0%	2.4%
	4	N	1	0	0	0	0	1
		%	0.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.3%
	5	N	107	80	91	11	0	289
		%	81.7%	69.0%	84.3%	78.6%	0.0%	78.1%
	no answer	N	131	116	108	14	1	370
		%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
Total	N	131	116	108	14	1	370	
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	

(6) 新型コロナウイルス感染症の心配

「とても心配している」「少し心配している」と回答した学生は、78.1%であった。

Q64 新型コロナウイルス感染症について、心配はありますか。

4 とても心配している 3 少し心配している 2 あまり心配していない 1 まったく心配していない

			Q1【学年】					
			2年生	3年生	新4年生	留年生	no answer	Total
Q64	1	N	13	3	4	2	0	22
		列の N %	9.9%	2.6%	3.7%	14.3%	0.0%	5.9%
	2	N	20	17	14	2	0	53
		列の N %	15.3%	14.7%	13.0%	14.3%	0.0%	14.3%
	3	N	61	62	56	5	1	185
		列の N %	46.6%	53.4%	51.9%	35.7%	100.0%	50.0%
	4	N	35	30	34	5	0	104
		列の N %	26.7%	25.9%	31.5%	35.7%	0.0%	28.1%
	no answer	N	2	4	0	0	0	6
		列の N %	1.5%	3.4%	0.0%	0.0%	0.0%	1.6%
	Total	N	131	116	108	14	1	370
		列の N %	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(7) 新型コロナウイルス感染症の対策

対策をしていない学生は6名だった。特に多い対策としては、マスクの着用（咳エチケット）であった。「4 新型コロナウイルス関連の情報について注意している」学生は、約半数であった。

Q65 新型コロナウイルス感染症の対策をしていますか。該当するものすべてに丸をつけてください。

- 1 外出の際には、マスクの着用（咳エチケット）などの対策をしている
- 2 石けんによる手洗いや手指消毒用アルコールによる消毒を行っている
- 3 なるべく人が多く集まる場所へ行かないようにしている
- 4 新型コロナウイルス関連の情報に注意している
- 5 それ以外の対策をしている → ()
- 6 対策をしていない

			Q1【学年】					
			2年生	3年生	新4年生	留年生	no answer	Total
\$Q65 コロナ対策	1	N	121	106	99	14	1	341
		%	92.4%	91.4%	91.7%	100.0%	100.0%	92.2%
	2	N	96	74	78	9	0	257
		%	73.3%	63.8%	72.2%	64.3%	0.0%	69.5%
	3	N	72	66	67	9	0	214
		%	55.0%	56.9%	62.0%	64.3%	0.0%	57.8%
	4	N	71	48	54	4	0	177
		%	54.2%	41.4%	50.0%	28.6%	0.0%	47.8%
	5	N	2	0	0	0	0	2
		%	1.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.5%
	6	N	3	1	2	0	0	6
		%	2.3%	0.9%	1.9%	0.0%	0.0%	1.6%
no answer		N	130	116	108	14	1	369
		%	99.2%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	99.7%
Total		N	131	116	108	14	1	370
		%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

引用・参考文献

- ベネッセ教育総研 2001 報告書「学生満足度と大学教育の問題」
- 菊地 則行 2000 98年度会津大学生の生活と意識2ークロス集計ー 会津大学文化研究センター研究年報 第6号 61-79
- 菊地 則行 2002 2000年度会津大学生の生活と意識2ークロス集計：学習生活の違いによる分析ー 会津大学文化研究センター研究年報 第8号 23-47
- 菊地 則行 2004 2002年度会津大学生の生活と意識2ークロス集計：学習スタイルの違いによる分析ー会津大学文化研究センター研究年報 第10号 39-61
- 菊地 則行・中澤 謙 1999 98年度会津大学新入生の生活と意識1ー基礎集計ー 会津大学文化研究センター研究年報 第5号 61-79報 第6号 37-89
- 菊地 則行・中澤 謙 2001 2000年度会津大学新入生の生活と意識1ー基礎集計ー 会津大学文化研究センター研究年報 第7号 63-86 会津大学文化研究センター研究年報 第8号 23-47
- 菊地 則行・中澤 謙 2003 2002年度会津大学生の生活と意識1ー基礎集計ー 会津大学文化研究センター研究年報 第9号 133-174
- 菊地 則行・中澤 謙 2005 2004年度会津大新入生の生活と意識1ー基礎集計ー 会津大学文化研究センター研究年報 第11号 33-50
- 菊地 則行・中澤 謙 2007 2006年度会津大生の生活と意識1ー基礎集計ー 会津大学文化研究センター研究年報 第13号 97-137
- 菊地 則行・中澤 謙 2009 2008年度会津大新入生の生活と意識1ー基礎集計ー 会津大学文化研究センター研究年報 第15号 53-71
- 菊地 則行・中澤 謙 2011 2010年度会津大学生の生活と意識1ー基礎集計ー 会津大学文化研究センター研究年報 第17号 91-137
- 菊地 則行・中澤 謙 2013 2012年度会津大学新入生の生活と意識1ー基礎集計ー 会津大学文化研究センター研究年報 第19号 109-132
- 菊地 則行・中澤 謙 2015 2014年度会津大学生の生活と意識1ー基礎集計ー 会津大学文化研究センター研究年報 第21号 137-188
- 菊地 則行・中澤 謙 2017 2016年度会津大学生の生活と意識1ー基礎集計ー 会津大学文化研究センター研究年報 第23号
- 中澤 謙 2019 2018年度会津大学生の生活と意識1ー基礎集計ー 会津大学文化研究センター研究年報 第23号
- 溝上 慎一 2001 大学生の自己と生き方ー大学生固有の意味世界に迫る大学生心理学ー ナカニシヤ
- 溝上 慎一 2002 大学生論ー戦後大学生論の系譜をふまえてー ナカニシヤ
- 溝上 慎一 2004 現代大学生論ーユニバーシティ・ブルーの風に揺れるー NHKブックス
- 中澤 謙・菊地 則行 1999 98年度会津大学生の生活と意識1ー基礎集計ー 会津大学文化研究センター研究年報 第5号 81-111
- 中澤 謙・菊地 則行 2001 2000年度会津大学生の生活と意識1ー基礎集計ー 会津大学文化研究センター研究年報 第7号 87-136
- 中澤 謙・菊地 則行 2003 2002年度会津大学新入生の生活と意識1ー基礎集計ー 会津大学文化研究センター研究年報 第9号 113-131
- 中澤 謙・菊地 則行 2005 2004年度会津大学生の生活と意識1ー基礎集計ー 会津大学文化研究センター研

究年報 第11号 51-92

中澤 謙・菊地 則行 2007 2006年度会津大学新入生の生活と意識 1－基礎集計－ 会津大学文化研究センター研究年報 第13号 139-157

中澤 謙・菊地 則行 2009 2008年度会津大学生の生活と意識 1－基礎集計－ 会津大学文化研究センター研究年報 第15号 73-113

中澤 謙・菊地 則行 2011 2010年度会津大学新入生の生活と意識 1－基礎集計－ 会津大学文化研究センター研究年報 第17号 69-90

中澤 謙・菊地 則行 2013 2012年度会津大学生の生活と意識 1－基礎集計－ 会津大学文化研究センター研究年報 第19号 133-193

中澤 謙・菊地 則行 2015 2014年度会津大学新入生の生活と意識 1－基礎集計－ 会津大学文化研究センター研究年報 第21号 111-134

中澤 謙・菊地 則行 2017 2016年度会津大学新入生の生活と意識 1－基礎集計－ 会津大学文化研究センター研究年報 第23号

中澤 謙 2019 2018年度会津大学新入生の生活と意識 1－基礎集計－ 会津大学文化研究センター研究年報 第23号

日本私立大学連盟 1992 キャンパスライフこの20年 開成出版

日本私立大学連盟 1995 第9回学生生活実態調査報告書

本報告書は、会津大学学生支援委員会が行った調査を沖・蛭名・中澤がまとめたものである。

体育実技科目における授業の再設計過程

～新型コロナウイルス感染症への対応～

中澤 謙 ・ 沖 和砂

1. はじめに

新型コロナウイルス感染症の感染拡大によるその後の緊急事態宣言の発令を受け、全ての科目で感染症対策を前提とした授業の再設計が求められた。体育実技科目が他の科目と大きく異なるのは、身体の移動を伴い状況依存性が高いところにある。したがって、体育の基本的な考え方や理論はあるとしても、実際の授業は実施する環境や受講者との相互作用といった状況や対象によって異なるものとなる。緊急事態宣言の発令後に生じた課題は、時間の経過と共に大きく変化し授業の再設計にはそれぞれの状況における文脈を考慮に入れることが必要とされた。こうした状況に依存した固有の文脈は時間の経過と共に更新されていくため、「その場その時」で実践知を共有し組織的に授業を改善していくための工夫が求められる。

状況に応じた文脈を考慮しながら授業実践を改善していく現実的な方法として、リフレクティブアプローチがある。リフレクションは、理論と実践とを結び付け、自らの経験を体系づけていく方法である (F.A.J.Korthagen, 2010)。田村 (2008) はリフレクションのプロセスについて「状況との対話をしながら、実践者が行動について意図的な選択を行い判断するために、経験を注意深く根気強く熟考するものであり、自己との対話を通して自分自身や自分の行為に意味づけをする」と定義づけている。リフレクションのプロセスでより気づきを深める機会を得るには、授業過程を明示化して他者と共有し多様な視座を得るのが効果的である。加えて、共有を図った内容を記述し残しておくことも重要である。なぜなら、個人の経験として蓄積されるリフレクションによる改善過程は、改善が進むに従い時間の経過と共に忘れ去られていくからである。信頼性と妥当性が担保された質問紙によるアセスメントと異なり、記述記録には理論と実践を繋ぐ暗黙的な省察過程の文脈が含まれる。本稿は、暗黙的な省察過程の明示化と共有化の観点から、コロナ禍における暗黙的な体育授業実践過程及び改善の過程を事例として報告するものである。

2. 体育実技授業の特徴及び感染症対策フェイズの定義

2. 1 会津大学の体育実技授業の特徴

会津大学は4学期制を基本とし、1コマ50分授業でカリキュラムを設計している。施設や人的リソースを考慮し、20人、30人、40人のクラスを作り、カリキュラムコース全体を走らせている。体育実技の卒業単位数は2で、体育実技1、2、3はセミスター制、体育実技4は集中講義の形式で実施している (表1)。

授業設計の留意事項は、クラスの構成員が入学時にランダムに振り分けられた固定メンバーであること、冬季には降雪により屋内での活動に限られることである。大学全体のカリキュラムコースが座位中心であることから、実際の目的は心身の健康と体力の保持増進に比重を置いたものとしている。体育実技への積極的な参加を通して、高校までに培ってきた知識・スキルと大学の新たな環

境下における新たな学びを統合して発揮（コンピテンス）していく過程を評価している。

表1 体育実技科目の標準設定年次・開講時期・週あたりのクラス数

科目名	標準設定年次	開講時期	単位数	クラス人数	クラス数/週
体育実技1	1年次	前期(1Q,2Q)	1	40	6
体育実技2	1年次	後期セミスター	1	40	6
体育実技3	2年次	前期セミスター	1	-	3
体育実技4	2年次以降	集中講義	1	-	-

2. 2 新型コロナウイルス感染症対策フェイズの定義

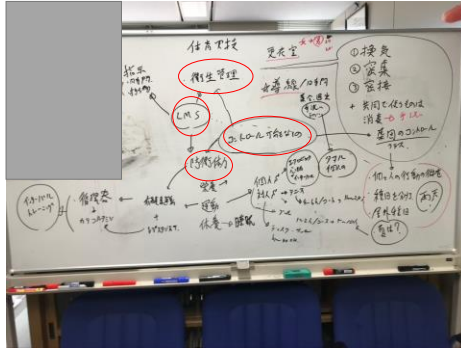
体育実技科目における新型コロナウイルス感染症対策の内容を時系列に整理するために、対策時期を次のように定義し整理した。体育実技1と3が対象となる前期（第1クォーター、第2クォーター）の授業期間を緊急事態宣言前後と緊急事態宣言中、緊急事態宣言解除後の4つのフェイズに分類した。体育実技2と4が対象となる後期（第3クォーター、第4クォーター）の授業期間を後期授業開始前後と第3クォーター開始から2回目の緊急事態宣言前後の4つのフェイズに分類した。

3 各フェイズにおける体育実技授業の再設計過程

3. 1. フェイズ1

教員間で体育実技授業を再設計していくにあたり、ホワイトボードを用い課題の見える化・共有化を図り、対話リフレクションを行った(WBR)。教員集会開催前の時期に、密集密接を避ける具体的手立てや換気・消毒がキーワードとして挙げられた。体育実技の枠組みの中でコントロール可能なことに絞りを絞り、学生の健康保持の観点から防衛体力が焦点になることや、更衣室や学生の導線、雨天対応、夏場に向けての対策について省察した。昨年度の内に試験的に導入をしていたLMSを利用すれば遠隔で学生への情報伝達が可能であることが確認された(図1)。教員集会を経て授業のオンライン化が決定し、学内でオンラインワーキンググループが組織づけされた。一部オンラインが難しい授業で広い空間が必要となることが想定され、体育館は教室化の構想下で使えない状況になった。この時点で授業を1ヶ月遅らせて教材作りに費やすか、遠隔でスケジュール通り行うかの判断を行った。昨年度実施済みである保健体育理論のLMS教材の利用が可能であること、ワーキンググループの立ち上げに伴い学生のオンライン環境への対策が進むこと、後ろ倒しによるカリキュラムコースが破綻する恐れがあることから、遅延をせずに体育実技を実施することを選択した(図2)。

3月24日のWBR
(課題の見える化／共有化)

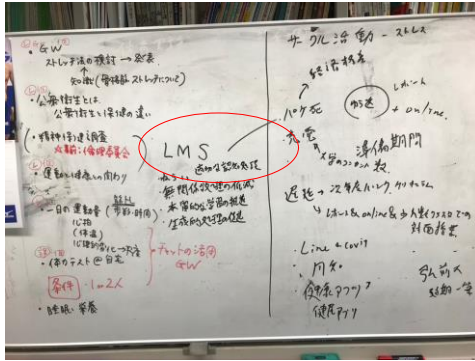


この時点での主な課題

- ✓ 3密回避+消毒 (具体策を模索)
- ✓ **体育実技の枠組みの中で、コントロール可能なもの**は何か
- ✓ 更衣室/学生の導線/雨天対応・・・夏はどうする? (冷房/屋外/熱中症)
- ✓ 実施可能な種目は?
- ✓ **防衛体力に焦点**
- ✓ **LMSによる情報伝達**

図1 フェイズ1 (教員集会前) のWBR

3月31日のWBR
(課題の見える化／共有化)



教員間での対話リフレクション

- ✓ ZOOMの導入決定/**基本遠隔**
- ✓ **1ヶ月遅らせて教材作り**に費やすか、**遠隔でスケジュール通り**行うかの**選択**
- ✓ 後ろ倒しにすると、カリキュラムが破綻する。
- ✓ LMSは既に準備済み/保健体育理論の教材を利用可能/学生の環境次第
- **遅延無しを選択**

図2 フェイズ1 (教員集会後) のWBR

3.2 フェイズ2

緊急事態宣言後の授業の遠隔化に対応するため、対面で実施した最初の3回の授業においてオンライン環境のチェックと機器の操作方法のオリエンテーションを実施した。通常は1クラスにつき教員1名が担当しているが、3密を避けるために1つのクラスを2つのグループに分け、2名の教員が6クラスすべてに張り付く措置を取った。長期間の自宅待機により新入生の環境への適応が難しくなることを想定し、学生間の相互作用の機会を設けるためにグループ間で時間と場所にギャップを設けて大学の外周のウォーキングを実施した。ウォーキングの目的は身体運動を介した心身機能の賦活を図るだけでなく、相互作用の機会を持つこととし、水辺の公園の傾斜を使い相互の自己紹介を行った。(表2)

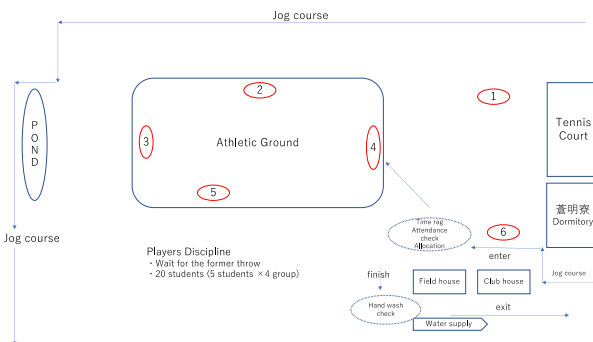
表2 フェイズ2におけるオンラインコンテンツ項目と身体活動の内容

授業回	オンラインコンテンツ項目	身体活動内容
第1回	健康観察シートのチェック LMSを使った出欠確認 新型コロナウイルス感染症とは 福島県の対応 会津大学の対応 3つの密を守ろう 福島県民アプリのダウンロード 理解度テスト	グラウンドのウォーキング
第2回	Physical Activity Readiness Questionnaire インフォームドコンセント 歩いた歩数のチェック	学内及び大学外周のウォーキング
第3回	Zoomの設定 今後の過ごし方に関する重要事項 遠隔授業環境調査	学内及び大学外周のウォーキング

3.3 フェイズ3

緊急事態宣言発令後のオンライン授業には、保健体育理論で作成していた有酸素運動の効果の教材に加え、大学体育連合のネットワークを介し提供していただいた岡山大学のLMS教材を利用した。LMS教材を用いたオンライン上で学習を進めるのと並行して、一人一人の学生とZoomによるオンライン面接を行った。面接で把握した孤立し高いストレス下にある新入生の姿を学内で共有し、授業の再設計を行った(図3)。この間、会津地域の小中高校では学年を指定して日程をずらした登校を開始(段階的学校教育の再開)している。地域的に人口の密度が低く接触機会が少ないことを考慮し、屋外の活動に絞る感染症対策を講じることで大学組織内での理解を得て、早期の実技の再開を実現した。この期間に、遠隔授業環境に欠く学生が大学の施設を使用するにあたり、検温に必要な体温計が市場から消えたことを受け、ウォーミングアップの効果を定量的に測定するため保有していた電子体温計20個を学生部に提供した。

- 学生へのヒアリング結果を元に
教務委員会に申し入れ
(高いストレス下にある新入生)
- 強調した観点「**防衛体力**」
 - 暑熱順化
 - サーカディアンリズムの調節
 - 一過性の運動によるストレスマネジメント
 - 相互作用による大学生活への適応
- ✓Physical Distance/身体の移動を伴う行動の教育:
体育実技授業の基本
- ✓情報が一人歩きしないように、
体育実技授業再開への取材は×



- 時間差通学/集合場所も別々
- マイ石けんの持参
- ジョギングとディスクゴルフ

図3 対面授業再開に向けた授業の改善過程



マイ石けんによる
手洗い

※当時は希少だった
マスク、体温計とアルコール
消毒液



マーカーによるフィジカルディスタンス
の確保/位置を指定



雨天時zoom
エクササイズ



大体連研修会で覚えた
ディスクゴルフの活用

写真1 フェイズ4における対面授業の実施

3.4 フェイズ4

対面での授業の再設計にあたりWBRで焦点化したのは、感染症対策、学生間の相互作用の促進による精神的なストレスの低減、夏場を見越した暑熱馴化、太陽光によるサーカディアンリズムの調節、防衛体力の増進であった(図3、写真1)。この時期には体温計に加え、アルコール消毒液やマスクは手に入らない状況にあった。消毒の観点から学生にマイ石けんを準備することを課した。前時限のオンライン授業の終了後から大学グラウンドへ移動する時間に、学生間でギャップが生じることを利用して時間差を設けて集合・解散し3密回避を図った。この時期にサークル自治会長と学生課職員を交え、感染拡大防止を念頭に置いたサークル・部活動再開に向けた方針を策定した。サークル活動は学生間の自由な相互作用を保証するものである。7月10日から感染防止の措置を講じた環境下でのサークル・部活動を再開し、プール・体育館の学内向けの一般開放を再開した。同時期に噴霧器を使用した体育施設の消毒を開始した。

3.5 フェイズ5

遅延無く授業を再開したことでスケジュール通りに前期授業を終え、後期授業開始までに約2ヶ月の準備期間が生じた。この期間に体育館の机と椅子が撤去され、後期には体育館を使える見通しが立った。後期に更衣室を使うことを想定し、東日本大震災時に壊れたまま放置されていた更衣室ロッカーの間引きと入替えを実施した。また、熱中症対策やアイシングのための氷製造機能付き冷蔵庫を体育教官室に、換気用大型扇風機を武道場と体育館に設置した。この期間には短期大学の授業で着衣泳を行うため、プールを短期大学部に開放した。沈殿したゴミは濾過器では処理できないためプール清掃ロボットを起動したところ、電源が入らなかった。確認すると、減価償却期間が過ぎていた。プール施設の清潔を保つためにプールロボットが必要であることから予算申請を行った。この時期には学生によるサークル活動の活性化に伴い、教職員を含めた使用上のガイドラインやルール、マナーについて確認と指導の機会が増加した。武道場の床板の損傷に伴い、修繕を行った。学生生活の活性化に伴い、施設内での飲食や大声での会話といったマナー違反が顕在化したことで、注意喚起が必要になりサークル活動への対応に時間を割くことが増えた。

3.6 フェイズ6

感染症対策を講じた上で、体育実技2の授業を予定通り開始した。10月中は日照時間も長く、気温も穏やかであることから屋外種目をメインとし、テニス（1コート2名）、サッカー、ソフトボール、ジョグ、フライングディスクに分かれて予定通り授業を実施した。感染症対策として、この時期から使用するビブス洗濯の課題が生じた。11月中旬に入ると日没が早まり、気温も10度を下回るようになってからは、第3クォーターの試験開始までの間、本格的な屋内シーズンに備えて検温、マスクと手指消毒、換気の徹底を促した。

3.7 フェイズ7

気温は零度を下回り降雪が始まる第4クォーターには、屋内での活動となる。気温が低下し低湿度となることに伴いウィルスの動きが活性化することを想定し、体育館の収容人数（50名）の半数の25名を体育館に割り振り、残りを屋内プール（各レーン2名/最大10名）に分け、バスケットボール/バドミントン・卓球の2班に分けて体育館とプールをローテーションで実施した。集中講義である体育実技4はこの時期からの開始となる。気温の低下が進むにつれて、筋温の低下に伴う生理機能の低下による怪我のリスクが高まることから、室温と学生の生理機能の状態を観察しタイミングを見計らいながら換気を行った。

3.8 フェイズ8

1月7日の政府による特別措置法に基づく緊急事態宣言の発出を受けて、福島県では1月13日から2月7日までの間を「福島県新型コロナウイルス緊急対策期間」とする措置が取られた。これまで以上に三密（密閉・密集・密接）を避けることを求められる状況となり、残り3回の授業は接触の多いゴールタイプのバスケットボールをやめてネットタイプのバドミントンと水泳のみのローテーションとして、クラスを2班に分けLMSによる学修を班毎に交互に入れ替える日程で実施した。この時期に、水回りの配管を考慮し洗濯機が屋内プールに設置された。非常勤対応のバレーボール（体育実技4）は体育館にZoomを繋ぎ、遠隔での授業を実施した。スキー・スノーボード実習は、地域の感染状況の悪化や宿泊を伴う活動制限に加え、2月13日に発生した地震の影響を鑑みて当初の予定を変更して大学施設を利用して授業を行った。



フェイズ5
噴霧器による使った消毒の実施
※この頃になって、やっとマスクやアルコールといった物資が手に入るように。



フェイズ8
遠隔指導（県外講師）
※遠隔指導用の機器が揃い、ノウハウも蓄積され学生も環境に適応。
新たな課題（学生間で暗黙的に身につける文化や社会性・規範意識のギャップ/過度な言語化/できて当たり前/頼っていた部分も大きい

写真2 体育館での授業再開（対面授業の実施）

4. おわりに

各フェーズにおける授業の再設計過程を図4にまとめた。フェーズ5以前は手指洗浄用のアルコールやマスクが手に入らない状況下での対応であったことが分かる。また、授業初期に身体活動を通じた相互作用の時間を十分に取ることができなかったことに伴い、身体的な相互作用をベースとした集団凝集性の構築に焦点を当てた授業デザインではなかったことが分かる。

一方で、年間を通して大幅なスケジュールの変更が生じることなく対面での授業を実施し、感染者は0名であった。その要因として以下のことが挙げられる。一つは、会津大学はコンピュータ理工学部の単科大学であり、物的・人的の両方で遠隔授業に必要なリソースを備えていたことである。元々コンピュータ環境が揃っており、教職員・学生のコンピュータリテラシーのスキルも遠隔授業に対応可能な水準にあったことが、大学全体の迅速なオンラインでの授業への切り替えを後押しした。加えて、今後感染症が数学的にどれくらいのスピードで増加してくのかの予測もクリアで、先手の対策が徹底された。都市部から遠く離れた大学の立地条件を計算に入れた決断も功を奏した。会津地域の人口密度は元来低く、交通網も発達していないことから、その後の人と人との接触の機会は限定された。こうした初動での素早い対応は、情報が錯綜した東日本大震災時の教訓に基づいたものと考えられる。

現場レベルでの体育授業の再設計課程でも、東日本大震災時の放射線対応（屋外での活動制限）の経験が生かされた。初動は負荷がかかり、体育実技は状況依存性が高いことから状況に応じて小まめに戦略を切り替えていく必要がある。判断の背景にある暗黙的な省察過程は、時間の経過と共に新規に生じた課題への対応に伴い置き換えられて忘れ去られることを念頭に置き、漏れやダブりを防ぎ見通しを持って授業を再設計していくために、ホワイトボードを使った対話リフレクションを教員間で行った。ホワイトボードによるリフレクションの利点は、特別な設定やスキルを必要とせず汎用性が高いことから、課題の明示化・共有化による教員間の対話リフレクションが容易で素早い対応が可能などところにある。環境との相互作用を伴う身体活動を行われないと身体機能が低下すること、身体的な孤立が学生の心身の状態に影響を与えていることへの認識が教員間での共有されたことで、人クラスを2人の教員で協力して対応する等の連携した対応がスムーズに行われた。また、早期に大学組織内で学生の実態に対する情報が共有されて学内でのコンセンサスが得られたことは、その後の早期の対面での体育実技授業の再開及び、学生の実態を踏まえた体育授業の再設計に有用なものとなった。

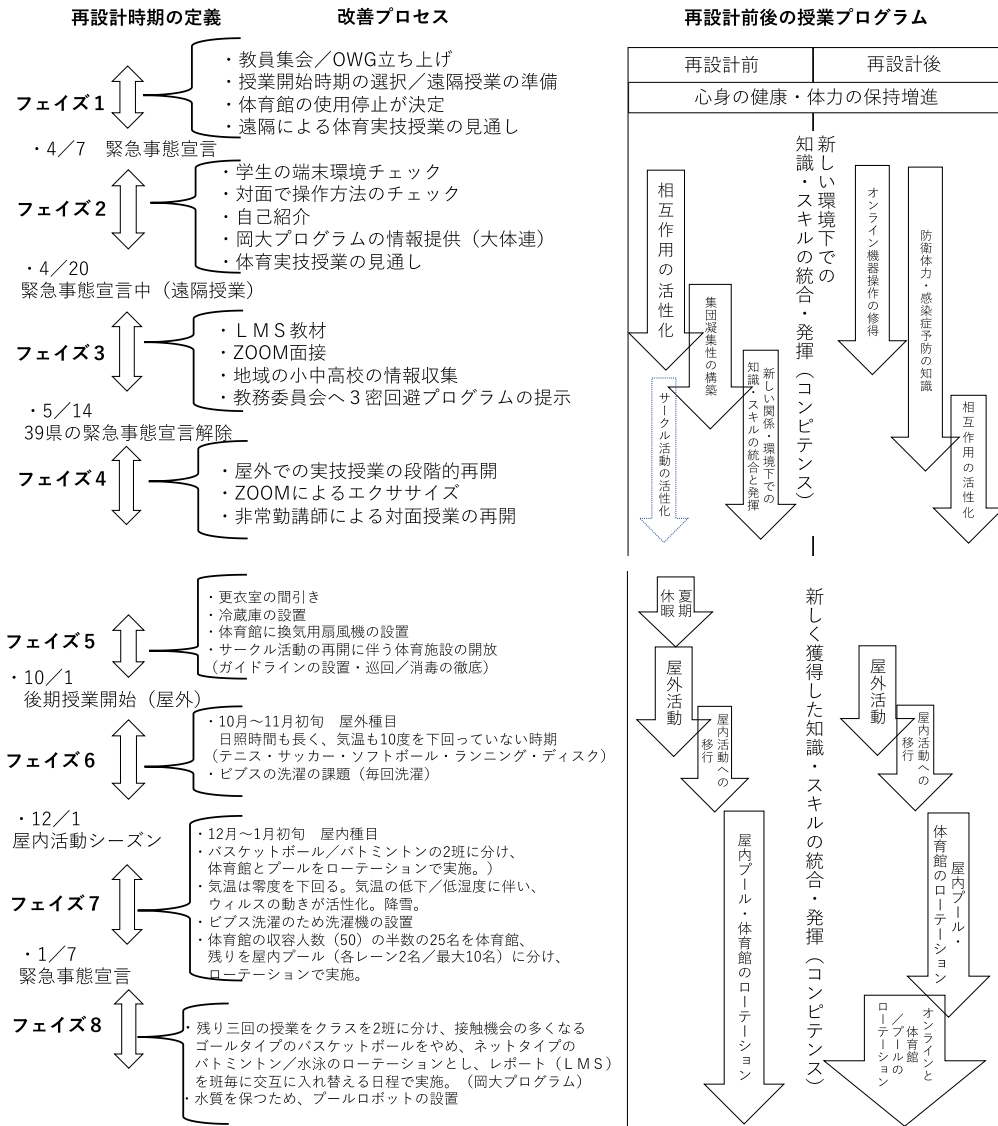


図4 各フェーズにおける授業再設計過程

参考文献

Fred A. J. Korthagen (2010) . How teacher education can make a difference. Journal of Education for Teaching, 36 (4) , 407-423. <https://doi.org/10.1080/02607476.2010.513854>

田村由美, 津田紀子 (2008) . リフレクションとは何か-その基本的概念と看護・看護研究における意義(焦点 理論・研究・実践を総合するリフレクション)-. 看護研究 41(3), 171-181.

湿度に関する問題解決の促進・抑制要因の検討

—中学校の理科授業を対象として—

蛸名 正司・小野 耕一

1. 問題と目的

科学的法則（以下、ルール）を問題解決に適用する際に、どのような促進・抑制要因があるのかについて、これまで多数の研究によって明らかにされてきた（e.g., 麻柄他, 2006）。特に近年では、ルールを問題状況に合わせて変換操作（以下、知識操作）できるかどうか、問題解決に重要な影響を与えることが指摘されている（工藤, 2010；立木・伏見, 2008；麻柄・進藤, 2011）。本研究では、科学的法則の中でも特に理解が難しい数量関係に関するルール命題を取り上げ、問題解決に適用する際の促進・抑制要因を検討する。

数量関係に関するルール命題を扱った先行研究では、公式上で変数間の操作を促しても（以下、変数操作）、適切な操作が促されないことが指摘されている（佐藤, 2010；小口, 2013）。なお、本稿で述べる変数操作とは、「ルール命題の変数項で示された値ないしは変動方向を変化させることにより、別のルール命題を導く思考」を指す（工藤, 2010）。そのため、先行研究では変数操作を促すための教授法が考案され、その効果が検証されている。例えば、佐藤（2010）は面積に関する2乗倍ルール（図形をK倍に拡大すると面積はK²倍になる）を提示する際に、面積の変化を粒子に置き換えて数え上げる具現化が有効であることを指摘した。また、小口（2013）は、大数の法則（標本の大きさが大きくなるにしたがって、標本比率はほとんど確実に母比率に近づく）を提示する際に、学習者がシミュレーションをすることで変換されたルール命題の正しさが理解されやすくなることを指摘している。以上の先行研究が示唆しているのは、公式で表わされている記号上での変数操作を提示するだけでは十分に問題解決が促進されにくいこと、知識操作を促す上で、操作結果が正しいことを学習者自身が納得するための具体的な状況が有効であることである。しかし、その確認の手段に関して、どのようなルール命題にどのような状況が有効かなどは十分にわかっていない。そこで本研究では、中学校理科で扱われる湿度を取り上げ、湿度の問題解決における変数操作を促進するための教授要因を検討する。

湿度は、中学校第2学年で扱われる科学的概念の一つである。湿度を学習する単位（e.g., 「天気とその変化」（岡村・藤嶋, 2018））では、雲の発生要因や日本の天気の特徴が扱われている。雲の発生を理解するためには、湿度が変化するための条件（その空気に含まれる水蒸気量や飽和水蒸気量）を特定し、変数間の関係を理解する必要がある。その意味で、湿度概念はこの単位全体を理解する上で重要な概念の一つといえる。中学校で扱われる（相対）湿度（%）は、

$$\text{湿度 (\%)} = \frac{1 \text{ m}^3 \text{の空気に含まれる水蒸気の質量 (g/m}^3\text{)}}{\text{その空気と同じ気温での飽和水蒸気量 (g/m}^3\text{)}} \times 100$$

で定義される内包量の一つであり、空気のしめり具合を表す数値として扱われる。湿度の公式を用いる問題解決では、上記の公式に加えて、飽和水蒸気量が気温の上昇とともに大きくなるという飽和水蒸気量と気温との間にある共変関係も理解する必要がある。その意味で、湿度に関する問題解決では、湿度－水蒸気量－飽和水蒸気量の3項間関係を理解することに加え、気温－飽和水蒸気量の2項間関係も理解し、問題状況に合わせて、これら

2種の変数操作を行うことが求められるといえる。湿度に関する問題解決では、時間の経過に伴って、気温と湿度がどのように変化するかを扱う場合が少なくない。すなわち、変数操作を適切に行えるかどうかの問題解決において重要な役割を担うことになる。そのため、湿度を扱う授業内においても、変数操作を促す発問をいかに取り入れるかという点が肝要となる。

本研究では、湿度に関する問題解決を促すための授業プランを考案する。そこで、まず前研究（小野・蛭名，2018，蛭名・小野，2018）で実施した授業プランを概観し、そこでの不十分な点を修正することで本研究のプランとする。前研究のプランの方針は、「水蒸気量」や「飽和水蒸気量」という概念が実感を伴って理解できるように、教科書では取り上げられない実験を実施した。例えば、単元の冒頭では、水蒸気を冷やすことで、水滴を取り出す実験を実施することで空気中には水蒸気があることを確認した。また、湿度の公式を提示する前に、密閉された袋の中の空気の温度を変化させることで、水蒸気量の出入りがない状態では気温が変わるだけで、湿度が変わることを確かめる実験を実施した。その上で、公式を提示することで、飽和水蒸気量や水蒸気量といった数量概念が実感をともなって理解されやすくなり、その結果湿度の公式が問題解決への適用されやすくなることが期待された。

しかし、前研究の事後評価課題では、正答率が60%前後にとどまり、公式の適用が十分に促進されたとはいえなかった。この要因を検討するために授業過程を分析したところ、湿度の公式が提示された後、実験結果や観測結果を公式に基づいた変数間の関係としてとらえ直す機会が十分でなかったことが示唆された。そのため、公式上での変数操作と観測・実験結果に基づく変数操作との対応づけが不十分になり、湿度の公式が「抽象的な記号同士の関係を表したもの」という理解にとどまった可能性が考えられた。そこで本研究では、以上の問題点を踏まえ、湿度の公式を提示したあとに、観測結果や実験結果を公式を用いて振り返る活動を通して、公式上の知識操作と観測・実験に関する知識操作とを対応づけられることで、湿度に関する問題解決が促進されるかを検討する。

さて、本研究では授業プランの有効性を検討する上で、内包量の公式における「定数入れ替え原理」の理解に着目したい。本稿では、「定数入れ替え原理」を「内包量に変化する条件には、定数項になる外延量が入れ替わる2通りがあること」と定義する¹。例えば、湿度が小さくなる条件として、①飽和水蒸気量が一定で、水蒸気量が少なくなる場合、および②水蒸気量が一定で、飽和水蒸気量が大きくなる場合の2通りがある。内包量の公式に関する変数操作が必要な問題解決では、このような「定数入れ替え原理」の理解が前提になると考えられる。例えば、「湿度が小さくなる場合、飽和水蒸気量が一定のとき、水蒸気量はどうなるか？」という問題状況を考えてみる。この問題で適切に変数操作を行うには、まずは、湿度に関する「定数入れ替え原理」の理解に基づいて、「この問題の場合、定数項は飽和水蒸気量であり、変数項は水蒸気量と湿度である」と判断し、その上で「湿度が小さくなる場合は、水蒸気量も少なくなるはずだ」と変数操作をする必要がある。このように、内包量の公式に関する変数操作を行う場合、内包量に関する「定数入れ替え原理」を理解していることが前提になると考えられるものの、先行研究ではこの理解について十分に検討されていない。

ただし、関連する研究として、永瀬（2003）および進藤・麻柄（2014）に触れておきたい。永瀬（2003）は、内包量の一つである密度（crowdednessタイプ）概念の発達を検討した。「数」・「長さ」・「密度」がそれぞれ定数

¹ 内包量に変化する条件には、この他に、外延量を定数項にしない場合として次の3パターンを想定することができる。内包量をA、2つの外延量をB・Cとすると $A = \frac{B}{C}$ 、例えば内包量が小さくなる条件には、(1) Bが減少し、Cが増加する場合、(2) Bが増加し、Cも増加する場合（ただしBの増加率<Cの増加率）、(3) Bが減少し、Cも減少する場合（ただしBの減少率>Cの減少率）がありうる。しかし、外延量が2つとも変数項になる場合は変数操作が複雑化し、特に(2)・(3)のパターンは具体的な数値がなければ判断できないため、初学者には容易ではない。そのため、本稿では外延量が両方とも変数項になる(1)～(3)は扱わないこととする。

項になる問題 (e.g. 数は一定で、長さが長くなったとき、密度はどうなるか) を「論理操作二者関係課題」と呼称し、それぞれ4問ずつ計12問出題した。12問中11問以上正答した者を、二者関係理解の獲得者とみなし、学年ごとの獲得者の推移を検討した結果、小学5年生49%、6年生57%、中学1年生71%、2年生62%となり、定数項がある場合の変数操作について中学生であっても、正しく判断できないことを指摘している。永瀬(2003)の関心は変数操作のすべてタイプの発達的変容であったため、本稿で指摘する「定数入れ替え原理」の理解状況については検討されていない。

また、進藤・麻柄(2014)は、内包量の「分母と分子の変数を入れ替えて算出しても、その値が当該概念の性質を表すこと」を「変数の入れ替え原理」と呼称し、この原理の理解が単位量あたりの大きさの理解には重要であるとしている。例えば、速さを比較する場合、通常は「1時間あたりに進む距離」を求めて比較するが、「1km進むのにかかる時間」を求めて比較することもできる。「変数の入れ替え原理」は、「1時間あたりの距離」では、時間が定数値になり、「1kmあたりの時間」では距離が定数値になることから、定数項が入れ替わっても内包量を表すことができるという点では、本稿の「定数入れ替え原理」と共通である。しかしながら、進藤・麻柄(2014)における「変数の入れ替え原理」は、被除数/除数を入れ替えることを想定しており、これは通常の教科指導内で扱われる内包量の公式からは逸脱した内容となる。確かに進藤・麻柄(2014)が指摘するように、被除数/除数が入れ替わった状況下でも、「変数の入れ替え原理」に基づいて内包量の大きさを正しく判断できることは重要である。しかし、初学者の学習を考えた場合、まずは通常の公式で表わされる形式で問題解決に適用できるようになることが必要であろう。そのため本稿では、「定数入れ替え原理」を扱い、この原理の理解が、内包量の問題解決とどのように関連するのかを検討する。

以上から、本研究は以下の仮説を検証することを目的とする。湿度の公式を観測・実験結果と関連づけることで、湿度に関する問題解決が促進されるであろう。また、湿度に関する問題解決の促進・抑制要因を詳細に検討するために、内包量に関する「定数入れ替え原理」の理解に着目し、変数操作との関連を検討する。

2. 方法

2.1. 調査参加者

仙台市立A中学校に在籍する中学2年生(4クラス)125名を対象として調査が実施された。このうち、事前調査と事後調査の両方に参加した118名を分析対象とした。なお、授業および調査課題の実施に際して、学校長に研究の主旨を説明し、参加者が特定されない形で結果を公表することについて許諾を得た。

2.2. 手続き

事前調査・授業・事後調査は、いずれも第二筆者が実施した。事前調査は単元の開始時に実施し、事後調査は湿度の学習の直後に実施した。

2.3. 調査課題

事前調査課題 事前調査課題は、学習者が授業に関する知識をどの程度保持しているかを確認するために出題した(Figure1)。用語確認問題は、湿度について知っていることを自由記述で記入してもらう問題であった。日常場面問題①②は、洗濯物の乾きやすさについて、湿度と気温から判断可能かを見る問題であった。割合確認問題は、サッカー部員の割合が20%になる比較量/基準量の組み合わせを選択する問題であった。割合確認問題は、基本的な百分率の意味理解を確認する問題として出題した。

事後調査課題 事後調査課題は、授業プランの効果を検証するために出題した(Figure2)。湿度比較問題は、気温が同じで湿度が異なる2つの状況において、湿度が異なる理由を選択肢から判断してもらう問題であった。正答は、「エ. 水蒸気量はトイレの方が多いから」であった。湿度変化問題は、密閉された袋内の空気の温度を上昇させたとき、袋内の湿度がどうなるかを判断し、その判断理由を解答する問題であった。正答は、「イ. 湿度は55%より低くなる」であった。湿度変化問題は、水蒸気量が変化しないときに、飽和水蒸気量の変化と湿度

との共変関係を正しく判断できるかを見る問題であった。水蒸気量比較問題は、飽和水蒸気量のグラフを見なが

【用語確認問題】①「湿度」という言葉を知っていますか。②①で「知っている」に○をつけた人は、「湿度」という言葉をどこで聞いたことがあるか、どんなところで使われているかなどを書いてください。

【日常場面問題①】気温 20 度で湿度 50%のときと、気温 30 度で湿度 50%のときでは、洗濯物が乾きやすいのはどちらでしょうか。ア～エから正しいと思うものを一つ選んで記号に○をつけましょう。[ア. 気温 20 度で湿度 50%のとき。イ. 気温 30 度で湿度 50%のとき (○)。ウ. どちらも同じ乾きやすさ。エ. わからない。]

【日常場面問題②】気温 20 度で湿度 50%のときと、気温 20 度で湿度 80%のときでは、洗濯物が乾きやすいのはどちらでしょうか。ア～エから正しいと思うものを一つ選んで記号に○をつけましょう。[ア. 気温 20 度で湿度 50%のとき (○)。イ. 気温 20 度で湿度 80%のとき。ウ. どちらも同じ乾きやすさ。エ. わからない。]

【割合確認問題】A 中学校には、サッカー部があります。学校全体の人数に占めるサッカー部員数をサッカー部員の割合とよぶことにします。A 中学校のサッカー部員の割合は 20%でした。下のア～オから、サッカー部員の割合が 20%になる場合をすべて選び、記号に○をつけましょう。[ア. 学校全体が 50 人で、サッカー部員が 10 人の場合 (○)。イ. 学校全体が 100 人で、サッカー部員が 2 人の場合。ウ. 学校全体が 200 人で、サッカー部員が 10 人の場合。エ. 学校全体が 100 人で、サッカー部員が 20 人の場合 (○)。オ. 学校全体が 200 人で、サッカー部員が 40 人の場合 (○)]

Figure1 事前調査課題

ら、湿度が同じで気温が異なる 2 つの状況について、どちらの水蒸気量が多いかを判断し、その理由を解答する問題であった。正答は、「ア. 水蒸気量は、部屋 A の方が多い」であった。この問題は、直接湿度と飽和水蒸気量の値から水蒸気量を算出して比較するか、変数操作によって判断するかのいずれかによって解答可能な問題であった。湿度計算問題は、飽和水蒸気量のグラフや表から必要な量を同定して、湿度の公式を用いて湿度を算出する問題であった。適切な演算「 $15 \div 23$ 」を正答とした。

以上の 4 問は前研究と同一の問題であり、本研究では、新たに湿度操作問題を追加した。湿度操作問題は、湿度が小さくなる条件として、水蒸気量が一定の場合、飽和水蒸気量が大きくなる場合、飽和水蒸気量が一定の場合、水蒸気量が小さくなる場合の両方を正しく判断できるかを見る問題であった。正答は「イ. 水蒸気量は同じで、11 時の飽和水蒸気量が 10 時に比べて大きい場合」、および「オ. 飽和水蒸気量は同じで、11 時の水蒸気量が 10 時に比べて少ない場合」の 2 つの選択肢であり、両選択肢を過不足なく選択した者を、湿度の変数操作が適切な学習者と見なした。

2. 4. 授業の概要

授業は、前研究の授業プランから以下の 2 点を変更した。第 1 に、定点観測データを扱う際に、気温と湿度の両方を継続的に記録できるデータロガー装置 (Therm La Mode 社製 RC-4HC) を用いた。これにより、任意の間隔・期間で気温および湿度を記録することが可能となり、授業では折れ線グラフによって気温と湿度の変化を捉えられるようになった。第 2 に、定点観測データや空気加熱実験の結果を湿度の公式を用いて確認することである。これにより、湿度－水蒸気量－飽和水蒸気量の変数操作を行う場面が豊富になることで、変数関係の理解が促進されると考えられる。以上の変更点を踏まえた上で、本研究の授業プランの概要を Table1 に示す。

3. 結果と考察

3. 1. 事前調査課題の結果

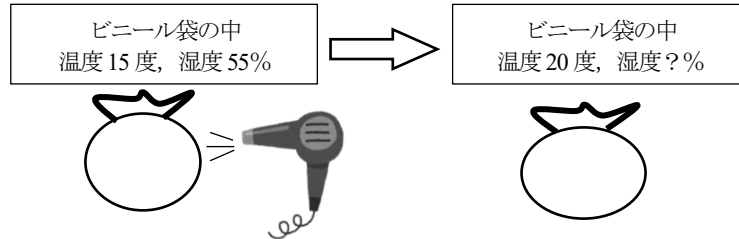
授業前の学習者の理解状況を見る。用語確認問題で、湿度という言葉を知っていると答えた学習者は 98% (118 名中 115 名) とほぼ全員が既知の言葉であった。また、どこで聞いたかという質問に対しては、「天気予報」や「部屋の湿度計」など、複数の生活場面があげられた。これらのことから、日常の生活場面を通じて、多くの学習者が湿度という言葉については聞いたことはあったといえる。日常場面問題の正答率は、①が 58%、②が 90% であり、①と②で正答率に大きな差異が見られた (Table2)。このことから、多くの学習者が湿度が高い方が洗濯物は乾きにくいと正しく判断できている一方、気温が高いことが洗濯物の乾きやすさに関係するとは考えていないことが示唆された。割合確認問題は、「ア (10/50)」、「エ (20/100)」、「オ (40/200)」を過不足なく選択

した場合を正答（完答）としたところ、正答率（完答率）は46%にとどまった。割合確認問題は、割合の基本的

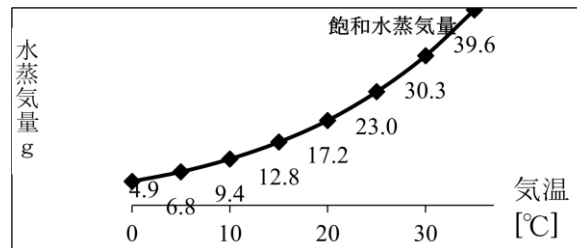
【湿度比較問題】 Aさんは、教室とトイレの気温と湿度を測定したところ、下のような結果になりました。湿度が異なる理由としてもっとも適切なものを一つ選び、記号に○をつけましょう。[ア. 飽和水蒸気量はトイレの方が少ないから。イ. 飽和水蒸気量はトイレの方が多いため。ウ. 水蒸気量はトイレの方が少ないから。エ. 水蒸気量はトイレの方が多いため。オ. わからない。]

	気温	湿度
教室	10度	40%
トイレ	10度	60%

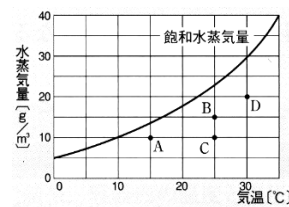
【湿度変化問題】 ビニール袋の中に空気を入れて、空気の出入りがないように密閉しました。このとき、ビニール袋の中の温度は15度、湿度が55%でした。このビニール袋にドライヤーで温風を当てたところ、ビニール袋の中の温度は、20度になりました。このとき、ビニール袋の中の湿度は55%よりも高くなりますか、低くなりますか、それとも55%のまま変わりませんか？ア～エから記号を一つ選んで○をつけましょう。また、そのように考えた理由は何ですか。[ア. 湿度は55%より高くなる。イ. 湿度は55%より低くなる。ウ. 湿度は55%のまま変わらない。エ. わからない。]



【水蒸気量比較問題】 部屋Aは気温20度で、湿度が75%、部屋Bは気温が10度で湿度が75%でした。このとき、水蒸気量が多い部屋は、AとBのどちらでしょうか。下のア～エから一つ選び、記号に○をつけましょう。また、そのように判断した理由を枠の中に記入してください。なお、気温と飽和水蒸気量の関係は下の図の通りです。[ア. 水蒸気量は、部屋Aの方が多いため。イ. 水蒸気量は、部屋Bの方が多いため。ウ. 水蒸気量はどちらの部屋も同じ。エ. わからない。]



【湿度計算問題】 下の表（右図）とグラフ（右図）は、1m³の空気中にふくむことのできる最大の水蒸気量と気温の関係を表したものである。次の問いに答えなさい。図のBの空気の湿度を求めなさい。ただし、小数第一位を四捨五入して整数で答えること。



気温 (°C)	飽和水蒸気量 (g)
-10	2.1
-5	3.2
0	4.9
5	6.8
10	9.4
15	12.8
20	17.2
25	23.0
30	30.3
35	39.6

【湿度操作問題】 Aさんはできるだけ部屋の湿度を下げたいと思っています。湿度は次の式で求められます。

$$\frac{1 \text{ m}^3 \text{の空気} \text{に} \text{ふくまれる} \text{水蒸気} \text{の} \text{質量}}{\text{その空気と同じ気温での飽和水蒸気量}} \times 100 = \text{湿度} (\%)$$

Aさんは部屋の湿度を下げたところ、10時には70%で11時には60%になりました。このように湿度が低下するのは、11時の水蒸気量と飽和水蒸気量が10時に比べてどのようになった場合ですか。下のア～オからあてはまるものをすべて選び、記号に○をつけましょう。[ア. 水蒸気量は同じで、11時の飽和水蒸気量が10時に比べて小さい場合。イ. 水蒸気量は同じで、11時の飽和水蒸気量が10時に比べて大きい場合。ウ. 飽和水蒸気量の変化にかかわらず、11時の水蒸気量が10時に比べて少ない場合。エ. 飽和水蒸気量は同じで、11時の水蒸気量が10時に比べて多い場合。オ. 飽和水蒸気量は同じで、11時の水蒸気量が10時に比べて少ない場合。]

Figure2 事後調査課題

な問題ではあるものの、半数以上の学習者が不十分な理解にとどまっていたといえる。

以上の事前調査の結果から、事前の学習者の状態として、日常場面の中で湿度という言葉聞いたことはある

一方で、必ずしも気温との関係性などについては十分に理解していないことがわかった。また既習事項の割合の

Table1 授業プランの概要

時間	主な内容発問 (実験や説明も含む)
1時間目【導入】	1. 天気の種類, 天気図を確認する。
2時間目 【空気冷却実験】	2. 空気中に水蒸気が含まれていることを確認。 〈空気冷却実験〉袋の中の空気を冷やして, 水滴がつくことを確認する。
3時間目 【湿度の測定】	3. 湿度が高いところはどのようなところだろうか? 〈観測〉プール, 日陰, 校庭, 花壇などの温度と湿度を測定する。 4. 測定した結果を表に整理してみよう。表からどんなことがわかりますか? 5. 気温と湿度は時間が変われば, 変わるのだろうか?
4時間目 【定点観測データ】	6. 一日中気温と湿度を測定した結果, 次のグラフになりました。湿度と気温の変化にはどのような関係がありますか? 〈説明〉(晴れの日) 気温が下がれば湿度は上がる。気温が上がれば湿度は下がる。 (雨の日) 気温にかかわらず, 湿度が高い。 7. 教室に比べて廊下の湿度が低かった。ということは, 何が違ったのですか?
5時間目 【露点実験】	8. 気温が下がると湿度が上がる。(2時間に行った)【空気冷却実験】では, 空気を冷やしたら水滴が出てきました。では, 何度ぐらいで水滴が出てくるのだろうか。 【実験】露点実験 9. 身の回りの凝結の現象をたくさん探してみよう。
6時間目 【飽和水蒸気量】	10. 露点の実験をもとに, 気温が下がると水滴が出てくる理由として, ある気温のときに1 m ³ の体積に含むことのできる水蒸気量は決まっていること, この水蒸気量を飽和水蒸気量と呼ぶことを説明する。 11. 気温と飽和水蒸気量の関係を説明する。 12. 湿度の公式を提示する。
7時間目 【湿度の計算】	13. 飽和水蒸気量のグラフから, 気温や飽和水蒸気量を読み取ったり, 湿度の計算練習をしたりする。
8時間目 【公式の活用】	14. 4時間目に取り上げた定点観測のグラフを用いて, 同じ気温で湿度が異なっている時間を探し, なぜ異なっているのかを考えさせる。 15. 密閉された袋の中の空気を加熱する実験を実施し, 水蒸気量が一定で, 気温が上昇する場合, 湿度が小さくなることを確認する。

Table2 事前調査課題の結果
(N=118)

	正答者数 (%)
日常場面問題①	68 (58)
日常場面問題②	106 (90)
割合確認問題	54 (46) ※

※は完答した場合を正答とした。

基本的な内容について、不十分な理解にとどまっている学習者が少なからず見られた。以上から、本研究のプランは湿度の初学者を対象として作成されたことから、プランの効果を検証する上で、本研究の参加者を対象とすることは妥当といえるものの、湿度概念の理解の前提である割合の内容については、授業内でより丁寧に復習しながら、授業を実施する必要があるといえる。

3. 2. 授業の経過

授業は、全体としてプラン通りに実施された。ここでは各時間の学習者の反応の一部を示す。

第1・2時 1時間目は事前調査を実施した後、天気の種類、天気の記号、雲量と天気の対応関係などを確認した。天気の種類は、学習者から「みぞれ」「霧」など複数の天気が挙げられていた。2時間目は、授業者から、「湿度が何を表しているか」と問われた際、学習者から「湿っている量」、「空気中にある水分の割合」、「しめっけど」、「じめじめしている」などの返答が見られた。さらに、「どんな物質が含まれているとじめじめするか」という発問に対しては、「水」という回答があった。授業者が「(空気中に)水があるかどうか」改めて学習者に確認したところ、水があると判断したのは6名であったのに対して、水がないと判断したのは8名であった。空気中に水蒸気が含まれていることは、小学校の理科で既習内容ではあるものの、必ずしも十分に理解されていないことが示唆されたといえる。

第3・4時 3時間目では、学習者に湿度が高いところはどうのような場所かを予想させた後、実際に気温と湿度を観測する活動を実施した。学習者は、プールの周りや苔が多い場所を測定していた。観測後に、「どのような場所が湿度が高いか」という発問に対して、学習者からは「風通しが良い場所は湿度が低い」、「風通しが悪く密閉されている場所は湿度が高い」という意見が出された。その際授業者から、「なぜ風通しが湿度に関係するのか」という発問が提示された際、学習者からは「水蒸気が流されていく」などの返答があり、湿度と水蒸気を関連づける返答が見られた。授業のまとめとして、湿度が変わる条件として、気温と水蒸気の2つがあることに言及した。

第5・6時 露点・飽和水蒸気量の定義を確認した。5時間目の露点実験は、ほぼ教科書(岡村・藤嶋, 2018)に沿って進められ、班ごとの測定結果がクラス全体で共有された。測定結果は 6°C ~ 10°C まで幅があったものの、最終的に水蒸気が水滴に変わる温度があり、それを露点ということを確認した。6時間目は「飽和」という語句が飽和水溶液の復習を通して導入された。また、飽和水蒸気量のグラフを提示しながら、気温と飽和水蒸気量との関係を、具体的な数値を取り上げながら説明した。特に、気温が下がると飽和水蒸気量はどうなるか、あるいは、飽和水蒸気量が小さくなると気温がどうなるかなどの発問に対して、学習者から適切な返答が見られ、気温と飽和水蒸気量の共変関係の読み取りについては、おおよそ理解できている様子であった。6時間目の後半では湿度の公式を提示し、変数操作に関する発問を提示した。具体的には、公式を指しながら「飽和水蒸気量が減りました。分母が減ったら湿度は？」などのように問いかけ、この発問に対しては、学習者は「下がる」と判断している様子がうかがえた。

第7時 第6時に続いて、図表から飽和水蒸気量を読み取る方法や、読み取った値から湿度を算出する方法などを確認した。解法をクラス全体で共有する場面では、水蒸気量が未知の場合に、未知の量を「x」とおいて方程式のように考える方法などが学習者から出された。また、授業者から飽和水蒸気量に占める水蒸気量の割合のイメージとして、「座席数と座っている人の割合」と類推させるような説明が見られた。

第8時 定点観測データを取り上げて、気温が同じときは飽和水蒸気量と同じであることを確認したあと(e.g. Figure3 2020-10-05 [12:57:51] 時点と 2020-10-6 [08:12:51] 時点)、「湿度が変わる際には、あと1つ何がかわるか」と発問した際、学習者からは「水蒸気量」という返答があった。さらに「水蒸気量はどう変化したのか」という変化の方向を問う発問に対しては、学習者から「あがる」という応答があった。次に、袋加熱実験では、実験の前に、袋内の湿度がどのように変化するか予想させた。その結果、湿度が「上がる」と判断した学習者は3名、「変わらない」と判断した学習者(人数不明)、「下がる」と判断した学習者は15名ほど見られた。また、「湿度が上がる」ことの理由としては「加熱すると水滴が見えることがあるから」や「気温が上がると飽和水蒸気量も増えるから」などが挙げられた。「湿度が変わらない」ことの理由としては「密閉されていて、水蒸気量が変わらないから」が挙げられた。また、「湿度が下がる」ことの理由としては、「水蒸気の質量が変わらないけど、飽和水蒸気量が増えるので、湿度が少なくなると思う」といった、適切な変数操作にもとづいた理由が挙げられた。以上の予想およびその根拠をクラス内で共有した後、袋加熱実験を行い、湿度が小さくなることを確認した。

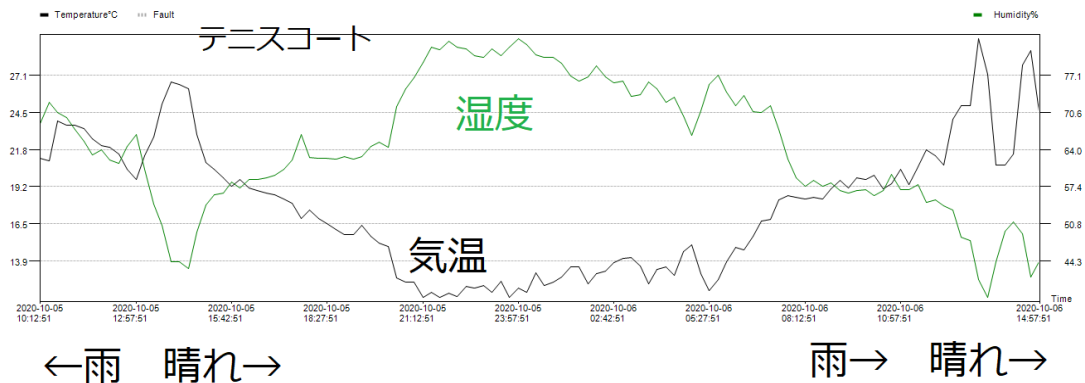


Figure3 定点観測データ

3.3. 事後調査課題の結果

湿度比較問題 湿度比較問題の解答結果を Table3 に示す。正答の「エ. 水蒸気量はトイレの方が多いため」を選択した者は 73 名 (62%) であった。一方で誤答は、「ア. 飽和水蒸気量はトイレの方が少ないから」あるいは「イ. 飽和水蒸気量はトイレの方が多いため」にほぼ二分され、両者で 3 割程度に達した。アやイは、飽和水蒸気量に言及した選択肢であり、これらの選択肢を選択した学習者は、飽和水蒸気量と水蒸気量の区別が十分ではないことを示唆していると考えられる。

湿度変化問題 湿度変化問題の解答結果を Table4 に示す。正答の「イ. 湿度は 55%より低くなる」を選択した者は、118 名中 93 名 (79%) であり、8 割近くに達した。また、誤答は「ア. 湿度は 55%高くなる。」が 14 名

Table3 湿度比較問題の解答結果

		選択者数 (率)
ア	飽和水蒸気量はトイレの方が少ないから。	18 (15)
イ	飽和水蒸気量はトイレの方が多いため。	20 (17)
ウ	水蒸気量はトイレの方が少ないから。	4 (3)
エ (正答)	水蒸気量はトイレの方が多いため。	73 (62)
オ	わからない。	3 (3)
合計		118

Table4 湿度変化問題の解答結果と判断理由

	判断理由						合計
	A	B	C	D	E	F	
ア	2 (14)	4 (29)	4 (29)	3 (21)	-	1 (7)	14
イ (正答)	32 (34)	20 (22)	24 (26)	-	7 (8)	10 (11)	93
ウ	-	-	-	-	2 (67)	1 (33)	3
エ	-	-	-	-	-	6 (100)	6
未記入	-	-	-	-	-	2	2
合計	34	24	28	3	9	20	118

判断理由) A. 水蒸気量が同じで飽和水蒸気量が多いから, B. 飽和水蒸気量が多いから
C. 温度が上がるから D. 水蒸気量が増えるから E. その他 F. 未記入
() は%を示す。

(12%) と最多であった。

解答の判断理由を検討するために自由記述の内容を, 「A. 水蒸気量が同じで飽和水蒸気量が多いから」, 「B. 飽和水蒸気量が多いから」, 「C. 温度が上がるから」, 「D. 水蒸気量が増えるから」, 「E. その他」, 「F. 未記入」の6つに分類し, 選択肢ごとに人数を算出した。正答者(イ)の判断理由は, 飽和水蒸気量に言及したA・Bだけでなく, C(温度が上がるから)も2割強程度見られた。このことは, 正答の選択肢が選ばれた場合であっても, A・Bのように湿度の公式に直接関連する飽和水蒸気量に言及した学習者だけではなく, 間接的な条件のみに言及した学習者もいることを示しているといえる。

水蒸気量比較問題 水蒸気量比較問題の解答結果を Table5 に示す。正答の「ア. 部屋 A が多い」を選択した者は, 65 名 (55%) にとどまった。また, 誤答で多数を占めたのが「イ。」の 32 名 (27%), 次いで「エ。」の 12 名 (10%) であった。

解答の判断理由を検討するために自由記述の内容を, 「①湿度が同じで飽和水蒸気量が多いから」, 「②飽和水蒸気量が多いから」, 「③気温が高いから」, 「④計算結果による比較」, 「⑤その他」, 「⑥未記入」の6つに分類し, 選択肢ごとの人数を算出した。その結果, 正答者(ア)の約半数が, 「④計算結果による比較」であった。誤答者(イ・ウ・エ)の判断理由は, 「⑥未記入」の割合が最も多く, 明確な根拠をもたないまま誤答している学習者が少なくないことが示唆された。

湿度計算問題 湿度計算問題の解答結果を Table6 に示す。適切演算「 $15 \div 23$ 」を記入した者は 49 名 (42%) にとどまった。一方で, ほぼ同程度 (41%) の学習者が「わからない」と記述したり, あるいは未記入であったりしたことから, 本問題は学習者にとって極めて解決が難しかったといえる。本問題は, 計算に必要な数量を図表から同定し, それを湿度の公式に代入して, 値を算出する基本的な問題と位置づけられるものの, 十分に定着していないことが示唆された。

Table5 水蒸気量比較問題の解答結果と判断理由

	判断理由						合計
	①	②	③	④	⑤	⑥	
ア (正答)	8 (12)	7 (11)	2 (3)	31 (48)	2 (3)	15 (23)	65
イ	1 (3)	5 (16)	2 (6)	4 (13)	4 (13)	16 (50)	32
ウ	-	-	-	1 (33)	1 (33)	1 (33)	3
エ	-	-	-	-	1 (8)	11 (92)	12
未記入	-	-	-	-	-	6	6
合計	9	12	4	36	8	43	118

判断理由) ①湿度が同じで飽和水蒸気量が多いから ②飽和水蒸気量が多いから ③気温が高いから
④計算結果による比較 ⑤その他 ⑥未記入
() は%を示す。

Table6 湿度計算問題の解答結果

	該当者数 (%)
$15 \div 23$ (正答)	49 (42)
$23 \div 15$	5 (4)

その他	15 (13)
わからない/未記入	48 (41)

湿度操作問題 湿度操作問題において、湿度が70%から60%に低下する条件として、水蒸気量が一定で、飽和水蒸気量が増加する場合（選択肢イ）、および飽和水蒸気量が一定で、水蒸気量が減少する場合（オ）の2つを過不足なく選択した学習者は、「定数入れ替え原理」を理解した上で、適切な変数操作が可能な者とみなすことができる。以下では、このような変数操作タイプを「三項間適切操作」タイプと呼称する。

また、それ以外の選択肢の組み合わせは不適切な変数操作を行った場合であり、本稿では選択肢の組み合わせによって3つのタイプに分類した。第1に、飽和水蒸気量および水蒸気量をそれぞれ定数値と見なした選択肢は選択可能であるものの、変数項の組み合わせを誤ったタイプである（以下では「三項間不適切操作」タイプと呼称する）。このタイプの学習者は、「定数入れ替え原理」は理解しているものの、変数操作の段階で変化の方向性の判断を誤った者と位置づけることができる。第2に、湿度が変化する場合として、定数項として水蒸気量あるいは飽和水蒸気量の一方しか選択していないタイプである。例えば、湿度操作問題で選択肢の「ア. 水蒸気量は同じで、飽和水蒸気量小さい場合」のみを選択した学習者は、水蒸気量を定数項にする場合のみしか考慮できていないといえる。このような学習者は定数項を入れ替えられることを理解していない可能性が高いことから、以下では、「定数入れ替え無視」タイプと呼称する。第3に、選択肢の「ウ. 飽和水蒸気量の変化にかかわらず水蒸気量が少ない場合」を選んだ学習者は、飽和水蒸気量とは無関係に水蒸気量で湿度が決まると判断しており、水蒸気量と湿度との二項間関係で湿度の変化を捉えることができると理解している学習者といえる。そこで以下では、「二項間操作容認」タイプと呼称する。「定数入れ替え無視」タイプと「二項間操作容認」タイプは、「定数入れ替え原理」が不十分な学習者と見なすことができる。

本研究の学習者を以上の4つの変数操作タイプに分類したところ、各タイプの人数はTable7の通りになった。「三項間適切操作」が4割にとどまった一方、「定数入れ替え無視」、「三項間不適切操作」、および「二項間操作容認」がそれぞれ2割程度ずつ存在した。変数操作の前提となる「定数入れ替え原理」の理解が不十分な学習者が4割に達したことが示唆された。

変数操作タイプと湿度変化問題との関連 ここでは、事後調査課題の解答結果と変数操作のタイプとの関連を見ることで、湿度の問題解決にとって変数操作がどのように影響を及ぼすのかを検討する。事後調査課題の中で、変数操作を直接行う必要がある湿度変化問題を取り上げ、正誤別に判断理由と操作タイプとの関連を見た（Table8、湿度操作問題で未記入の2名は除外）。その結果、湿度変化問題の正答者のうち判断理由がA・Bのように「飽和水蒸気量」への言及がある学習者は、「三項間適切操作」の割合が高く（Table8、判断理由Aで66%、Bで80%）、「定数入れ替え無視」や「二項間操作容認」の割合が低かった（いずれも10%以下）。一方で、判断理由が「C. 温度が上がる」の学習者は、「三項間適切操作」の割合が3割程度にとどまる一方で、「定数入れ替え無視」が17%、「二項間操作容認」が33%に達し、温度に言及した学習者は「定数入れ替え原理」の理解が不十分である可能性が示唆された。

Table7 変数操作タイプと人数分布 (N=118)

変数操作タイプ	選択肢の組み合わせ	人数 (%)
三項間適切操作	イオ	49 (42)
三項間不適切操作	アエ, アオ, イエ,	23 (19)
二項間操作容認	ウ, アウオ, イウエ, イウオ, アウ, イウオ	21 (17)

Table8 湿度変化問題の解答と変数操作水準との関連 (N=116)

判断理由	正答者 (イ)					誤答者 (ア・ウ・エ)				
	T1	T2	T3	T4	合計	T1	T2	T3	T4	合計
A	2 (6)	3 (9)	6 (19)	21 (66)	32	-	1 (50)	1 (50)	-	2
B	1 (5)	1 (5)	2 (10)	16 (80)	20	3 (75)	1 (25)	-	-	4
C	4 (17)	8 (33)	5 (21)	7 (29)	24	1 (25)	1 (25)	1 (25)	1 (25)	4
D	-	-	-	-	-	1 (33)	1 (33)	-	1 (33)	3
E	3 (43)	1 (14)	2 (29)	1 (14)	7	-	1 (50)	1 (50)	-	2
F	2 (20)	4 (40)	3 (30)	1 (10)	10	4 (50)	1 (13)	2 (25)	1 (13)	8
合計	12	17	18	46	93	9	8	5	3	23

判断理由) A. 水蒸気量が同じで飽和水蒸気量が多いから B. 飽和水蒸気量が多いから C. 温度が上がるから

D. 水蒸気量が増えるから E. その他 F. 未記入

操作タイプ T1: 定数入れ替え無視 T2: 二項間操作容認, T3: 三項間不適切操作 T4: 三項間適切操作

() は%を示す。

また、誤答者 (ア・ウ・エ) 23 名については、三項間適切操作が 3 名 (13%) にとどまり、「定数入れ替え無視」と「二項間操作容認」を合わせて 74% に達したことからも、「定数入れ替え原理」の理解が十分ではない可能性が示唆された。

事後調査課題のまとめ 事後調査課題は、湿度変化問題の正答率が 79% に達したものの、他の問題 (湿度比較問題・水蒸気量比較問題, 湿度計算問題) では 4 割~6 割にとどまった。また、湿度操作問題をもとに、学習者の操作タイプを分類した結果、適切な変数操作が可能である「三項間適切操作」の学習者が過半数に満たず、「三項間不適切操作」, 「二項間操作容認」, 「定数入れ替え無視」も一定数いることが示唆された。さらに、正答率の高かった湿度変化問題においても、変数操作タイプとの関連を見たところ、湿度変化問題で正答した場合であっても、判断の根拠として「温度が上がる」に言及した学習者は、「定数入れ替え原理」の理解が不十分である可能性が示唆された。以上を踏まえると、本研究で実施した授業プランが、湿度の公式を用いる問題解決を促進したとは言えないであろう。特に「定数入れ替え原理」の理解が不十分な学習者が約 4 割に達した。そこで、以下では、授業内で「定数入れ替え原理」がどのように扱われたのかに焦点を当てて、授業過程を分析する。

3.4. 授業過程の分析

授業では「定数入れ替え原理」は、公式が提示された 6 時間目以降に取り上げられている。6 時間目で湿度の公式が提示されたあと、授業者は変数操作の例として、水蒸気量を定数項として、飽和水蒸気量が大きくなる場合に湿度がどうなるか発問している (Figure4, 下線部 1, 以下同様)。また、同じく水蒸気量を定数項として、飽和水蒸気量が小さくなる場合も確認している (下線部 2)。さらに、湿度が増えるときの条件として、「飽和水蒸気量が同じで水蒸気量が増える」場合にも言及している (下線部 3)。以上の授業者の発問や説明を通して、公式上では定数項を入れ替えた変数操作が扱われており、その意味で「定数入れ替え原理」は授業内で扱われたといえる。

次に、8 時間目において具体的な観測結果や実験結果に関して、変数操作に基づいて判断する場面を見る。定点観測データの振り返り場面では、「飽和水蒸気量が一定の場合に、湿度が下がったときに何が変化するか」と発問している (下線部 4)。また、袋加熱実験では、「水蒸気量が一定の場合に、飽和水蒸気量が大きくなると湿度がどうなるか」と発問をしている (下線部 5)。これらの発問はいずれも授業プラン通りであったと言えるが、

次の点が不十分であったと考えられる。すなわち、観測結果の振り返り場面では飽和水蒸気量、袋加熱実験では水蒸気量をそれぞれ定数項として変数操作を行わせた。これにより、水蒸気量が定数項の変数操作は定点観測データのみで具体化され、飽和水蒸気量が定数項の変数操作は、袋加熱実験のみで具体化されたことになる。すな

<p>【6時間目：公式の導入】</p> <p>T: (前略) ではちょっとこんな例で考えてみましょう。これ書き込まなくてもいいです。これを、分母分子の割り算になってるよね。もしこの1 m³の空気中に含まれる水蒸気の質量がそのまま同じ変わらないで一定だったとします。これ書かなくていいですよ。一定だとしたときに気温が上がりました。気温が上がると飽和水蒸気量ってのどうなるんだっけ? F君、気温が上がると飽和水蒸気量は?</p> <p>C: 増えます。</p> <p>T: うん、増えるという関係がありました。そうすると分子が一定です。分母が増えて大きくなる、(板書しながら) もっと言うならば分母が増えるところということ。分母が増えると、元の湿度と比べて分母が増えたときの湿度っていうのはどうなるか? どうなるって言える? 湿度は上がる、下がる、そのままか、ちょっと相談してみて。どうなる? 飽和水蒸気量が増えたら分子一定、分母が増えました。そしたら湿度はどうなる?¹</p> <p>Cs: (話し合い)</p> <p>T: じゃあ聞いてみます。飽和水蒸気量が増えたら、湿度は上がる、変わらない、下がる。湿度上がる?¹</p> <p>C: (挙手の様子はわからず)</p> <p>T: 分母が大きくなるとその数は小さくなります。3/50より、3/80の方が小さい数になるよね。だから気温が上がると湿度が下がる。今度逆に、気温が下がったとします。気温が下がると飽和水蒸気量は? J君どうなるのでしょうか?</p> <p>C: (聞き取れず)</p> <p>T: うん、減る。飽和水蒸気量が減りますね。小さくなります。そうするとこの式の分母が減ります。この具体例でいくと例えば半分になり、3/25。減ります。そうすると湿度は最初と比べて上がる、変わらない、下がる、どれか? シンキングタイム10秒。飽和水蒸気量が減りました。分母が減ったら湿度は? はい聞きます。飽和水蒸気量が下がったら湿度は上がる?</p> <p>Cs: (反応わからず)</p> <p>T: 変わらない?</p> <p>Cs: (反応わからず)</p> <p>T: 下がる?</p> <p>Cs: (反応わからず)</p> <p>T: はい、いいね、上がります。なぜかという気温は下がると飽和水蒸気量も小さくなるので分母が小さくなると、湿度は大きくなります、という関係にあるんだってということなんです。だから例えばこんな話をしたんだけど、湿度ってその空気に含まれる水蒸気量と飽和水蒸気量の二つで決まってくる。例えば湿度が増える時って飽和水蒸気量が同じで分子の水蒸気の質量が増えれば増えます。³ (後略)</p> <p>【8時間目：定点観測データの振り返り】</p> <p>T: (前略) 気温が同じです。なのに湿度が違う。これは何が違うんだろうか。誰か思いついた人いますか。今、Aさんの印をつけたグラフを見ながら考えています。同じ16°Cぐらいの気温のところ、右側の方が湿度が高かった。何ででしょうかという話。誰か説明できそうな人いますか?</p> <p>Cs: …</p> <p>T: ちょっともう少し手がかりを絞ろうかな。湿度が変わったわけだね。これは変わりました。気温が同じってことは変わらないのはどれ? 気温同じだと変わらないものは何か? この式の中で。</p>	<p>C: (聞き取れず)</p> <p>T: うん、飽和水蒸気量。なぜかっていうと、これは気温によって決まるので、気温が上がると飽和水蒸気量は? どうなんだっけ?</p> <p>C: (聞き取れず)</p> <p>T: 上がる。飽和水蒸気量のグラフって、こんななって、気温が上がると飽和水蒸気量もあがるって関係になってます。逆に気温が下がると飽和水蒸気量は?</p> <p>C: (聞き取れず)</p> <p>T: うん、下がる。てことは気温が同じですっていうときには飽和水蒸気量は同じってなる。気温で決まるからね。でも湿度が変わるってことは、あと1つは何が変わること?⁴</p> <p>Cs: …</p> <p>T: これは同じです。湿度が変化するってことはこの式で考えると、何が変わると湿度が変化するの?⁴</p> <p>C: (聞き取れず)</p> <p>T: うん、水蒸気量、水蒸気の質量が、湿度が上がったとしたら、水蒸気の質量はどのような変化をしたって言える? 隣近所相談してみてください。</p> <p>Cs: (話し合い)</p> <p>T: Bさんどう? 湿度が上がった。飽和水蒸気量が赤で印つけている、同じ。水蒸気の質量はどうなる?</p> <p>C: あがる。(後略)</p> <p>【8時間目：袋加熱実験】</p> <p>T: この袋ですが、こうやって口を縛ったので、空気の入りはありません。そうすると水蒸気はこの中から出たり入ったりはできません。でもこの中に水蒸気ってあるのなのどっちだっけ?</p> <p>C: ある。</p> <p>T: あるんだよね。みんな最初の実験で確かめた。この中の水蒸気は出入りはない状態にしました。さて、ここで問題。これを今からドライヤーでガンガン温めていきます。そうすると袋の中の空気の湿度はどのように変化しますか? 予想3択です。湿度は上がる、変わらない、下がる。3択です。⁵ お選びください。相談しても結構です。シンキングタイム2分。</p> <p>Cs: (話し合い)</p> <p>T: 聞いてもいいだろうかと。どれを選んだか手を上げてお知らせください。行きます。袋の中を今からドライヤーで加熱します。そうすると湿度はどうなるか。上がる?</p> <p>(中略)</p> <p>Cs: (実験の観察)</p> <p>T: じゃあそうするとさ、今3つ測定してもらったんだけど、考察のところ空気の湿度は?</p> <p>C: 下がった。</p> <p>T: 下がった。その理由を今からちょっと時間取って考えるんだけど、この式を参考にしながら、あとは言葉は水蒸気量と飽和水蒸気量、これを使って何で湿度が下がったのかを説明してみよう。⁵ 相談しても構いません。ちょっと時間足ります。3分ぐらいかな。不思議だね出入りがないのに。水蒸気の入りが無いのに湿度が下がった。何でだろう。(後略)</p>
---	--

Figure4 変数操作に関連する授業場面

わち、定数項が入れ替わると同時に具体例も入れ替わってしまったことで、各事例で「定数入れ替え原理」に基

づいた変数操作を行う機会が欠落してしまったといえる。例えば袋加熱実験では、「空気を加熱したら湿度は下がったが、袋の中の湿度を下げるには、他にどのような方法があるか？」などの発問をすることで、具体的な場面を通して「定数入れ替え原理」を扱うことができたかもしれない。

4. 総合考察

本研究では、前研究（小野・蛭名，2018，蛭名・小野，2018）の授業プランの修正版を考案し、その効果を検証した。しかしながら、事後調査課題において正答率が8割に達したものはなく、前研究と同様、湿度に関する問題解決が促進されたとはいえなかった。以上から、本研究の仮説は支持されなかったといえる。また、本研究では、内包量に関する「定数入れ替え原理」の理解が問題解決とどのように関連しているのかを検討した。その結果、「定数入れ替え原理」を理解し、かつ変化の方向性まで正しく判断できる学習者（三項間適切操作）は、湿度の問題に関して適切な根拠に基づいて解決していた。また、「定数入れ替え原理」の理解が不十分と見られる「定数入れ替え無視」や「二項間操作容認」の学習者が全体で4割程度に達したことから、本授業プランでは「定数入れ替え原理」が十分に理解されなかったことが示唆された。以上を踏まえ、本研究の意義と今後の課題を述べる。

本研究では、湿度操作問題によって学習者の変数操作タイプを分類し、授業プランの効果をより詳細に検討することを試みた。先行研究において三項間の変数操作を扱った研究では、定数項は固定で提示されることが多く、定数項の入れ替えに関する理解は検討されていない。本研究では、湿度操作問題によって、変数操作タイプを操作的に定義することで、変数操作に関する誤りにはいくつかのタイプを想定することが可能であることが示唆されたといえる。特に、「定数入れ替え無視」や「二項間関係容認」は「定数入れ替え原理」の理解が不十分なタイプと考えられ、変数操作を行う上での前提が不十分である学習者の存在が明らかになったといえる。この点は、本研究の意義の一つといえる。湿度変化問題のように、従来の評価課題では、変数操作に関する誤りは、変数項における変化の方向性の誤りが主な要因（三項間不適切操作）と考えられたが、変数操作の前提である「定数入れ替え原理」がそもそも理解されていないことが明らかになった点は、今後の授業プランを考案する上で、重要な知見といえる。

次に、本研究の授業プランの有効性を考察する。本研究の授業プランは、観測・実験の結果に基づいた変数操作と、公式上の変数操作とを関連づけることで、湿度の問題解決を促進することが主な目的であった。変数操作の前提である「定数入れ替え原理」に関しても、授業内でも扱われているが、その扱いについては必ずしも十分ではなかった点は否定できない。その要因の一つとして、プラン立案段階で、「定数入れ替え原理」が不十分な学習者が4割にも達することが想定できなかった点である。あくまでも、変数操作での誤りは、変化の方向性の誤りである者が多数であることを想定していたことから、特に8時間目では、事例（観測・実験）ごとに「定数入れ替え原理」を提示する場面を十分に設けなかった。その結果、「定数入れ替え原理」の適用練習の場が不足したと考えられる。今後の課題として、「定数入れ替え原理」の理解を促すには学習者にどのようなはたらきかけが有効かを検討する必要があるだろう。

5. 引用文献

- 蛭名正司・小野耕一（2018）中学校理科における湿度の授業に関する実践研究（2）—事後調査の結果と授業過程の分析— 日本教授学習心理学会第14回年会予稿集，30-31.
- 工藤与志文（2010）ルール学習と操作的思考—概観と展望— 教授学習心理学研究，6，29-41.
- 麻柄啓一・進藤聡彦・工藤与志文・立木徹・植松公威・伏見陽児（2006）．学習者の誤った知識をどう修正するか—ルール・バー修正ストラテジーの研究— 東北大学出版会
- 麻柄啓一・進藤聡彦（2011）ルール命題の操作による問題解決の促進 教育心理学研究，59，1-12.
- 永瀬美帆（2003）密度概念の質的理解の発達—均等分布理解と関係概念の定性的理解からの検討— 教育心理学

研究, 51, 261-272.

岡村定矩・藤嶋昭 (2018) 新編 新しい科学 2 東京書籍

小野耕一・蛭名正司 (2018) 中学校理科における湿度の授業に関する実践研究 (1) —授業プランと事前調査の結果— 日本教授学習心理学会第 14 回年会予稿集, 28-29.

小口祐一 (2013). 標本比率の散らばり判断に及ぼす変換操作シミュレーションの効果 教授学習心理学研究, 9, 90-101.

佐藤誠子 (2010) 面積変化を具現化する教授が大学生の面積判断に及ぼす効果—図形の拡大・縮小場面の場合— 教授学習心理学研究, 6, 61-74.

進藤聡彦・麻柄啓一 (2014) 内包量の公式における「変数の入れ替え原理」の理解 教授学習心理学研究, 10, 12-24.

立木徹・伏見陽児 (2008) テスト得点の伸びを抑制するのは本当に誤概念なのか??—「論理操作の不十分さ」の可能性の検討— 教授学習心理学研究, 4, 10-16.

6. 付記

1. 本研究は JSPS 科研費 19K14345 の助成を受けて実施された。
2. 本研究にご協力いただいた学校関係者の皆様には厚くお礼申し上げます。また、授業プランの検討にあたり、東北大学大学院教育学研究科で開催された「木曜会」の参加者から多くの助言をいただきました。心より感謝申し上げます。

コロナ禍における学生支援に関するエスノグラフィ

——会津大学教職員による学生への食料品支援を例に——

池本 淳一

はじめに—本論の目的と方法

2020年1月30日、世界保健機構が緊急事態を宣言してから早一年、「新しい生活様式」もすでに日常となった。筆者の専門は地域社会学、観光研究であるが、この一年は調査に出るのもままならず、ステイ・ラボラトリーで地域史に勤しもうにも、「誘客」「交流人口」「観光開発」等々の文字が躍る資料に目を通すのもまた気が滅入る作業であった。しかしこの間、オンライン配信やプログラミングの勉強を始めたことで、「ICTと観光・地域」という新しいテーマを見つけることができ、それなりに充実した研究生生活を送ることができた。

教育面を振り返れば、ここ会津大学では都市部の大学と比較すればコロナ禍の影響は少なかったように思われる。例えば会津大学でも遠隔授業が実施されたものの、コンピュータの専門大学である本学では学生も教員も一定以上のICTスキルを身につけており、オンライン講義には比較的スムーズに対応できた。さらに本学のある会津若松市において初のコロナ感染者が出たのは8月以降であり、2021年3月15日現在でも感染者数は合計173名と¹⁾、比較的感染者が少ない地域であった。このような感染状況を踏まえ、本学では第一学期（本学はクォーター制であり、第一、第二学期がいわゆる前期、第三、四学期が後期である）が始まった当初は原則的に遠隔授業を実施したものの、6月からは遠隔授業が困難な講義に関しては対面での授業が可能となった。続く第二、三学期は遠隔か対面のどちらか、あるいは併用による授業が実施され、第四学期は遠隔授業も可としつつも、対面での授業実施が推奨された²⁾。

一方、学生の生活面においては、本学でも多くの問題が生じた。例えば4月以降、アルバイトの急減や突然の自粛生活により、経済的・精神的な困難に直面する学生も現れたため、そのような学生へのサポートが急務となった。そこで本学では教職員による様々な学生支援が実施されたが、本論で取り上げる学生への食料品支援もその一つである。

本論の目的は、その経緯とノウハウをエスノグラフィ³⁾の形式で書き残すことで、コロナ禍における学生支援の一事例、そして今後、同様の危機に直面したさいの参考事例を提供することである。具体的には、筆者が主に関わった、2020年4月末から7月末までの約3か月間に及ぶ食料品支援の経緯と内容を中心に記述していく。

また表1は会津大学公式ウェブサイトの「お知らせ」に掲載された寄付に関する記事を一覧表に、表2は本論

¹⁾ 会津若松市公式ホームページ「市の新型コロナウイルス感染症の発生状況について」
<https://www.city.aizuwakamatsu.fukushima.jp/docs/2020080900012/> 2021年3月15日閲覧

²⁾ 会津大学公式ウェブサイト「2020年度第4学期における授業実施方法について」
<https://www.u-aizu.ac.jp/information/2020Q4class.html> 2021年3月15日閲覧

³⁾ フィールドノートや資料を用いて、ある時代・場所の出来事を描く社会学や文化人類学で使用される研究手法。また研究者自身が体験・参加した出来事を描くものはしばしばオートエスノグラフィとも呼ばれるが、本論は今後の参考事例を残すことを主な目的としているために——もちろん可能な限り筆者自身のバイアスや研究視点を反省しつつも——、客観性を重視する「エスノグラフィ」として描くこととした。

で取り上げる学生支援（ただし授業内での支援は除く）を年表風にまとめたものである。なお本学では寄付をいただいたさい、寄付の公表の可否を確認させていただいているが、公表を辞退された個人・企業・団体様の寄付は記事となっていないため、実際にはこの表1よりも多くの寄付をいただいている。同様に、公表を辞退された皆様からの寄付に関しては、本論中でも言及を控えさせていただいた。

ただし学生支援のエピソードとして外せないと思われた寄付に関しては、改めて公表の可否を確認した上で、許可をいただけた寄付については言及させていただいた。これら公表を辞退された皆様の陰ながらのご支援も、より充実した学生支援を行う上で非常に大きな力となった。

なお会津大学には四年制のコンピュータ理工学部と二年制の短期大学部があり、学生支援、特に寄付していただいた食料品等の配布も両学部でそれぞれ実施された。しかし短期大学部での取り組みには筆者は関わっていなかったため、本論ではコンピュータ理工学部での学生支援や食料品支援に限定して記述した。

また本論で使用した主な資料は、会津大学公式ウェブサイト（特に「お知らせ」に掲載されたコロナ関係及び寄付についての記事）、筆者の日記、支援活動に伴い大量にやり取りされたメール、筆者が撮影した写真、事務局（学生課・企画連携課）提供の写真、学生課提供の各種資料、配布物、関係者への聞き取りなどである。また記録としての読みやすさと直感的な理解も重要と考え、本論ではなるべく多くの写真を掲載することとした。

表1 会津大学公式ウェブサイト掲載の寄付一覧（敬称略）⁴⁾

受取日	団体名・社名	寄付の内容
2020年		
4月30日	株式会社 河京	喜多方ラーメン等
4月30日	株式会社 石井商店 株式会社 リオン・ドールコーポレーション	白米 500kg
5月26日	喜多方ロータリークラブ	学生生活支援寄附金
5月26日	大連東軟信息学院	マスク 1,000枚
5月27日	会津よつば農業協同組合	会津産米（いなわしろ天のつぶ）1,000kg
5月29日	猪苗代ロータリークラブ	外国人留学生へ会津産米 30kg 入り 8袋
6月2日	さんべ農園	米 100kg（学食にて学生に提供）
6月3日	会津産学懇話会	寄附金（外国人留学生支援）
6月12日	福島発電株式会社	学生生活支援寄附金
6月16日	東洋システム株式会社（いわき市）	アルファ米 900食分、500ml 飲料水 648本等
6月23日	会津土建株式会社	学生生活支援寄附金
7月1日	会津産学懇話会	学生生活支援寄附金
7月2日	湯川村	湯川産米 120kg
7月21日	社会福祉法人 会津若松市社会福祉協議会	学生生活支援寄附金
2021年		
1月27日	会津産学懇話会	寄附金（新入生の生活支援のため）

⁴⁾ 会津大学公式ウェブサイト「お知らせ」掲載の各記事 <https://www.u-aizu.ac.jp/information/news/>
2021年3月9日閲覧・作成（2021年4月1日閲覧・修正）

表 2 会津大学の学内における学生支援（敬称略）

2020 年	
4月中旬～	PC-AIDによる学生へのPC貸し出し
4月28日	ASAP第1弾（樗での白米配布）予約開始。 ASAP第2弾のための保存食寄付を全教職員にメールで呼掛け。これを機に筆者が支援に参入
4月30日	株式会社河京からのラーメン・チャーシュー等の搬入 株式会社リオン・ドールコーポレーション・株式会社石井商店からの白米の搬入 ASAP第1弾、配布開始（5月1日、配布完了）
5月1日	ASAP第2弾（食堂での食料品配布）の会場設営
5月2日	ASAP第2弾、実施
5月2日	学生の経済及び生活状況を尋ねるWebアンケート開始 予約システム製作開始（5月8日以降は修学支援室に製作・運用体制が移行）
5月8日	学生支援ワーキンググループ結成
5月18日	ホッとライス、職員・学生支援WGで搬入
5月21日	予約システム完成
5月22日	ホッとライス予約開始（5月23日夕方、予約受付を停止）
5月25日	ホッとライス配布開始（6月5日、配布完了）
5月27日	会津よつば農業協同組合からの「いなわしろ天のつぶ」、職員・学生支援WGで搬入
6月11日	天のつぶ予約開始（6月14日、予約上限に達して受付終了）
6月15日	天のつぶ配布開始（6月30日、配布完了）
6月16日	東洋システム株式会社からのアルファ米等、職員・学生支援WGで搬入
7月2日	湯川村からの湯川米、職員で搬入 10時より職員・学生支援WGでアルファ米のセッティング アルファ米の予約開始、昼過ぎに予約上限100名に達して受付終了
7月3日	アルファ米、配布開始（7月16日、配布完了）
7月27日	湯川米等予約開始
7月28日	湯川米等配布開始（8月21日、配布完了）
2021 年	
3月1日	会津地方労働組合総連合、生活協同組合コープあいづから米・カップ麺他の寄付 学生へ配布告知（予約不要）
3月2日	学生課前にて米・カップ麺他の配布（当日配布完了）

食料品配布以前の学生支援と食堂

会津大学では3月31日に開催された全教員集会での意見交換を経て、開講は最大2週間、延期可能としつつもオンライン授業の準備が整った科目から順次開講、という基本方針が決定された。筆者の所属する文化研究センターにおいても、4月以降、授業運営に関するミーティングが重ねられ、コロナ禍での授業が始まった。たとえば文化研究センター所属の各教員は、例年、第一学期に主に新一年生を対象に、論理的な思考法と学術的な文章作成法を学ぶ基本推奨科目「アカデミックスキル1」を担当している。しかし新一年生の中にはパソコンに不慣れで、今後のオンライン講義に対応できない学生もいることが危惧された。そこでアカデミックスキル1の開講日は延期せず、第一回目の授業でZOOMのダウンロードや操作の方法を教えることで、コロナ禍でもっとも重要となるアカデミックスキルを身につけさせた。

加えて、文化研究センター所属の各教員も授業を通じた学生支援を試みていた。たとえば体育科目では、ソーシャルディスタンスを十分保ちつつ、校内での散策やグラウンドでの軽運動を実施し、新入生が安全に屋外に出たり、お互いに知り合えたりする機会を提供することで、学生の心身のケアにも努めていた（詳細は本号掲載の中澤・沖[2021]、沖・中澤[2021]を参照のこと）。

筆者も2020年度から、『人生100年時代』に向けた健康的なカラダづくり』及び「社会調査とICTによる地域サポートプロジェクト」という2つの課外プロジェクト（教員と学生が共同して一つのプロジェクトを実施する課外活動的な授業）を立ち上げたが、これらの授業でも遠隔授業に対応しつつ、学生支援を意識した取り組みを行った。

たとえば前者では、中国武術や格闘技をベースにした体づくりプログラムをZOOMで配信したが、授業後にZOOMで学生同士が自由に会話できる時間を設けた。さらにこの授業では履修外での追加募集も行うことで、より多くの学生に、自粛生活で不足しがちな運動とコミュニケーションを補う機会を提供しようと試みた（図1）。また後者は元々はICTを用いたまちづくりや観光に関するプロジェクトであったが、自粛で活動休止や新入生不足に陥った学内サークルのために、サークルのウェブサイト作成やオンラインサークル合同説明会の開催などを当面の企画内容とすることにした。

もっとも、前者は履修外での参加学生は2名のみであり、後者は5月にはサークル活動が制限付きながら解禁となったため企画中止となった。このように両プロジェクトでの学生支援は不首尾に終わったものの、これらは筆者が学生支援に関心を持つきっかけとなるものであった。

またオンラインでの学習環境を整えるための、全教員による学生支援も実施された。会津大学では24時間使用可能なコンピュータの演習室があるため、一部の学生はパソコンを所有していなかった。また当時、オンライン講義に適したスペックかつ手頃な価格のノートパソコンやタブレットは品薄状態にあり、さらに研究室配属前の1、2年生には、研究室経由でノートパソコン等を貸し出すことも困難であった。そこで各研究室が持つノートパソコンにセキュリティアップデートなどを施し、安全に貸し出せる状態にしたうえで、学生課経由で希望する学生へ貸し出す「PC-AID」活動が、有志教員を中心に進められた。なお最終的にこのPC-AIDの貸し出しを受けた学生は55名であった。

あいにく筆者の研究室には貸し出せる機器がなかったため、この活動には直接かかわることはなかったものの、この教員による学生支援活動は、後の学生支援ワーキンググループ結成のアイデアへとつながるものであった。

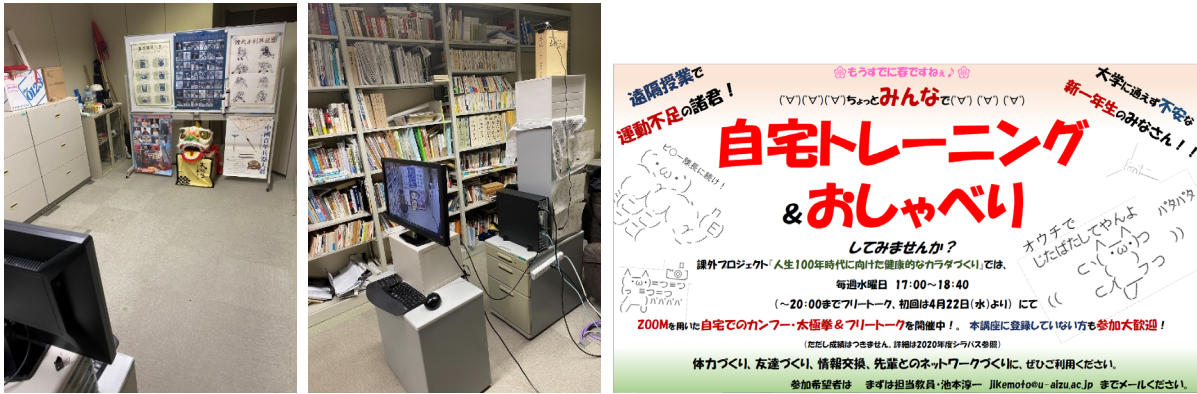


図 1 左：配信用スペースを確保。武術ポスターと中国獅子舞でスタジオの雰囲気づくり
 中央：配信セット。斜め上から筆者の全身が映せるように、棚と本でタワーを作ってカメラをセット
 右：履修外での追加募集のポスター。気分が晴れるように、明るく朗らかなコンセプトで作成

さらに新学期以降、学内の食堂も学年によって使用可能な時間を制限する、座席数を少なくする、営業時間を短縮する、などのコロナ対策を講じた上で営業が続けられていた。たとえば図2は感染予防のポスター、図3は食堂に続く階段ホールと食堂の様子であるが、これらの図からはユーモアを忘れずに、工夫をこらした感染予防対策が講じられていたことがわかるだろう。このように新学期以降も十分な感染症対策を講じつつ食堂が営業され続けたことが、後に食堂を食料品支援の会場とすることを可能にさせたと言えるだろう。



図 2 感染予防のポスター



図 3 左：階段ホールにつり下げられた特大ポスター 右：座席数を半分にした食堂の机

ASAP 第一弾及び ASAP 第二弾までの経緯

このように本学がコロナ禍での教育を模索していた一方で、ここ会津若松市でもアルバイトが激減し、学生の経済環境は悪化の一途をたどっていった。しかし当時はまだ政府による学生給付金も大学による経済支援も実施前であり、また4月27日には、ゴールデンウィーク中の帰省を含む不急不要の外出を自粛するよう呼びかけるメールが全学生に送信されたため、学生の経済状況や心身の健康状態が懸念された。そこでゴールデンウィーク中、十分な食事を摂り、少しでも明るく過ごしてもらおうと計画されたのが ASAP (Aizu Student Aid Project) 第一弾及び第二弾である。

ASAP 第一弾は、地元の大手スーパーである株式会社リオン・ドールコーポレーション様と会津米の専門店である株式会社石井商店様から寄付していただいた白米500g (5kg 入り 100 袋) の配布である。両社から寄付をいただけることとなった本学では、4月27日に学内の情報システムに受け取り希望者を募る告知を投稿し、翌朝にその内容が日本人及び永住者の学生へメールで送信された⁵⁾。この白米は4月30日の昼頃、本学に届けられ、同日の15時から学生に配布された(図4)。この第一弾では、合計で46名の学生に白米5kg入りの米袋を一袋ずつ配布することができた。

なお第一弾では「レストラン檣」(以下、檣)のテーブルの上に米袋を置いておき、学生は学生課から指定された時間帯に檣を訪れ、自分で米袋を持っていくという配布方法がとられた(図5)。ちなみに檣は学生課事務室と同じ2階フロアにあり、普段は立食パーティーなどを行うレストランであるが、コロナの感染拡大以降は営業を停止しており、現在は学生課事務室の密を防ぐため、一部のデスクをこの檣に移動して、臨時の事務室として使用されている。

⁵⁾ 会津大学では学生への情報は Campus Square などの学内の情報システムへアップロードされた後、その内容が個別に学生にメールされるようになっていたが、夜に投稿した場合は翌朝にメールが届けられる設定となっていた。これら情報システムの投稿を見つけて事前に予約をした学生も少数ながらいたようであるが、大部分の学生は配信されたメールを見て予約をおこなっていたため、本論では予約開始日は学生に個別メールが送信された日時とした。



図 4 株式会社石井商店様と株式会社リオンドール・コーポレーション様からの白米 500 kg とその搬入の様子
 写真出典：会津大学公式ウェブサイト「株式会社石井商店様と株式会社リオンドール・コーポレーション様による会津大学生への米の支援について」

<https://www.u-aizu.ac.jp/information/post-20171189.html> 2021年3月3日閲覧



図 5 ASAP 第一弾 ご飯のお供にカレーや漬物などもいっしょに配布した 写真提供：事務局

この第一弾と並行して計画・実施されたのが、ASAP 第二弾となる、食堂での食料品支援である。4月28日、宮崎敏明・会津大学学長から ASAP 第二弾「ゴールデンウィーク・ステイホーム支援」として、フリーズドライ、レトルト食品、インスタント食品、米、乾麺などの保存に適した食料品の寄付を募るメールが全教職員に送信されると、その日のうちに、学内各所に設置された「ASAP 寄付ボックス」に白米やカップラーメン、レトルトカレーなどの品が続々と届けられていった。

筆者もこのメールを見た後、筆者の調査フィールドである喜多方の方々からも何かご支援をいただけないかと考え、さっそく会津喜多方商工会議所の会頭を務める株式会社河京の佐藤富次郎様に相談させていただいた。これが筆者が以降の食料品支援に関わるようになったきっかけであるが、相談の結果、株式会社河京様から寄付をいただけることとなり、二日後の4月30日10時頃、生ラーメン・スープ約200食、チャーシュー等が佐藤社長自らが運転される車で本学に寄付された（図6）。こうして教職員と地元企業の皆様のおかげで、配布を前に十分な食料品を準備することが出来た（図7）。



図 6 株式会社河京様からの寄付とその搬入の様子

写真出典：会津大学公式ウェブサイト「株式会社河京様による会津大学生へのラーメン等の支援について」

<https://www.u-aizu.ac.jp/information/post-20171188.html> 2021年3月3日閲覧



図 7 寄付された食料品は、学生課事務室の奥の部屋に安置 写真提供：事務局

なお5月1日には会津大学公式ウェブサイトに、学生への支援金の受付先として「会津大学学生生活支援寄附金」についての説明が掲載され、同時に以後の食料品の寄付については、コロナ対策・リモート授業の準備等で非常に多忙となり、仕分けなどに人手が割けない状況にあるため、企業・団体による大口の寄付のみに限定させていただく旨も説明された⁶⁾。

また各方面から寄付をいただくようになったのもこの頃である。たとえば4月30日には、当時の喜多方ロータリークラブ会長・高橋周様から、筆者にクラブからの食料品支援の申し出をいただいた。しかしすでに上記の寄付の方針も固まりつつあったため、この申し出は辞退させていただくこととなったが、これがご縁となり、5月28日に喜多方ロータリークラブ様から会津大学学生生活支援寄附金へ寄附金が贈られた。

加えて、学内での配布ではなく、学生に直接、食料品をご支援していただいた店舗や企業もあった。例えば本田屋本店有限会社様には、会津大学生を対象に白米（本田屋継承米）と漬物、御菓子のセットを本田屋本店にて配布していただけることとなり、学生課から本学学生にメールを通じてその申込方法などを告知した。この他にも寄付の公表を辞退されたために言及は控えさせていただいているものの、いくつかの企業・店舗様から同様のご支援をいただいた。

⁶⁾ 会津大学公式ウェブサイト「新型コロナウイルスの感染拡大に伴い生活に不安を抱える学生の支援について（お願い）」 <https://www.u-aizu.ac.jp/information/post-20171187.html> 2021年3月15日閲覧

会場設置

こうして十分な食料品を集めることが出来たが、次の問題はこれらをどのように配布するかであった。当初は職員が食料品を一人分ずつ袋に小分けして学生に手渡すことも考えられていたそうであるが、筆者はすでにコロナ対応で多忙を極める職員にその余力はないように思われた。またどうせ配布するなら、学生の気分転換となるようなある種の「イベント」とするほうが良いと考えた。

会場のセッティングは配布前日の5月1日の14時から一時間程度行われたが、図8はその当日の朝に金子恵美子教授（学生部長）に筆者が送信したword原稿の一部（全4項）である。この原稿からもうかがえるように、食料品の配布はテーマパークのアトラクション待ちの行列や「つかみ取り大会」をイメージして設計された。

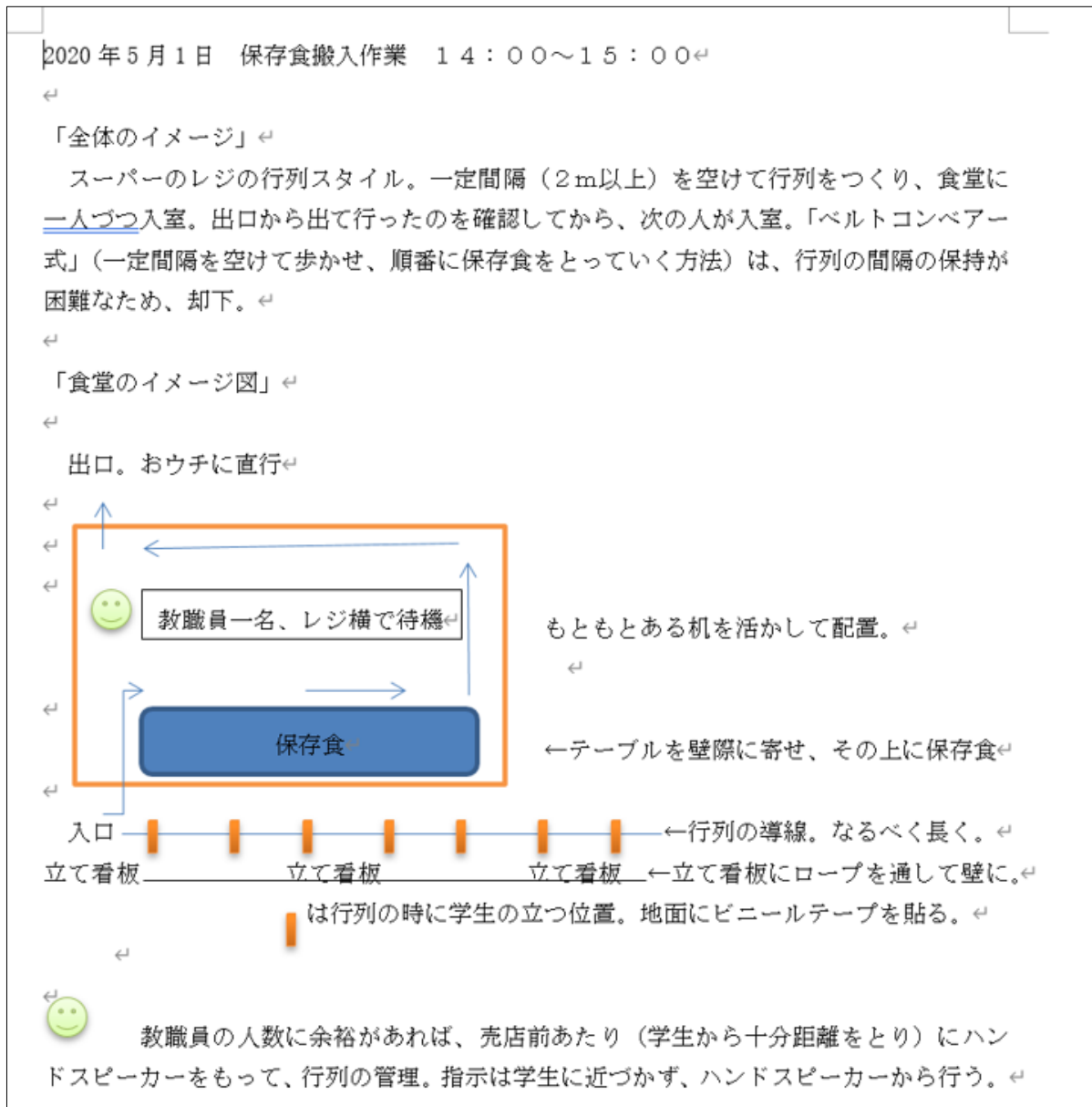


図8 食料品配布の設置イメージ

実際の会場設営では、食堂の食事スペースを入り口から見て手前と奥の半分に分け、入り口側に食品が陳列された。またテーブルとテーブルの間にイスを置いて通路を塞ぐことで、入口から出口まで一直線の導線を作り、誘導や指示は矢印の張り紙や説明書きで行った(図9~10)。

図11は当日、会場で張りだされた、会津の「什の掟」をもじった「食品配布 什の掟」である。この日本語の原案は池本が作成し、デザイン・レイアウト及び英訳は学生課が行った。また本学には中国人留学生も多いことから中国語版も作成した。図12~17は、陳列された食料品の数々であるが、これだけバラエティ豊かな食品が揃えられたのも、教職員、企業、団体のご支援のお陰であった。



図9 矢印で導線を指示

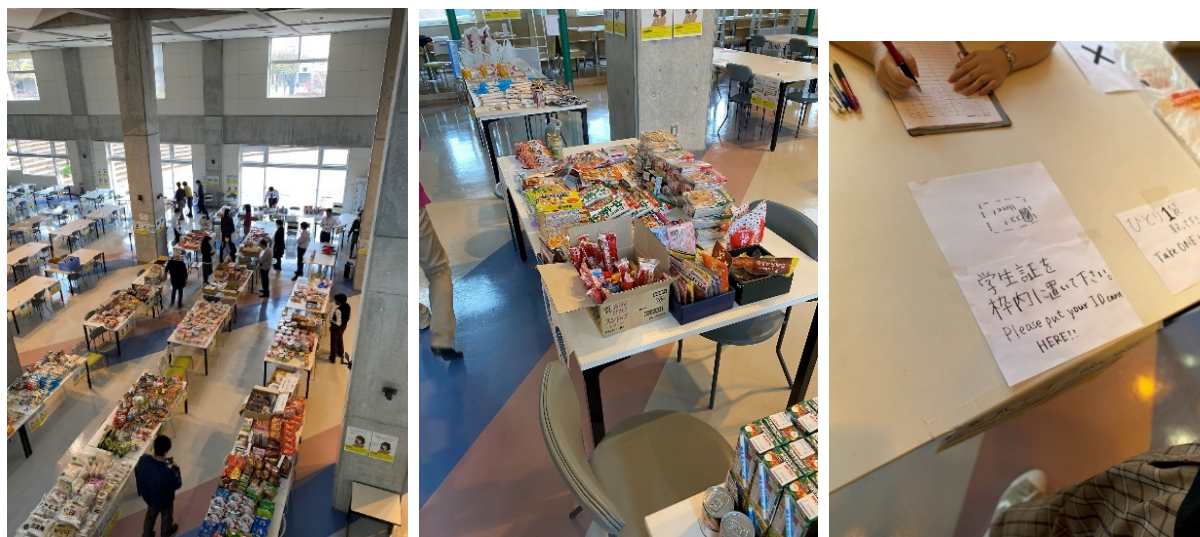


図10 左・中央：テーブルの間にはイスを設置

右：学生本人に学生証を机に置いてもらうことで、受付係が学生証に触れないように工夫

会津大学

じゅう おきて

食品配布 什の掟

- 一、 一度手にとったものは、必ずビニール袋に入れて、絶対に戻してはなりません。
- 二、 一種類のものを取りすぎはなりません。個数制限のあるもの（缶詰や喜多方ラーメンなど）は、決められた個数だけ取り、取りすぎはなりません。
- 三、 取り忘れたものがあったら、引き返してはなりません。
- 四、 長居してはなりません（目安は一人2分です）
- 五、 ならぬものはなりません、それはさておき、おうちでいっぱい食べてね！

UoA Rules for Food Distribution

- (1) Once you have picked up an item, be sure to put it in your bag and never ever return it to the table.
- (2) Do not pick too many items from the same table. If there is a limit to the number of items that you can take, (e.g. canned goods, Kitakata ramen), you can only take that much.
- (3) Even if you have forgotten to take some items, do not go back.
- (4) Do not stay in the room too long (2 minutes max).
- (5) You must strictly follow these rules ... but then, let's go home and enjoy eating!

会津大学

食品分配 規則

- ① 请您将触摸到的食品直接放到您的袋子里，绝对不可以放回原处或者您袋子以外的地方。
- ② 请您不要只多取同类食品。此外，有数量限定的食品（例如 罐头、喜多方拉面等等）请您按照规定的数量拿取。
- ③ 如果您有想取却又忘记取的食品，千万不要返回拿取，请您继续前进。
- ④ 请您停留时间不要过长（平均每人 2 分钟左右）。
- ⑤ 请您务必遵守以上规则，感谢您对预防工作的配合。

最后祝您身体倍儿棒，吃嘛嘛香。为了健康我们一起加油吧。

図 11 食品配布 什の掟 日本語版、英語版、中国語版



図 12 インスタント麺、缶詰は大人気ですぐになくなった



図 13 お米も大量に設置



図 14 インスタントの味噌汁、牛丼、カレー。「ご飯のお供」も充実のラインナップ



図 15 ソーメン、パスタ、小麦粉 お米以外の主食も充実



図 16 喜多方名物 喜多方ラーメン、チャーシュー、たまりせんべえ

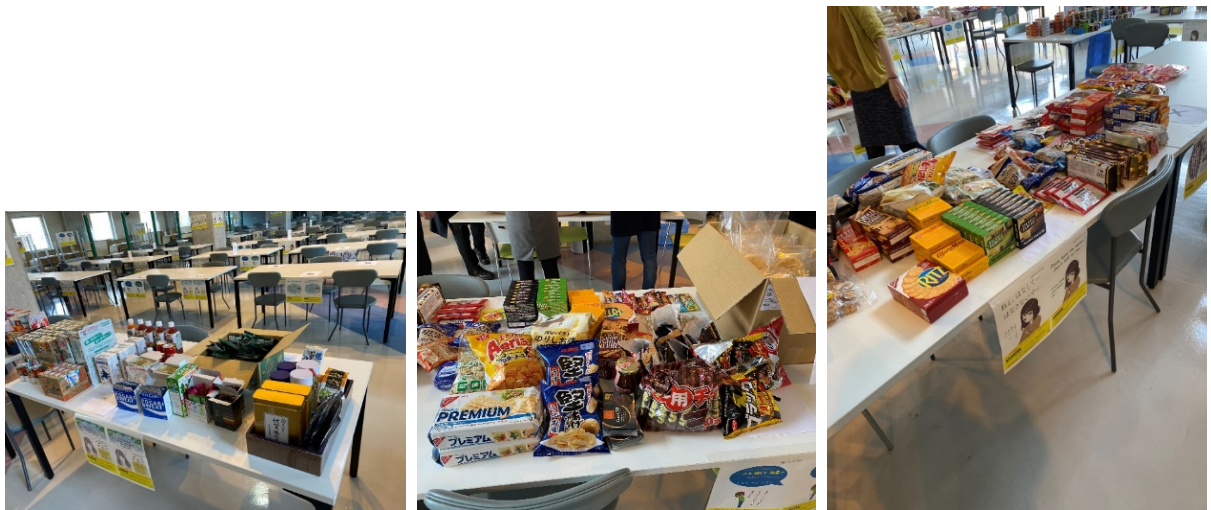


図 17 お茶、ジュース、お菓子 心の栄養も大事

ASAP 第二弾、食料品配布当日

5月2日、これら十分な準備のもと、ASAP 第二弾の食料品支援が実施された。配布は10時からであったが、開場前からすでに多くの学生が詰めかけていた。当日は朝から気温が高く熱中症の危険性もあったため、先に会場入りしていた職員の機転により、食堂の外周から食堂奥のスペースに待機場所を変更したという。筆者が会場に着いたときには奥のスペースに多くの学生が着席していたが、このエリアにも机とイスを用いて行列の導線をセッティングした。

なお開場前には学生は間隔を空けてイスに腰かけていたため、十分なソーシャルディスタンスを保てていた。しかし開場後、列が動き出すにつれて立って待つようになり、徐々に学生同士の間隔も短くなっていった。そのためイスに座って待つように指示し、以後は終了まで十分な間隔を維持することができた(図18)。また待機スペースに入りきれない学生には会場外に列を作って待ってもらったが、当日は予想以上の長蛇の列が出来たため、教職員が適宜、列の間を空けて待つように指示することで対応した(図19)。

このように会場前から多数の学生が集まってきたため、予定よりやや早い9時51分に食料品の配布を開始することになった。会場では食料品配布のスタート地点でビニール袋が手渡され、それに好きなだけ食料品を「詰

め放題」で持ち帰ってもらったが、米袋はビニール袋の分とは別に持ち帰ってもらった（図20）。

開場後は特に問題なく進んでいったものの、続々と学生が来場したために瞬く間に食料品が減少していった（図21～22）。このままでは食料品が足りなくなることが危惧されたため、10時10分、筆者が株式会社河京の佐藤社長に電話で追加のご支援をお願いしたところ、快くお引き受けいただいた。そして11時56分、生ラーメン・スープ・厚切りチャーシューがそれぞれ約800食、半生うどん120袋、その他多種多様な菓子類など、大量の追加支援を載せた、佐藤社長が運転する株式会社河京のワゴン車が本学に到着、この追加支援のお陰で最後まで学生に食料品を手渡せる見通しがついた（図23～24）。



図18 左：開場前、中央：開始直後、右：着席して待つ学生



図19 左：テープで位置を指定 中央：イスで距離を保つ

右：最後尾の看板を持つ職員。列は食堂への入場口からキャンパスの中庭を囲むように伸びていったが、開場前にはすでに研究棟近くにまで達していた。10時40分頃に筆者が確認しに行くと、行列はさらに体育館の側面にまで伸びていた。



図 20 食料品と白米をゲットし満面の笑みの学生
 ちなみに彼は一番乗りの学生で、朝6時からギターを弾いて待っていたという



図 21 食品配布の様子



図 22 みるみる食糧が減っていく。個数制限もさらに厳しくして対処するも間に合わず



図 23 希望の光、河京ワゴン到着。豊富な追加支援の食品たち



図 24 スタート地点でラーメン、チャーシューを配布

その後、14 時過ぎにはほとんどの食品がなくなり、14 時半頃には最後の学生にも——チャーシューのみであったが——食料品を配布することが出来、これにて配布は終了となった。14 時 30 分過ぎから撤収作業を開始、15 時頃には撤収作業を完了させて、長い一日が終わった。なお、当日の来場者数は 296 名であった。

アンケート調査

これらの ASAP の外にも、学生の窮状を明らかにし、緊急のサポートが必要な学生をピックアップするために、学生の経済及び生活状況を尋ねる Web アンケートが 5 月 2 日～10 日まで、SurveyMonkey を使って実施された。

なおこのアンケートには筆者も作成段階から関わり、調査後の分析も行った。しかしこのアンケートはあくまでも学生支援のために実施されたものであり、回答率が低下するのを懸念して研究使用の可否については回答者に尋ねていない。それゆえデータの公表は控えさせていただいたが、この調査結果からは、食料品支援の効果やニーズについて把握することができた。

ホッとライス配布のためのシステム構築と教員ボランティアの結成

ASAP 終了後、続いて福島県の災害対策課から、賞味期限が近付いていた、災害用米食セット「こまったときのホッと!ライス」(湯煎や電子レンジでの調理が可能な保存米。以下、「ホッとライス」と表記)を多数、会津大学に寄付していただけることとなった。ASAP 第一弾では「櫛」に準備した米袋を学生に取りに来てもらったが、少人数だったため密になることもなく、職員が一人一人に受け取りの時間を指定することもできた。しかし「ホッとライス」は配布数が膨大になることが予想され、学生が殺到して密になったり、受け取り時間の割り振りに膨大な労力がかかたりする恐れがあった。

そこで5月3日、筆者の良く知る学部生にウェブサイトでの予約システムの作成をお願いし、5月8日からはコロナ禍での修学支援の一環として、修学支援室の職員及びTAにこの予約システムの製作及び運営を担当してもらうこととなった。

図 25 はその予約システムのウェブサイトである。このシステムは Google の各サービス (Google サイト、Google カレンダー、Google フォーム、Google Apps Script) 及び SendGrid を用いて作成された。このウェブサイト内のカレンダーにはすでに予約が入った時間帯が掲示されており、本学学生が「予約フォーム」から予約の入っていない日時 (9時から16時40分までの20分刻みで設定) を選択して送信すると、学内メールアドレスに予約確認のメールが届いて予約が完了する、というシステムであった。また予約確認メールには「予約システムの使い勝手はどうでしたか?」「その他何かあればご自由にご記入ください」といった感想や意見を求めるアンケートへのリンクを掲載することで、利用者からのフィードバックも受け取れるように工夫した。さらにサイト下部にはトラブルや質問、予約のキャンセルに対応するために「質問フォーム」も設置され、それらの質問には修学支援室が対応した。加えて、修学支援室には受け取りに来た学生がカードリーダーに学生証をかざすことで、学籍番号と受け取り時間が記録されるシステムも製作していただいたが、これを用いることで無人での受け取り確認も可能になった。


また本学では留学生も多く、すべての公式メールには英語と日本語が併記されている。この予約システムも当然、日本語と英語併記が必須であったが、その翻訳を国際戦略室に担当してもらうことで、国際化にも対応することができた。

しかし食料品の会場搬入や品出し、「ホッとライス」が入った段ボール箱などの仕分けや廃棄には、どうしても人手が必要であった。そこで筆者が発起人となり、以降の食料品支援をサポートするべく、筆者の所属する文化研究センターの若手教員である沖和砂、小暮克夫、蛭名正司、網谷祐一、そして筆者により、「学生支援ワーキンググループ」(以下、学生支援WG)が5月8日に結成され、以降、それらの仕事を担当することとなった。

The University of Aizu

Food receiving day reservation site

会津大学食料品受け取り日予約サイト



We now received food supports from many people as relief supplies to the University of Aizu.

支援食品をいただきました

We now received food supports from many people as relief supplies to the University of Aizu.

We decided to take an advance reservations on our website in order to avoid the 3C's (closed spaces, crowded places, cross-contact setting) as possible and provide the food supports smoothly.

Your cooperation is appreciated.

会津大学生への支援物資として多くの方々から寄付が届いています。三密を避けつわーんでも多くの方にスムーズに支援の食料品を受け取っていただくために、ウェブサイト上での事前予約を実施することになりました。ご協力よろしくお願いいたします。

Food distribution starts on May 25, and reservation starts on May 21.

The pick-up place and date of the foods are as follows.
Location: "Keyski" restaurant on the second floor of the Student Hall
Date: Weekday, 9:00 - 17:00

If you would like to receive the food support, please choose the available date and time on the "schedule" screen below, and make a reservation on the "Reservation Form" below.

Reservation rules

- You cannot make a reservation on a date and time when it already has fill another reservation.
- You can make a reservation for the next day until 15:00 the day before.
- You can not make reservations at the same day and previous days.
- Multiple reservations should not be made.
- The next reservation will be accepted one week after the previous reservation date.

Please fill in your university's email address in the email address [redacted] will receive a confirmation email (It may take some time for the mail to deliver. If you can't find the mail, please check the spam-mail box. too).

After receiving the confirmation email, please reload this reservation page to confirm that the reservation has been made.

When your reservation is confirmed, please come to pick up the foods by yourself at that designated.

If you have any problems, questions, or cancellations of reservations, please contact us at "Question Form" under the reservation form.

配布開始は5月25日、予約開始は5月21日です。

食料品の受け渡し場所と日時は以下の通りです。
場所：学生ホール2階のレストラン「キーズキー」
日時：平日の9:00～17:00

受け取りを希望される方は、以下の「schedule」画面で空いている日時を確認した上で、下記の「Reservation Form」で予約を申し込んでください。

予約のルール

- 予約は24時間受付、ただし当日は予約不可、翌日の予約申し込みは前日15時まで。
- 複数日の予約はできません。
- 次回の予約申し込みは、前回の予約日時の一週間後から可能です。

メールアドレス入力欄には大学のメールアドレスを記入してください ([redacted])、そちらに確認メールが届きます (メールが届くまで時間がかかることがあります。届かない場合は迷惑メールフォルダもご確認ください)。

メールを受信後、この予約ページをリロードし、予約が完了されていることをご確認ください。

予約が確認できたら、各自でその時間に取りにきてください。

トラブルや質問、予約のキャンセル等がありましたら、予約フォーム下の「Question Form」にてご連絡ください。

schedule

2020年 4月

日	月	火	水	木	金	土	日
1	2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31	

予約状況 (例):

09:00 reserved	09:30 reserved	10:00 reserved	10:30 reserved	11:00 reserved	11:30 reserved	12:00 reserved	12:30 reserved
09:45 reserved	10:15 reserved	10:45 reserved	11:15 reserved	11:45 reserved	12:15 reserved	12:45 reserved	13:15 reserved
09:00 reserved	09:30 reserved	10:00 reserved	10:30 reserved	11:00 reserved	11:30 reserved	12:00 reserved	12:30 reserved
09:45 reserved	10:15 reserved	10:45 reserved	11:15 reserved	11:45 reserved	12:15 reserved	12:45 reserved	13:15 reserved

学生支援室の予約システム 日本語版

Reservation Form 予約フォーム

*必須

Email Address [redacted] 学内メールアドレス *

回答を入力

Preferred Date 希望日 *

日付

年 / 月 / 日

Preferred Time 希望時刻 *

選択

送信

Question Form 質問フォーム

If you want to cancel your reservation, or you didn't receive a confirmation mail, or you have any troubles, please contact us from this form.
予約キャンセルの希望、確認メールが届かない、その他トラブルなどありましたらこちらからご連絡をよろしくお願いいたします。

*必須

Email address ([redacted]) 学内メールアドレス *

回答を入力

Please write the question here. 質問事項をごちらにご記入ください。 *

回答を入力

送信

図 25 修学支援室に復元していただいた、予約当時の予約システムのウェブサイト

職員及び学生支援 WG による食料品配布

「ホットライス」の寄付以降も、さまざまな企業・団体から白米を中心とした食料品の寄付をいただき、順次搬入から配布までを行ったが、以下がその経緯と実施である。

5月18日、「ホットライス」224箱（6,720食分）が到着、学生支援WGと学生課で搬入を実施（図26～28）。ホットライスは段ボール一箱に30パック詰められており、災害時に用いる発熱剤と水も同封されていた。当初、パックをその日の予約人数分だけ、あらかじめ学生支援WGが段ボール箱から取り出して陳列しておくことも考えていたが、学生が一箱分を自分で空け、30パック分を持って帰ってもらうことにした。また空の段ボールや不要な発熱材も、学生自身に分別してもらって指定の台車においてもらうことにし、入室から退室までのルートに沿って立て看板に指示を書いておくことで、学生一人でも受け取りから片付けまでできるようにした。なお学生支援WGの仕事は毎日の配布終了後に、不要な段ボールを紐でくくってまとめ、指定された場所までもっていくことと、配布場所に出されたホットライスの段ボール箱の減り具合を見て、バックヤードから適宜補充することであった。

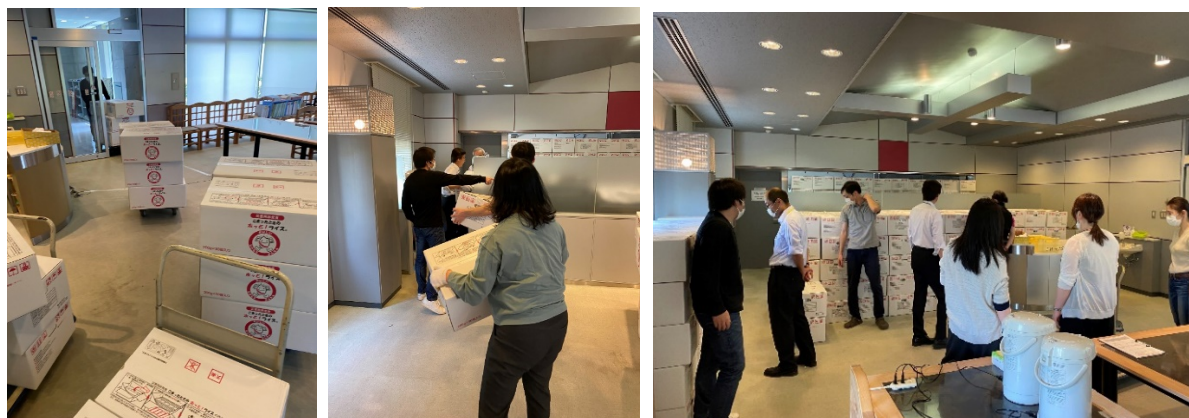


図 26 みんなで「ホットライス」搬入



図 27 左：バックヤード 右：配布場所



図 28 箱の中身 お米、水、スプーン、発熱剤など

5月21日夕方、予約システム完成。5月22日朝、学生に予約開始の個別メールが届けられる。当初は夏までに配布が終了すれば御の字だと考えていたが、いざ予約が始まると予想以上のスピードで予約が殺到したため、在庫数を考慮し5月23日夕方に予約受付を停止。表3はその予約状況のデータであるが、予約は152件、最終の予約日時は5月23日の15時32分となっており、予約停止前にはすでに予約が止まっていたようであった。

表 3 予約データ

予約日	5月25日	26日	27日	28日	29日	6月1日	2日	3日	4日	5日	合計
予約人数	24	24	24	24	23	16	6	5	3	3	152

なお予約受付終了後にやり取りされたメールでは「(筆者注：予約の申し込みが) はい、すごい勢いで！システム開発していただいて本当に助かりました。これを人手ではさばけなかったですよね。」「まったくです！こんな勢いでメールや電話が来ていたら、パンクしていたし、自由に持って行くシステムだったら人だかりができていました。開発チームに感謝です。」と、修学支援室への感謝の言葉が飛び交っていた。

5月25日、配布開始(図29)。12時過ぎに筆者が見に行くと、段ボールの箱の中にあつた長細い仕切りや底敷が乱雑に積まれていた。ためしにまとめてみると、仕切りの向きが異なったり絡まったりして非常に苦労した。そこで急遽、仕切りの向きと長さをそろえて積んでもらえるように、段ボールで囲いを作ったところ、まとめやすく置いてもらえるようになった(図30)。初日の片付けは筆者と沖和砂、学生課職員一名で17時から行い、30分ほどで終了した。以後の配布もこの調子で進み、毎日17時から学生支援WGと学生課職員2~3名で後片付けを行った(図31)。なお以降の食料品配布ではゴミはほとんどでなかったため、学生支援WGが毎日の品出しと後片付けを行ったのはこの「ホッとライス」配布の時のみとなった。

5月27日には会津よつば農業協同組合様から「いなわしろ天のつぶ」白米2kg入り500袋が寄付され、贈呈式の後、ホッとライス配布終了後に配布するために、バックヤードに安置した(図32)。6月5日、ホッとライス配布終了。残りの「ホッとライス」47箱は予備と短期大学の配布用とした。

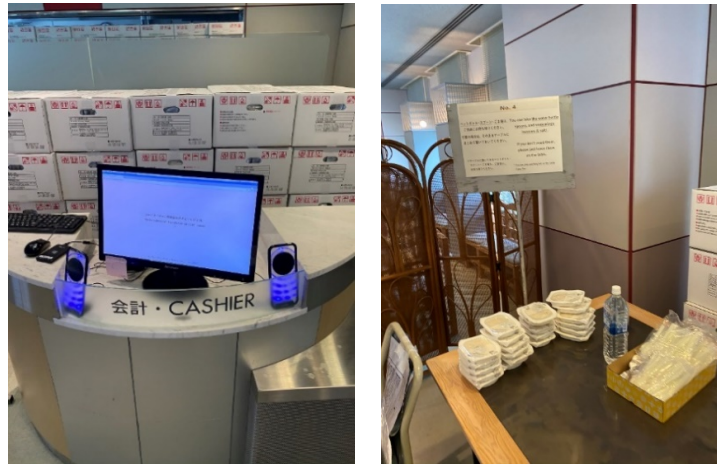


図 29 左：受け取り確認システム 右：看板に指示を書くことで無人化を達成



図 30 左：乱雑に積まれた仕切りと底敷 中央：段ボールで急遽、仕分けの囲いを作成
右：台車にビニール袋と段ボールの箱も直接積んでもらい、そのまま捨てられるように



図 31 一日の最後に、学生支援WGのメンバーで分担して廃棄



図 32 左・中央:「天のつぶ」は、ホッとライスと混ざらないようにひとまずバックヤードに安置
右: ホッとライス配布終了 残りは予備と短期大学部用に

6月11日、15時頃に学生支援WGと学生課職員で「いなわしろ天のつぶ」を擲に品出し。同日18時半頃に学内情報システムに「いなわしろ天のつぶ」の予約開始を掲載。なお時間がまだ早かったため、今回は学生へのメールは当日中に配信されたようである。また前回の予約殺到の教訓を踏まえ、今回は初めから予約受付の上限を設定した。6月14日、予約上限に達して受付終了。6月15日、「いなわしろ天のつぶ」を配布開始し、6月30日に配布完了(図33)。なお天のつぶは予め擲に品出しすることができ、ゴミも出ることがなかったため、この配布では学生支援WGによる毎日の品出しや後片付けは行っていない。

6月16日、東洋システム株式会社様より、アルファ米(五目ご飯とドライカレー)900食と500ml入りの水648本が寄付され、学生支援WGと職員で搬入してバックヤードに安置。7月2日、アルファ米の予約開始、上限100名。昼過ぎに予約上限に達する。同日には湯川米2kg入り60袋も寄付され、贈呈式の後、そのまま台車で職員のみで擲のバックヤードへ安置。10時より、学生支援WGと職員でアルファ米と水のセッティング(図34)。7月3日、アルファ米、配布開始(7月16日、配布完了)。なおこのアルファ米配布も特に後片付け、品出しは不要だったため、学生支援WGによる毎日の作業はなかった。

7月27日、湯川米60袋、そして前回の天のつぶの残り18袋の予約開始。ただし今回は学生支援緊急給付金を受けた日本人256名にのみメールを送信。予約上限は78人。7月28日、湯川米の配布開始(8月21日、配布終了)。なおこの湯川米等に関わる作業は職員のみで行われたが、この配布完了を以て、食料品支援はひとまず終了となった。

翌年2021年3月1日、会津地方労働組合総連合様、生活協同組合コープあいつ様から寄付していただいた白米3kg入り100袋、カップラーメン500個、各種レトルト食品等100食の配布が3月2日8時30分から開始されることが全学生にメールで通知された。3月2日、予約不要で先着100名に、一人につき食料品の詰め合わせ1袋、米3kg、カップ麺5個が学生課前のスペースにて配布されたが、当日12時頃までにはすべて配布が終了した。

以上が筆者が関わった食料品支援の概要である。



図 33 いなわしろ天のつぶ



図 34 アルファ米と水

おわりに

最後に、これらの取り組みをふりかえりつつ、本論を締めよう。本論で見てきたように、筆者は偶然、学生支援に関わることとなり、学内及び地域の皆様のお力添えのおかげで、なんとか無事に役目を果たすことが出来た。しかし大学が学生に食料品を配るといふ、この先例のない取り組みを実施するにあたり、常に不安を感じていたのもまた事実であった。しかしそのさいに支えになったのが、災害支援やボランティアに関する研究の事例であった。今回の学生支援において、それらの事例を参考にした例は枚挙にいとまがない。この時ほど、人文社会科学の知見が現場に役に立つと実感できたことはなかった。

さらに普段、地域イベントや観光地で見聞きしていた、人を楽しませ、かつ、現場の労力を最小限に抑えるという、無数のノウハウも随所で活かすことが出来た。これもまた「研究の社会的還元」を実感できた出来事であった。

本論もまた、学生支援、災害支援に取り組む方々にとって、そして研究の社会的還元チャレンジする研究者の方々にとっての参照事例となれば、望外の喜びである。

謝辞

本学学生に、多大なるご支援をいただいたすべての個人、団体、企業の皆様、そしてコロナ対応で多忙を極める中、貴重な時間と労力を割いていただいたすべての教職員の皆様に、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

また寄付の公表を辞退されました個人、団体、企業の皆様の寄付内容や取り組みについては本論でご紹介できませんでしたが、本論で取り上げた支援同様、学生支援に活用させていただきましたこと、厚く御礼申し上げます。

参考文献・出典

会津大学公式ウェブサイト <https://www.u-aizu.ac.jp/>

会津若松市公式ホームページ <https://www.city.aizuwakamatsu.fukushima.jp/>

沖和砂・中澤謙、2021、「体育実技におけるオンライン講義と対面講義の学習効果比較」、『会津大学文化研究センター研究年報』第27号（2019）、pp. 5-10.

中澤謙・沖和砂、2021、「体育実技科目における授業の再設計過程～新型コロナウイルス感染症への対応～」、『会津大学文化研究センター研究年報』第27号（2019）、pp. 93-100.

研究・教育・社会活動報告

網谷祐一（2019年2月～2021年1月）

1. 研究活動

著書

- 2020年12月『種を語ること、定義すること』勁草書房（単著）。A5、264頁。ISBN: 978-4-326-10288-4

研究論文

- 2019年3月 "The Effects of "L-S Reading" in English Extensive Reading Courses," HELES Journal, 18, pp. 51-65. DOI: 10.24675/helesje.18.0 51 [査読あり]

研究発表

- 2020年6月「英語教育研究から見た哲学教育」、科学基礎論学会、東京工業大学、東京。
- 2019年8月「ノー・ニューロン、ノー・スタディ・オブ・マインド?」、日本進化学会シンポジウム「心の進化の神経基盤」、北海道大学、北海道。

その他

- 2020年12月「哲学が「ガン治療」に役立っていた…哲学の「科学への貢献」をご存知ですか?」、現代ビジネス、講談社。URL: <https://gendai.ismedia.jp/articles/-/78398>

2. 教育活動

会津大学における担当授業（2020年度）

- アカデミックスキル1・2
- 哲学（日・英）
- 科学史
- 課外プロジェクト（「AI・ロボットと倫理」）

3. 社会活動

一般向け講演

- 2021年1月『『種』に交われば明るくなる！～生物学者のタテマエとホンネに科学哲学者が迫る～』、本屋B&B（オンラインイベント）。[岡西政典氏、三中信宏氏とのトークイベント]
- 2020年10月「哲学カフェ：みんなで哲学をしてみよう」（全二回）、會津稽古堂（会津若松市生涯学習総合センター）。
- 2020年9月「論文指導I」、みらいづ探究ラボ、會津稽古堂（会津若松市生涯学習総合センター）。
- 2020年7月「研究とはなにか、どういう意味があるか」、みらいづ探究ラボ、會津稽古堂（会津若松市生涯学習総合センター）。
- 2019年9月「進捗状況を確認しよう!」、会津まちなかキャンパス、會津稽古堂（会津若松市生涯学習総合センター）。
- 2019年7月「研究とはなにか、どういう意味があるか」、会津まちなかキャンパス、會津稽古堂（会津若松市生涯学習総合センター）。

学外委員

- 日本科学哲学会理事、科学基礎論学会評議員および企画広報委員、『科学哲学科学史研究』誌編集委員（以上至現在）、Contemporary and Applied Philosophy 誌編集委員（2020年5月まで）

池本 淳一 (2019年4月～2021年3月)

1. 研究

(学術論文)

- ・池本 淳一、2019、「喜多方レトロ横丁」における企画の概要とその変遷」、『松山大学論集』第31巻第1号、pp.103～143 (査読なし)
- ・池本淳一、2020、「伝統中国における禁武政策と民間武術の法的基盤 ——武器に関する禁令に着目して」、会津大学文化研究センター研究年報第26号2019, pp.37～53 (査読なし)

(著作等出版物)

なし

(競争的研究費)

- ・平成27～31年度 科学研究費補助金・基盤研究(B)。「近・現代東アジア武術の技法と思想の変容に関する国際比較：武術原理論の視点から」(研究分担者)

(その他)

雑誌掲載

- ・池本 淳一、2019～2020、「中国伝統武器の手触り」、BAB ジャパン『月刊 秘伝』2019年9月号～2020年8月号、全12回、毎号計2p (取材・文を担当)。

書評

- ・池本淳一、2020、木本玲一著『拳の近代——明治・大正・昭和のボクシング』、『社会学評論』Vol.70、No.4、pp.445～447

2. 教育・運営・FD活動

(担当授業)

- ・ アカデミックスキル1 /アカデミックスキル2
- ・ 社会学
- ・ 地域社会学
- ・ Sociology (集中講義)
- ・ 2020年度前期・後期 課外プロジェクト 社会調査とICTによる地域サポートプロジェクト
- ・ 2020年度前期 課外プロジェクト 「人生100年時代」に向けた健康的なカラダづくり (サークル顧問)
- ・ カンフー&ライオンダンスサークル

3. 社会貢献

(外部委員)

- ・2019.4～2020.3,会津美里町教育委員会点検及び評価における有識者会議委員
- ・2020.10～2021.3,会津喜多方商工会議所 事業推進アドバイザー

蛭名 正司 (2019年4月～2021年3月)

1. 研究活動 (著作・出版, 学会発表など)

【学術論文】

- ・蛭名正司 (2020) 教養科目アカデミックスキル1における学生の自己評価と授業実践2ークラス間の比較を中心にー 会津大学文化研究センター研究年報, 26, 29-35. (2020.3)
- ・蛭名正司・佐藤誠子 (2020) 算数授業における割合の問題解決を促進する教授法の効果ー「比例関係」と「具体的定義」に着目してー 教授学習心理学研究, 15, 70-80. (2020.5)
- ・蛭名正司・小野耕一・宮田佳緒里 (2020) 中学校理科における力の合成・分解ルールの適用を促す教授法の検討 教授学習心理学研究, 16, 1-14. (2020.10)
- ・蛭名正司・小野耕一 (印刷中) 湿度に関する問題解決の促進・抑制要因の検討ー中学校の理科授業を対象としてー 会津大学文化研究センター研究年報, 27. (2021.3 予定)

【報告書・資料等】

- ・蛭名正司・沖和砂・中澤謙 (印刷中) 2020年度会津大学新入生の生活と意識1ー基礎集計ー 会津大学文化研究センター研究年報, 27. (2021.3 予定)
- ・沖和砂・蛭名正司・中澤謙 (印刷中) 2020年度会津大学生の生活と意識1ー基礎集計ー 会津大学文化研究センター研究年報, 27. (2021.3 予定)

【学会発表】

- ・小野耕一・宮田佳緒里・蛭名正司 中学校3年理科の「力の合成・分解」に関する実践研究(1)ー授業プランの有効性の検討ー 日本教授学心理学会第15回年会予稿集, 16-17. (2019.6)
- ・蛭名正司・宮田佳緒里・小野耕一 中学校3年理科の「力の合成・分解」に関する実践研究(2)ープラン群の授業過程の分析ー 日本教授学心理学会第15回年会予稿集, 18-19. (2019.6)
- ・蛭名正司 数当てゲームへの参加が数学的証明の一般性の理解に及ぼす影響 日本教育心理学会第61回総会発表論文集, PC31. (2019.9)

【シンポジウム】「教科教育の心理学(3)教科教育の改善に資する授業実践研究, 実験・調査研究のあり方を探る」話題提供, 日本教育心理学会第61回総会自主企画シンポジウム(企画: 藤村宣之, 橘春菜, 石橋優美, 鈴木豪) (2019.9)

【競争的研究費】科学研究費補助金(若手研究)「内包量概念の統合的理解を促す教授法の開発とその教授学習過程の解明」(2019～2021), 研究代表者

2. 教育活動

教育心理学, 教育方法, 教育課程論, 数学科教育法1, 数学科教育法4, 教職実践演習, 教育実習1, 教育実習2, 教育実習事前事後指導, アカデミックスキル1, アカデミックスキル2, 心理学卒業研究, 課外プロジェクト「教師になろう!」

3. 学内運営 (委員会)

クラス担任(2年生), 生活状況調査WG, 学生支援WG

4. 社会活動

【委員等】会津若松市教育委員会点検及び評価における有識者会議委員, 会津若松市通学区域検討委員会委員, 会津若松市立一箕中学校学校運営協議会委員

【その他】会津Q-U学習会講師, オンライン学習会企画運営, 日本教授学習心理学学会編集委員会事務局

沖 和砂 (2020年4月～2021年3月)

1. 研究

(学会発表)

- Oki, K. (2020). Risk Points for Sports Injuries from Ski Equipment among Japanese Alpine Racers. The 2020 Yokohama Sport Conference. K04-P0325. (Online meeting)
- 中澤謙, 沖和砂. 大学固有の文脈の中での大学体育実技プログラムの再設計—会津大学における新型コロナウイルス感染症への対応—, 公益財団法人全国大学体育連合第9回「大学体育スポーツ研究フォーラム」. (Online meeting)
- 渡部琢也, 藤井勝紀, 小野覚久, 沖和砂, 可兒勇樹. 身長と体重のMPV年齢のズレから判断される東日本大震災のリスク分析. 一般社団法人日本生産管理学会第53回全国大会. (Online meeting)

2. 教育・運営・FD活動

(担当授業)

- 体育実技1 (3クラス) / 体育実技2 (3クラス) / 体育実技3 / 体育実技4 (スキー)
 - 保健体育理論 • 卒業研究 • アカデミックスキル1 • アカデミックスキル2
 - SCCP (A unique sport in Aizu) • 健康運動科学実習 (2クラス) (国立大学法人福島大学)
- (学内委員会)
- 図書委員会 • ハラスメント防止/対策委員会 (ハラスメント相談員)

3. 社会貢献

(外部委員)

- 福島県スキー連盟 (理事)
- (公財) 福島県体育協会 トップコーチ養成事業 (講師)
- (公財) 福島県体育協会 スポーツ医事/トレーニング相談事業 (講師)
- (公財) 福島県体育協会 ターゲット発掘事業 (講師)
- 福島県スポーツ指導者協議会 (理事)
- 人類働態学会 (事務局幹事)

(講演活動)

- 令和2年度福島県銃剣道連盟第1回指導者養成講事業講習会
「スポーツの発展と普及に必要な基礎知識」 2020.9.19
- 令和2年度福島県体育協会スポーツふくしまライジングプロジェクト「トップコーチ養成事業」専門研修I (メンタルスキル研修)「科学的知見を用いた選手のメンタルサポート」 2020.10.14
- 令和2年度公益財団法人福島県体育協会認定アスレティックトレーナー養成講習会
「スポーツ心理学・メンタルマネジメント」 2020.11.29
- 国民体育大会等に向けた公益財団法人福島県体育協会 令和2年度競技別強化合宿事業 (クロスカントリースキー競技)「ターゲット競技発掘事業」競技に向けたメンタルセミナー
「福島県チームとしての成果を発揮するために」「パフォーマンスを発揮するための目標設定」
2020.12.5

苅間澤 勇人 (2020年2月～2021年1月)

1 研究活動 (著作・出版, 論文, 学会発表)

- ・清水由佳・苅間澤勇人(2020). 紙上進路指導ケーススタディ キャリアガイダンス, Vol. 431, Vol. 432, Vol.434, Vol. 435, リクルート
- ・苅間澤勇人(2020). リレーメッセージ 令和時代の教育を語ろう これから10年の教育が30年先の未来を変える 『VIEW21』教育委員会版2019年度 Vol. 4, ベネッセ
- ・苅間澤勇人(2020). リレーメッセージ 令和時代の教育を語ろう Special 今こそ、創造的な学び手の育成を 『VIEW21』教育委員会版2020年度 Vol. 1, ベネッセ

2 教育活動

- ・教育入門 ・教師入門 ・道徳教育 ・特別活動 ・生徒指導・教育相談 ・情報と職業
- ・教育実習事前事後指導 ・教育実習1・2 ・教職実践演習 ・アカデミックスキル1・2

3 社会活動

(1) 会津大学公開講座

- 講義 第22回～第23回「これから10年先の教育を見据える教師の支援 (会津QU学習会)」
- 教員派遣公開講座

- ・会津若松市立行仁小学校
- ・喜多方市立第一小学校
- ・会津坂下町立会津坂下南小学校
- ・会津美里町教育委員会
- ・白河市立白河第三小学校
- ・矢祭町立矢祭小学校
- ・喜多方市立教育委員会
- ・会津坂下町立坂下中学校
- ・会津坂下町立坂下東小学校
- ・白河市教育委員会
- ・白河市立第二中学校

(2) 研究成果の還元 (研修会)

- ・岩手県 一戸町教育委員会
- ・山形県教育センター (生徒指導協議会)
- ・岩手県 洋野町教育委員会
- ・山形県教育センター (5年次研修会)

(3) 委員等

- ・福島県教育委員会 使用教科用図書選定審議会 (委員) (2018年度から)
- ・会津若松市教育委員会 学力向上委員会 (委員長) (2016年度から)
- ・喜多方市教育委員会 教育振興基本計画審議会 (委員長代理)
- ・白河市いじめ対策連携協力会議 (委員)

(4) 学会活動

- ・日本教育心理学会 社員 (理事)
- ・日本学校心理士会 年報査読委員
- ・日本学級経営心理学会 常任理事 (広報委員長, 査読委員)
- ・日本教育カウンセリング学会 常任理事 (事務局長, 査読委員)
- ・日本特別活動学会 理事 (紀要編集委員)
- ・日本教材学会 理事 (東北・北海道支部支部長)
- ・日本生徒指導学会 理事 (北海道・東北支部担当理事)

小暮 克夫 (2019年4月～2021年3月)

1. 研究

(学術論文)

- Kogure, Katsuo and Masahiro Kubo, “Consequences of Cambodian Refugees,” HIAS Discussion Paper E-XX, Hitotsubashi University, March 2021. (査読無)
- Kogure, Katsuo and Yoshito Takasaki, “GIS for Empirical Research Design: An Illustration with Georeferenced Point Data,” *PLoS ONE* 14(3): e0212316. (査読有)
- Kogure, Katsuo and Yoshito Takasaki, “Conflict, Institutions, and Economic Behavior: Legacies of the Cambodian Genocide,” Japan-ASEAN Transdisciplinary Studies Series 7, Kyoto University, April 2019. (査読無)

(講演・口頭発表等)

- Kogure, Katsuo, Comments on the Paper “Wartime Service Provision and State Legitimacy: Evidence from the former FATA Region, Pakistan” by Hidayat, Kubota, Kurosaki, Obayashi, and Ohmura, 日本経済学会 2020 年度春季大会, 九州大学 (Web), 2020 年, 5 月 30 日. (討論)
- Kogure, Katsuo, “Consequences of Cambodian Refugees,” SEASIA Biennial Conference 2019, Academia Sinica, Taipei, Taiwan, December 7, 2019. (招待)
- Kogure, Katsuo, “Consequences of Cambodian Refugees,” 日本経済学会 2019 年度春季大会, 武蔵大学, 2019 年, 6 月 8 日. (査読有)

(競争的研究費)

- 2020 年度～2024 年度科学研究費補助金 (基盤研究(C)). 「紛争と経済発展に関する実証研究」(研究代表者)
- 2018 年度～2022 年度科学研究費補助金 (挑戦的研究(開拓)). 「空間データと開発プログラム評価の統合」(研究分担者)
- 2018 年度～2023 年度国際共同研究加速基金 (国際共同研究強化(B)). 「熱帯雨林の保全と開発に関する学際共同研究」(研究分担者)

2. 教育・運営

(担当授業)・経済学 (日本語) ・経済学 (英語) ・経済発展論 ・アカデミックスキル1・2
(学内委員会)情報センター運営委員会、クラス担任

3. 社会貢献

(出前講義)

- 「超長期的視点から見た世界経済」福島県立会津高等学校 (1 年生, 2 年生), 2020 年 11 月 7 日 (外部委員)
- 日本貿易振興機構 (JETRO) アジア経済研究所 (研究会委員)
- 国際協力機構 (JICA) (アドバイザー)
- 会津若松地方広域市町村圏整備組合情報公開等審査会委員 (委員)

清野 正哉 (2020年4月～2021年3月)

1. 研究活動等

- ・AI(人工知能)を巡る問題・課題と今後の方向性について 会津大学 文化研究センター 研究年報 第26号 2019 P3-19

2. 担当授業科目・学内委員会・公開講座等

(担当授業科目)

- ・コンピュータ理工学部 専門教育「情報倫理」、
教養教育「日本国憲法」、「法学」
SCCP 公務員・教員試験対策講座・ベンチャー/コンテンツビジネス(今年度休止)

(学内委員会)

- ・学生支援委員会

(公開講座・教員派遣講座としての担当内容)

「AIの法律・倫理問題」、「安心・安全のための情報の取り方」、「学校教育における情報モラル」、「クラウドコンピューティングの法律問題」、「ソーシャルメディアと企業経営」、「ソーシャルメディアなどのインターネット及びスマートフォンの利用におけるトラブル・法律問題とその解決講座」、「地域活性化のための方法論」、「企業経営や事業化のための資金調達の方法論」

2-2 学外 担当授業科目

竹田看護専門学校 「看護と法」

3. 教育実践・地域貢献活動

- ・県内中小企業及び県外企業、NPO 法人、市町村からの相談多数 (相談内容の例 技術評価・技術マッチング、知的財産管理、著作権、商標・意匠事業、個人情報管理、企業経営戦略、資金調達、社内人材育成、ソーシャルメディア事業、新規事業戦略・方法、再生エネルギー事業、法令解釈 子ども子育て関係) (学外委員等)

- ・会津若松市行政不服審査会 会長
- ・会津若松市情報公開及び個人情報保護審査会 会長
- ・会津若松市子ども子育て会議 会長、会津若松市次世代育成協議会 会長
- ・喜多方市立小中学校適正規模適正配置審議会 会長
- ・福島県後期高齢者医療広域連合情報公開・個人情報保護審査会 委員

4. その他

- ・特許権 4747250号(代理人端末装置及び代理人端末装置の制御プログラム 2012年5月27日登録)更新中

中澤 謙 (2019年4月～2021年3月)

1. 研究

(論文)

- ・ 中澤謙, 久田泰広, 渡部琢也, 西原康行.(2020). 視線計測法を用いた保育者の観察力量を高める方法の開発①-注視の回数, 時間及び働きかけの内容-. 会津大学文化研究センター研究年報 Vol.26. pp21 - 28.

(学会発表)

- ・ 中澤謙, 久田泰広, 室井純子, 中澤幸恵, 渡部琢也, 西原康行.(2020). 自主シンポジウム「視線計測法を用いた保育者の観察力の共有化のこころみ」 日本保育学会第73回大会.

(研究発表)

- ・ 中澤謙, 沖 和砂 (2021). 「大学固有の文脈の中での大学体育実技プログラムの再設計～会津大学における新型コロナウイルス感染症への対策～」 第9回大学スポーツ研究フォーラム.

(競争的研究費)

- ・ 2020年度科学研究費補助金(基盤研究C). 保育実践場面における保育者の観察力量を高める方法の開発(研究代表者)

2. 教育・学内運営

(担当授業)

- ・ 体育実技1 (C2, C3, C5) / 体育実技2 (C1, C3, C5) / 体育実技3 / 体育実技4 (水泳)
- ・ 保健体育理論 ・ アカデミックスキル1 ・ アカデミックスキル2
- ・ 卒業研究 ・ SCCP (Human Body Motion Analysis Project)
- ・ 運動と健康 (短期大学部)

(学内委員会)

- ・ 教務委員会 ・ 衛生委員会 ・ WG on Online learning
- ・ カリキュラムワーキンググループ

3. 社会貢献

(講演等)

- ・ 「スポーツ科学」(講師) 公益財団法人日本体育協会 令和2年度公益財団法人福島県体育協会認定アスレティックトレーナー部会 2020年11月28日
- ・ 「安全水泳」(講師) 大熊町小学校 大野小学校 2020年6月5日
- ・ 第96回日本学生選手権水泳競技大会(上訴審判) 2020年10月1日～4日
- ・ 北部学生冬季公認記録会(競技運営) 2021年3月7日

(外部委員)

- ・ (公財)日本水泳連盟学生委員会北部支部(支部長)
- ・ 福島県スポーツ振興基金(理事)
- ・ 福島県スポーツ医・科学委員会(委員)

執筆者一覧（五十音順）

- 網谷 祐一 (A) 会津大学上級准教授（哲学・科学史）
- 池本 淳一 (P) (A) 会津大学上級准教授（社会学）
- 蛭名 正司 (P) (A) 会津大学准教授（教育心理学）
- 沖 和砂 (P) (A) 会津大学准教授（スポーツ健康科学）
- 小野 耕一 (P) 仙台市立柳生中学校（教諭）
- 荻間澤 勇人 (PF) (A) 会津大学教授（教育学）
- 小暮 克夫 (A) 会津大学上級准教授（経済学）
- 清野 正哉 (A) 会津大学上級准教授（法学・情報倫理）
- 中澤 謙 (P) (A) 会津大学上級准教授（保健学）

※ (PF)巻頭言 (P)論文 (A)活動報告

会津大学文化研究センター研究年報 第27号 2020

2021年 3月 31日 発行

発行 会津大学

郵便番号 965-8580

福島県会津若松市一箕町鶴賀

Fax 0242(37)2751S

編集 会津大学文化研究センター

